



CE 9.10
Cisco Webex
DX70、DX80
ユーザ ガイド

目次

このユーザ ガイドの内容

はじめに	
Cisco DX70 の紹介	4
このユーザ ガイドについて	4
Cisco DX80 の紹介	5
DX80 および USB ヘッドセット	5
Bluetooth ヘッドセットとのペアリング	6
資格情報を使用してログインする	7
Extension Mobility について	7
ビデオ通話	
連絡先リストから発信する	9
連絡先リストについて	9
発信する前に連絡先を編集する	10
エントリ編集について	10
名前、番号、または住所を使用して発信する	11
発信について	11
着信通話	12
着信があった場合	12
通話中に別の通話に応答する	13
オプションについて	13
通話の切断	14
自分で切断するについて	14
通話を保留にする/保留中の通話を再開する	15
保留について	15
継続中のコールを転送する	16
転送について	16
帯域を変更する	17
帯域について	17
応答不可を有効にする	18
応答不可について	18
すべての通話の自動転送	19
通話の転送について	19
通話中にキーパッドを表示する	20
通話中のキーパッドの使用	20
既存の通話に参加者をさらに追加する	21
ビデオ会議について	21
会議から参加者を切断する	22
ビデオ会議について	22

インテリジェント近接通信	
Cisco Proximity の超音波信号について	24
近接通信について	24
コンテンツ共有	
通話中にコンテンツを共有する	26
コンテンツ共有について	26
通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更	27
プレゼンテーション レイアウトについて	27
ミーティングのスケジュール	
ミーティングのスケジュールに参加する	29
ミーティングへの参加	29
Webex 会議への参加 <small>新規</small>	30
コンタクト	
お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ	32
連絡先リストについて	32
通話中に [お気に入り(Favorite)] に追加する	33
お気に入りについて	33
誰かを非通話時にお気に入りに追加する	34
この機能について	34
既存のお気に入りを編集する	35
この機能について	35
カメラ制御	
自画面のオン/オフを切り替えます	37
自画面とは	37
自画面 PiP の移動	38
セルフビューを移動する理由	38
遠端カメラ制御	39
カメラ操作について	39
設定	
アクセスできる設定の概要	41
設定の概要	41

この目次のすべての項目はアクティブなハイパーリンクになっており(javascript 対応の読み取りシステムのみ)、クリックすると該当記事に移動できます。

サイドバーのアイコンをクリックして他の章へ移動することもできます。

注:このユーザ ガイドで説明する機能のいくつかは、特定の市場ではオプションであるため、ご使用のシステムには当てはまらない場合があります。



はじめに

D1510427 ユーザ ガイド
Cisco Webex DX70, DX80
発行：CE9.10の2019年11月
All contents © 2010-2019
Cisco Systems, Inc. 全著作権所有



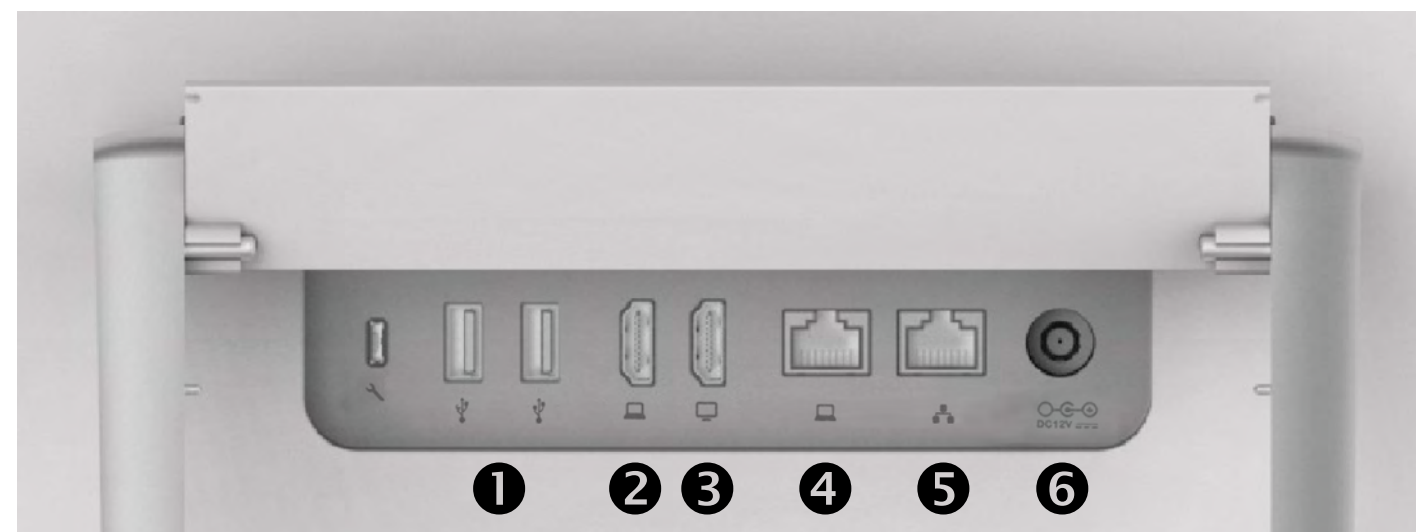
概要

Cisco DX70 の紹介

PC モニターとして使用します。HDMI ケーブルを使用してコンピュータを HDMI ソケット PC に接続します(以下を参照)。

PC モニタとビデオ画面を切り替えるには、画面をタップします。

[応答不可(Do not disturb)] が有効である場合を除き、モード(PC またはビデオ)に関係なく、着信が通常どおりに表示されます。[18](#) ページの「応答不可を有効にする」を参照してください。

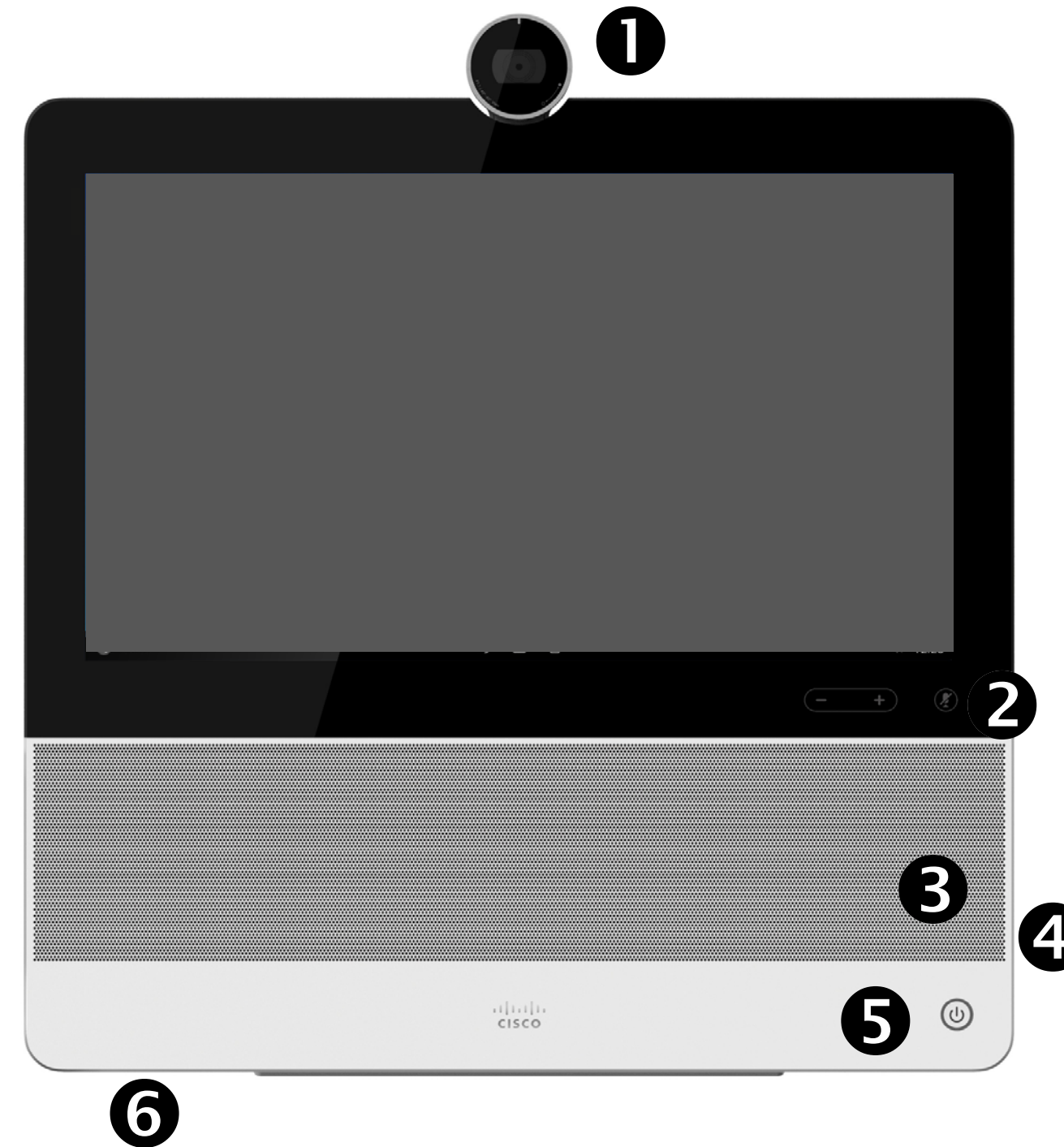


- ① USB ポート
- ② HDMI ソケット PC
- ③ HDMI ソケット外部モニター(未使用)
- ④ LAN 拡張接続。PC LAN をここで接続すると、Cisco DX70 と PC は同じ LAN 接続を共有できます。
- ⑤ LAN 接続
- ⑥ 電源ソケット

このユーザ ガイドについて

このユーザ ガイドは DX70 と DX80 の両方に当てはまります。両者のディスプレイは異なるサイズですが、画面に表示される画像はサイズ以外は同一です。

実際上、このガイドで使用されるスクリーンショットは、DX80 の図に挿入されています。



- ① プライバシー シャッター付きカメラ(閉じる場合は反時計回りに、開く場合は時計回りに回します)
- ② マイクフォンのミュート ボタンおよびスピーカーの音量コントロール
- ③ スピーカー
- ④ SD カード スロット、およびヘッドセットと USB 用のコネクタ。DX70 で Bluetooth ヘッドセットの使用がサポートされるようになりました。詳細については、2 ページ先を参照してください。
- ⑤ 電源オン/オフ
- ⑥ マイクフォン

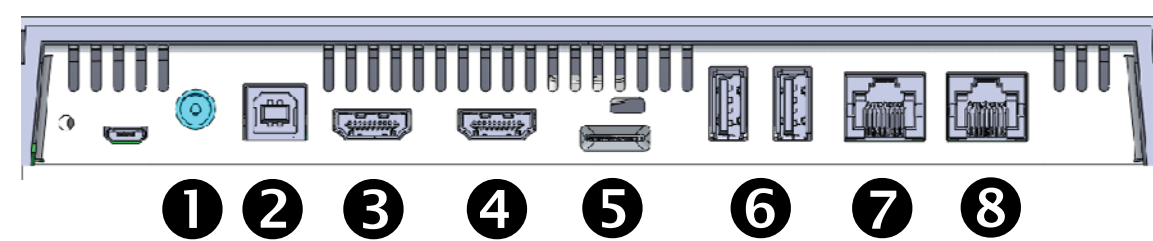
概要

Cisco DX80 の紹介

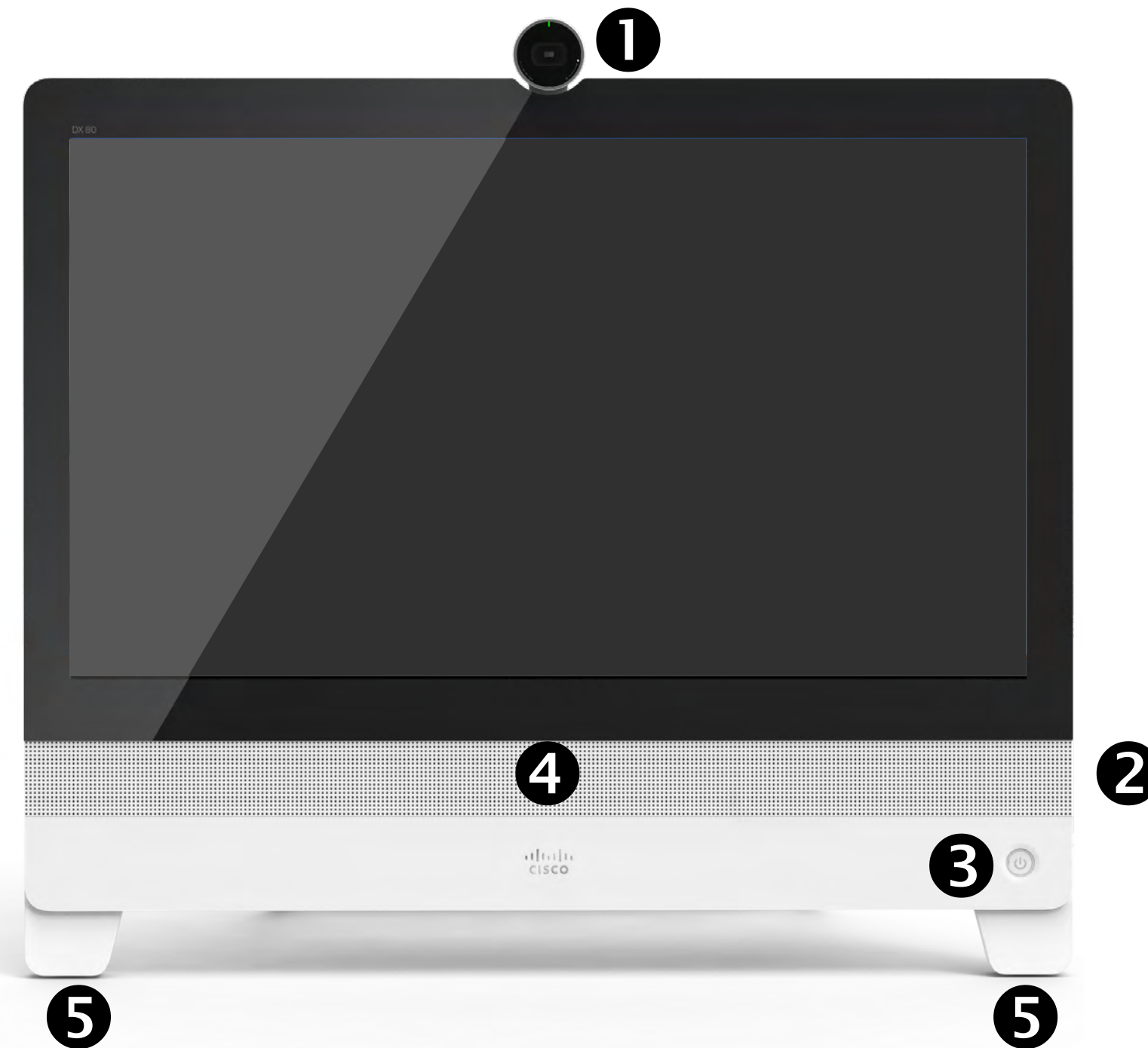
PC モニターとして使用します。HDMI ケーブルを使用してコンピュータを HDMI ソケット PC に接続します(以下を参照)。

PC モニタとビデオ画面を切り替えるには、画面をタップします。

[応答不可(Do not disturb)] が有効である場合を除き、モード(PC またはビデオ)に関係なく、着信が通常どおりに表示されます。[18 ページの「応答不可を有効にする」を参照してください。](#)



- 1 電源ソケット
- 2 USB(コンピュータ接続用)
- 3 HDMI(コンピュータ接続用)
- 4 HDMI 外部モニター接続(未使用)
- 5 SD カード スロットおよびケンジントン ロック
- 6 USB ポート
- 7 LAN 拡張接続。コンピュータ LAN をここで接続すると、Cisco DX80 とコンピュータは同じ LAN 接続を共有できます。
- 8 LAN 接続



- 1 プライバシー シャッター付きカメラ(閉じる場合は反時計回りに、開く場合は時計回りに回します)
- 2 マイクフォンのミュート ボタン、スピーカーの音量コントロール、および USB ソケット(ユニットの右側)。
- 3 電源オン/オフ
- 4 スピーカー
- 5 マイクフォン(各脚部分)

DX80 および USB ヘッドセット

DX80 は、USB 有線音声デバイス用の標準プロトコルを実装しています。

詳細については<https://help.webex.com/en-us/nkiifbo/USB-Headsets-and-Handsets-Supported-for-DX80>を参照してください。

DX80 では Bluetooth ヘッドセットの使用もサポートされています。詳細については、次のページを参照してください。

メーカーは、(HID プロトコルと呼ばれる)標準を独自に実装できます。

そのため、同じメーカー製のモデルでも動作が異なる場合があります。すべてのヘッドセットとハンドセットの動作を保証することはできません。

シスコがテストしたのは有線のヘッドセットまたは dongle を使用するヘッドセットのみです。

DX80 では Bluetooth ヘッドセットの使用がサポートされるようになりました。詳細については、次のページを参照してください。

提供されているヘッドセットのリストは包括的なものではありません。他の多くのヘッドセットが機能するはずですが、Jabra、Plantronics、および Sennheiser は独自にテストを実施し、DX80 をサポートしているヘッドセットの独自のリストを提供しているため、こちらも参照してください。

次のヘッドセットがシスコによってテストされています。

- ・ Jabra Evolve 40
- ・ Jabra Evolve 65
- ・ Jabra Pro 9450
- ・ Jabra Pro 9470
- ・ Sennheiser MB Pro 2

Bluetooth ヘッドセットとのペアリング

Bluetooth ヘッドセット

Bluetooth ヘッドセットは DX70 および DX80 でサポートされています。

サポート対象の Bluetooth プロファイル:

- ・ HFP (ハンズフリー プロファイル)
- ・ A2DP (高度なオーディオ配信プロファイル)

Bluetooth ヘッドセットは、組み込みの Bluetooth 無線または USB Bluetooth ドングルを使用することでサポートされます。

複数のヘッドセットをビデオ システムとペアリングできますが、一度に接続できるのは 1 つだけです。

範囲は最大 10 m(30 フィート)です。通話中にこの範囲の外に出ると、音声はビデオ システムのスピーカーに切り替わります。

ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中の場合は、ヘッドセットとビデオ システムの音量は同期しています。通話中でない場合は、ヘッドセットとビデオ システムの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能:

- ・ 着信通話に応答する
- ・ 着信通話を拒否する
- ・ 電話を切る
- ・ 音量アップ、音量ダウン

一部のヘッドセットにはミュート コントロールが備わっています。これはビデオ システムのミュート コントロールとは独立して動作します。

ペアリングを開始するには、[設定 (Settings)] をタップします。メニューに [Bluetooth 設定 (Bluetooth settings)] が表示されます。

USB Bluetooth ドングル

音声品質が向上するため、USB Bluetooth ドングルを使用することをお勧めします。ドングルの使用時には、ヘッドセットは USB ヘッドセットとして検出されます。

ドングルを使用する場合、ヘッドセットの音量とビデオ システムの音量が同期されません。

<https://help.webex.com/en-us/nkiifbo/USB-Headsets-and-Handsets-Supported-for-DX80>も参照してください。

Bluetooth ヘッドセットのペアリング

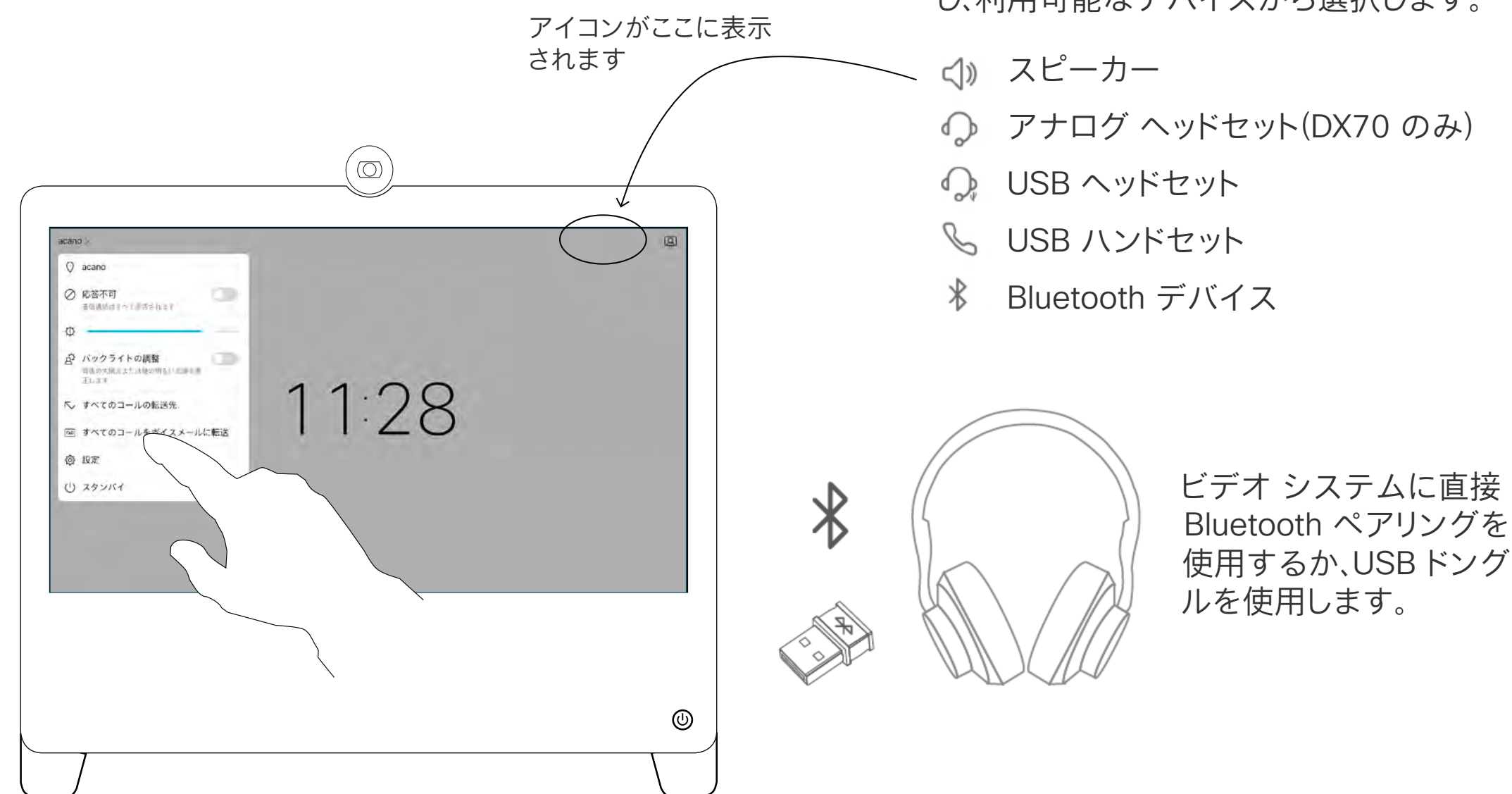
1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。確信が持てない場合は、ヘッドセットの取扱説明書を参照してください。
2. 左下で説明されている [設定 (Settings)] に移動します。[システム情報 (System Information)] メニューの詳細については、[40](#) ページの「設定」を参照してください。Bluetooth が無効になっている場合には、有効にします。Bluetooth はデフォルトで有効になっています。
3. ビデオ システムがデバイスをスキャンします。正常に検出されると、デバイスの一覧に Bluetooth ヘッドセットが表示されます。
4. デバイスを選択すると、ペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが正常に行われると、ビデオ システムはヘッドセットを接続済みとして表示します。これでペアリングが完了します。

ビデオ システムのスピーカーと、Bluetooth または USB で接続されたデバイスとを切り替えることができます。

ユーザ インターフェイスのステータスバーでアイコンを選択し、利用可能なデバイスから選択します。

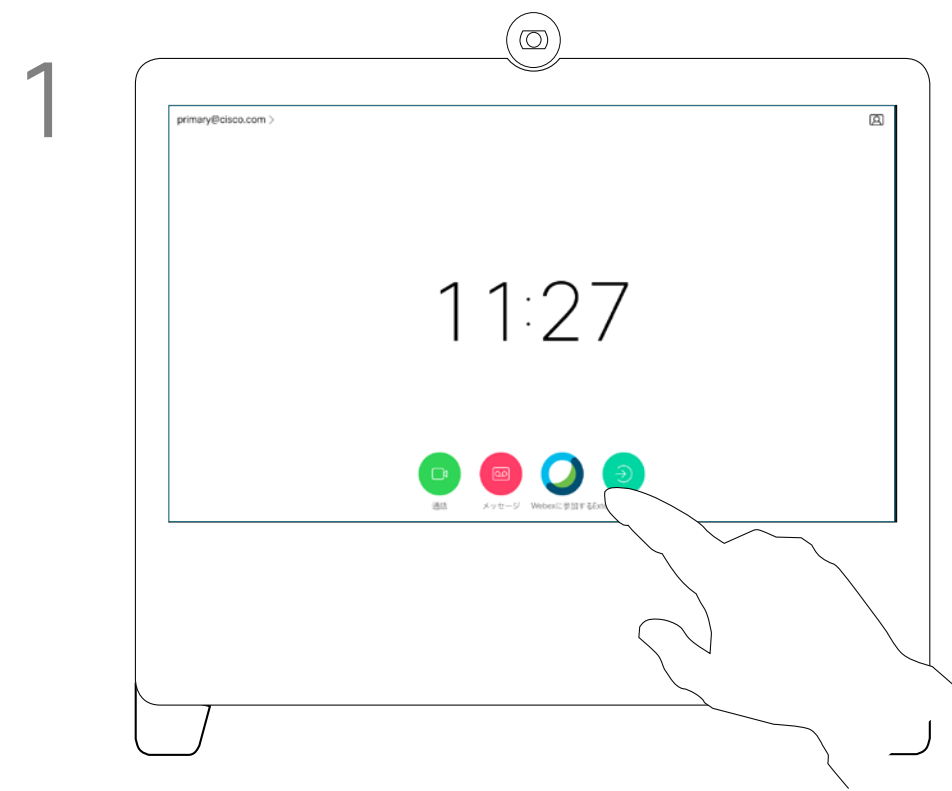
- 🔊 スピーカー
- 🎧 アナログ ヘッドセット(DX70 のみ)
- 🎧 USB ヘッドセット
- 📞 USB ハンドセット
- 📶 Bluetooth デバイス

ビデオ システムに直接 Bluetooth ペアリングを使用するか、USB ドングルを使用します。

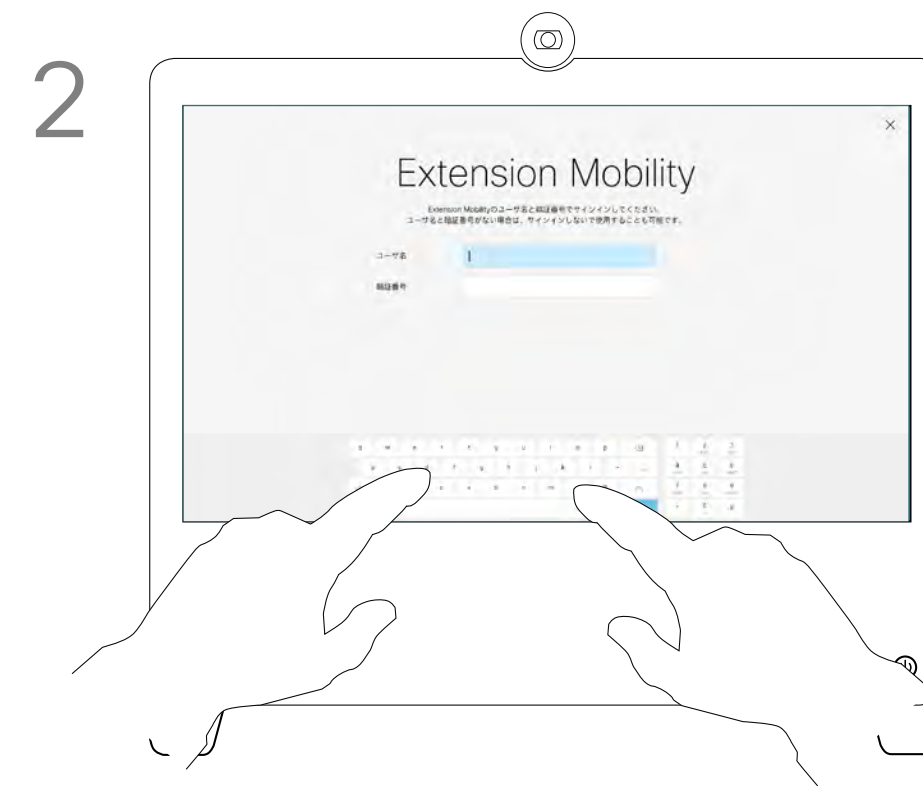


概要 資格情報を使用してログインする

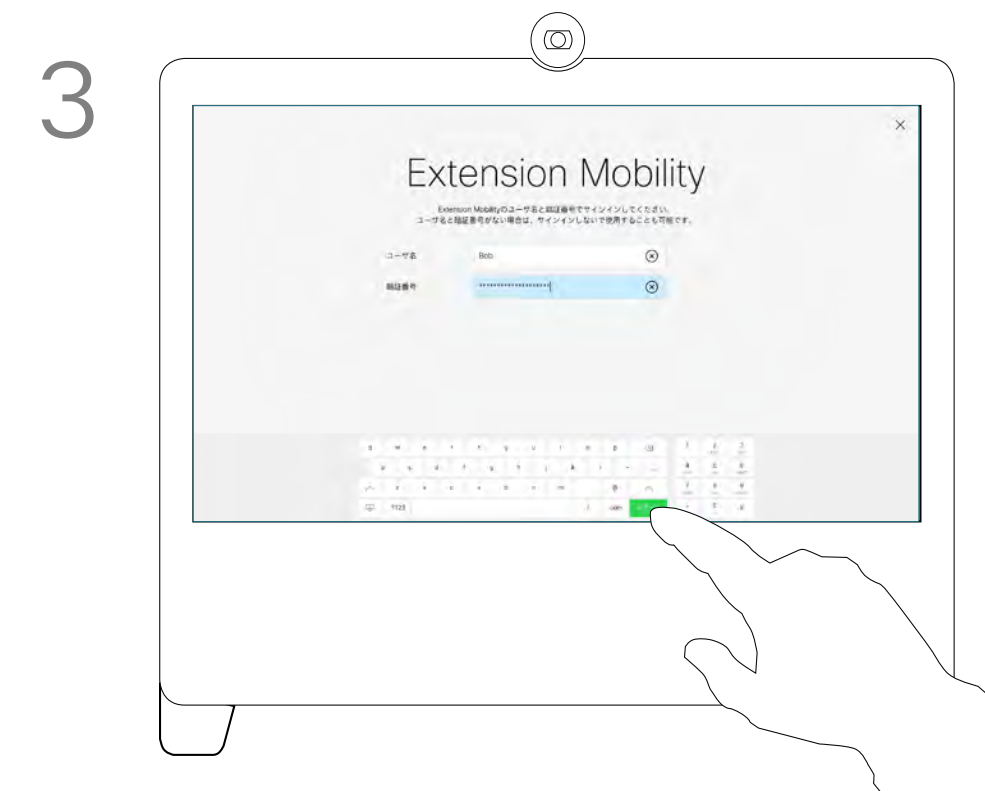
Extension Mobility について



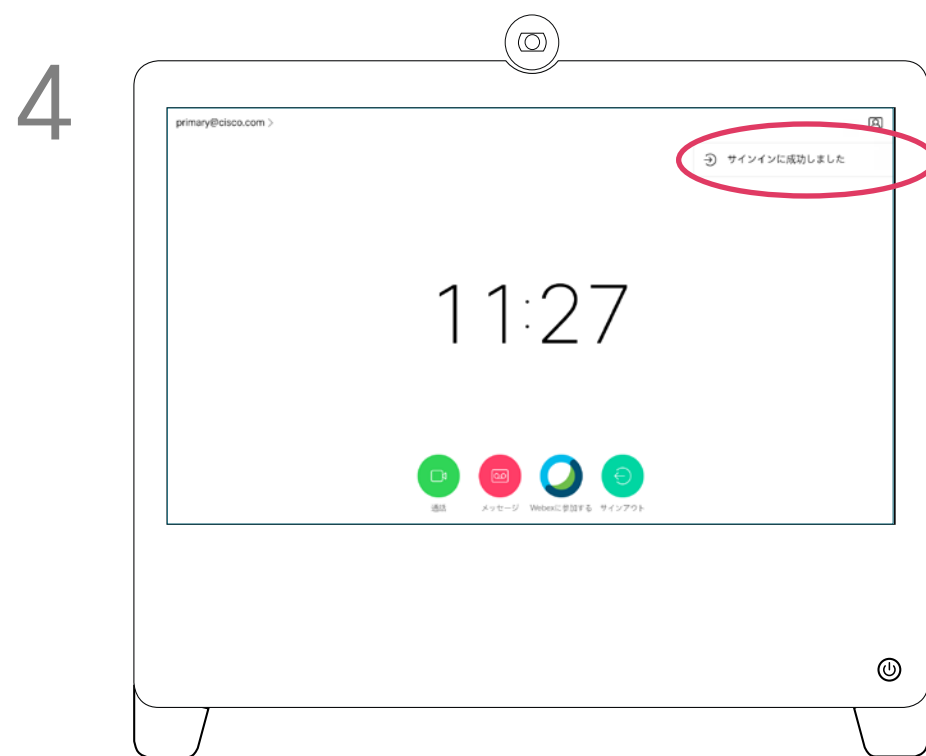
1 緑色の [エクステンション モビリティ (Extension Mobility)] ボタンをタップします。



2 ユーザ名と PIN コードを入力します。



3 [ログイン (Login)] をタップします。



4 サインインが正常に行われたことをシステムが確認します。



5 ログアウトするには、図のように [サインアウト (Sign out)] をタップします。

会議室や静音室に設置されているビデオシステム、および CUCM(Cisco Unified Communications Manager)で管理されているビデオシステムでは、ユーザ個人の資格情報を使用してビデオシステムにログインすることができます。

CUCM は、ユーザに対するすべての着信通話を特定のビデオシステムにルーティングします。

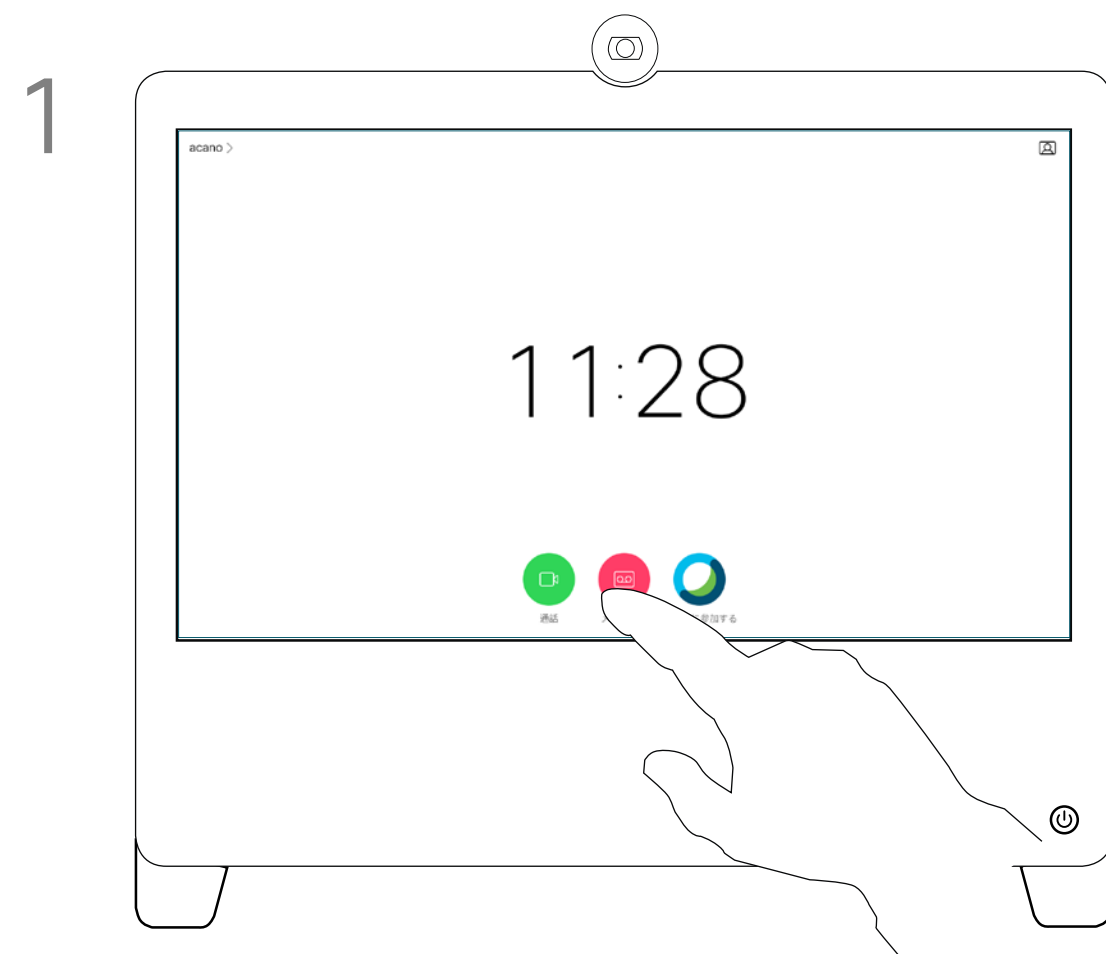
エクステンション モビリティからログアウトすると、[発着信履歴(Recents)] の一覧がシステムからクリアされます。

エクステンション モビリティはホットデスクングとも呼ばれます。

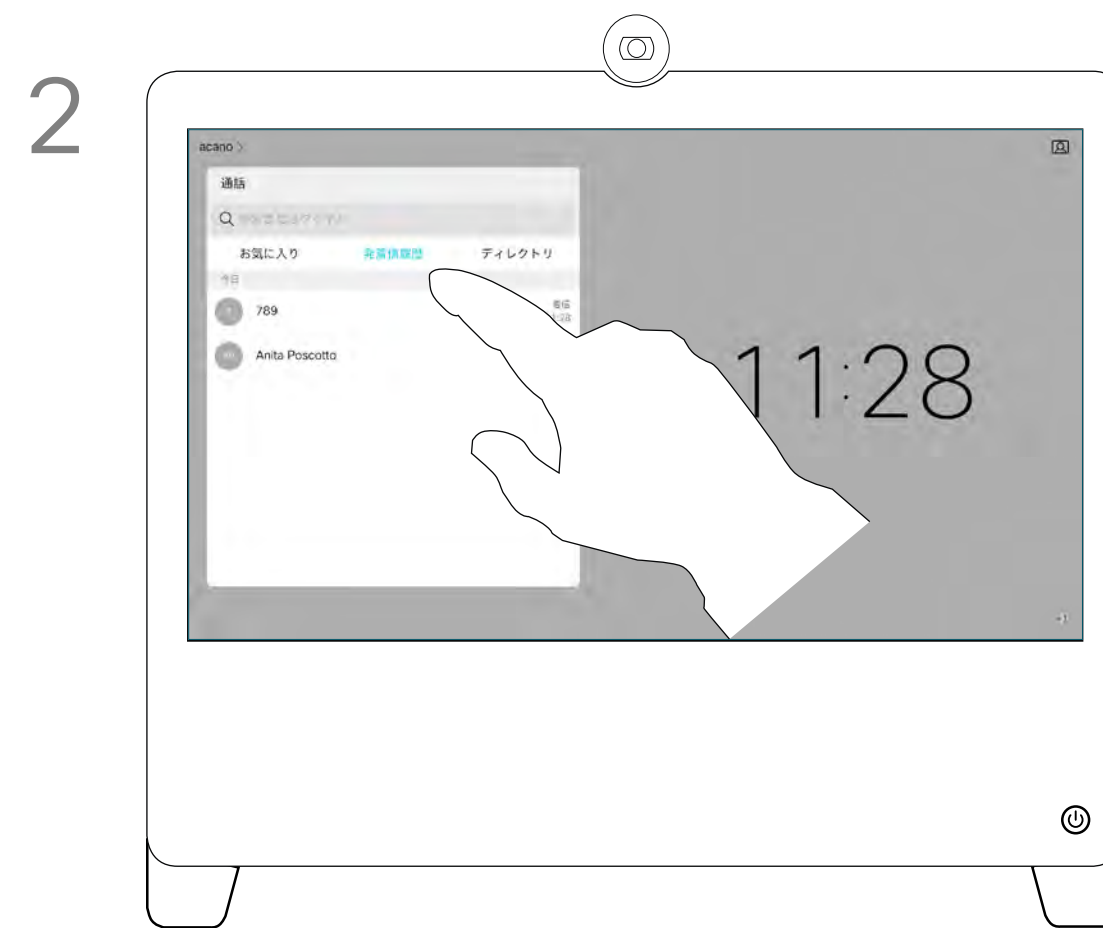


ビデオ通話

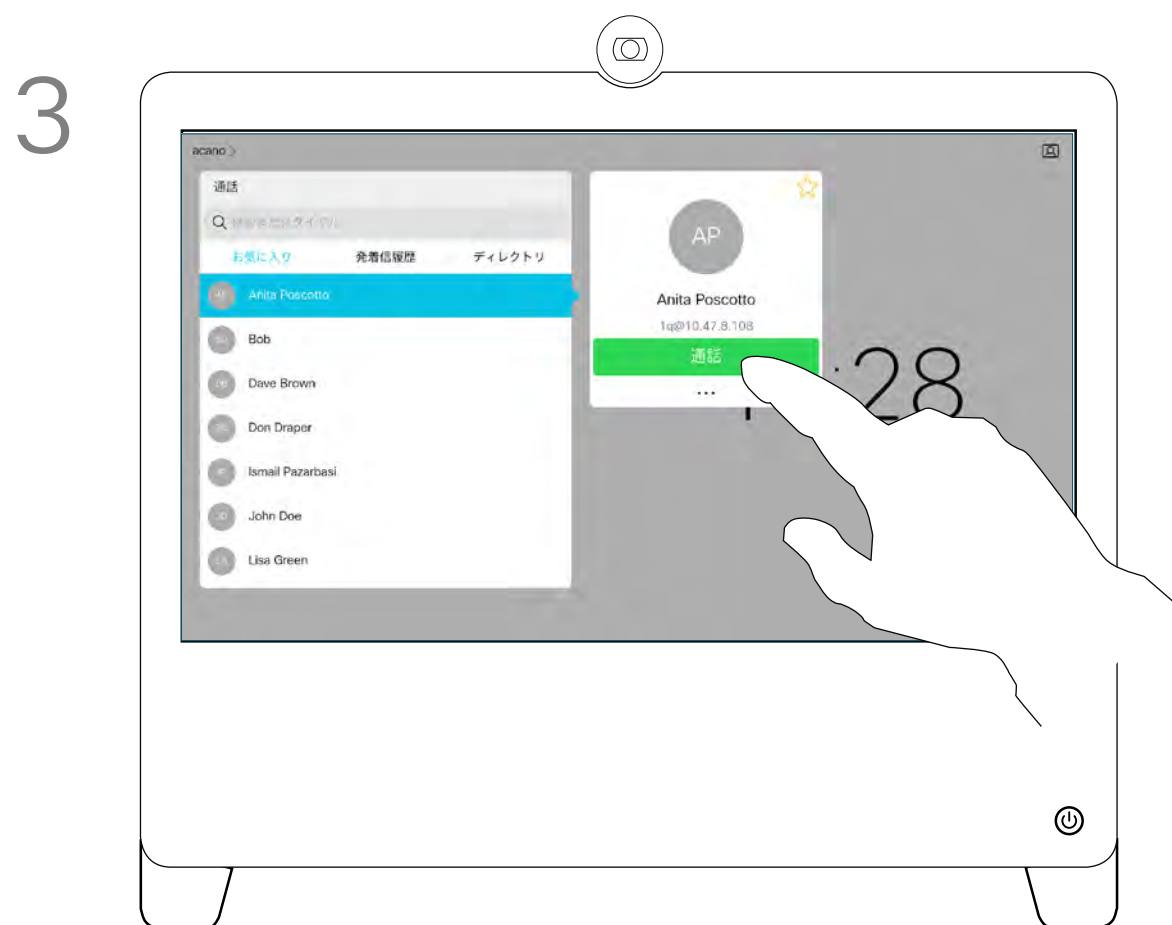
ビデオ通話 連絡先リストから発信する



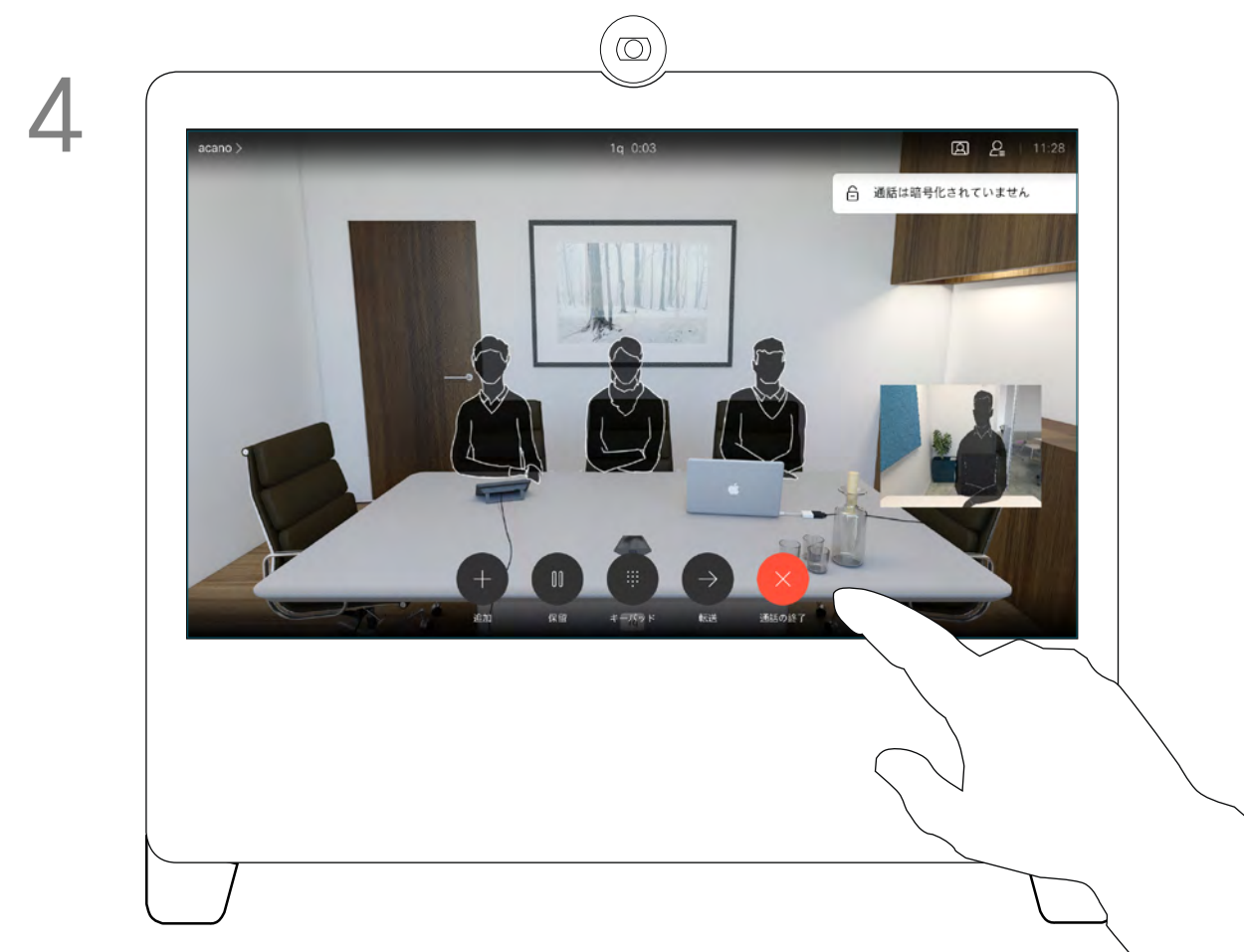
緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。



特定のリスト([お気に入り(Favorites)],[ディレクトリ(Directory)],または[発着信履歴(Recents)])で通話相手を検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールして発信するエントリを探します。



そのエントリをタップすると、緑色の [発信 (Call)] ボタンが表示されます。図のように、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。



通話が発信されます。通話を終了するには、赤色の [終了 (End)] アイコンをタップします。

連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

お気に入り。これらの連絡先は、ユーザ自身で登録したものです。これらの入力は、通常、頻繁に通話する連絡先や、それ以外に素早く簡単な操作でアクセスする必要がある連絡先登録するものです。

ディレクトリ は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

最近は、発信、受信、不在着信のリストです。

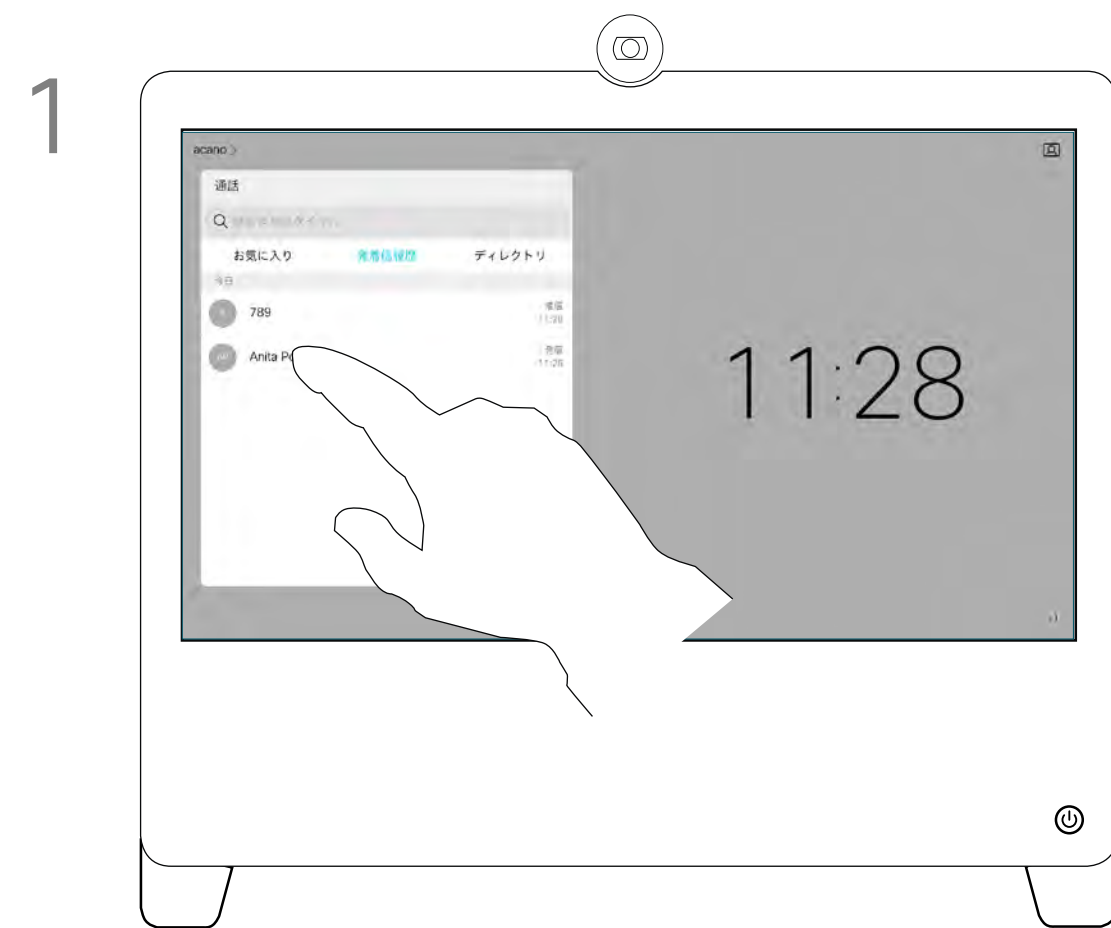
次のオプションが適用されます。

- ・ 名前、番号、または IP アドレスを入力すると、システムが自動的にユーザのすべての一覧を検索します。
- ・ [お気に入り (Favorites)] リストに追加したエントリは、発信の前に編集したり、帯域を変更したりすることができます。

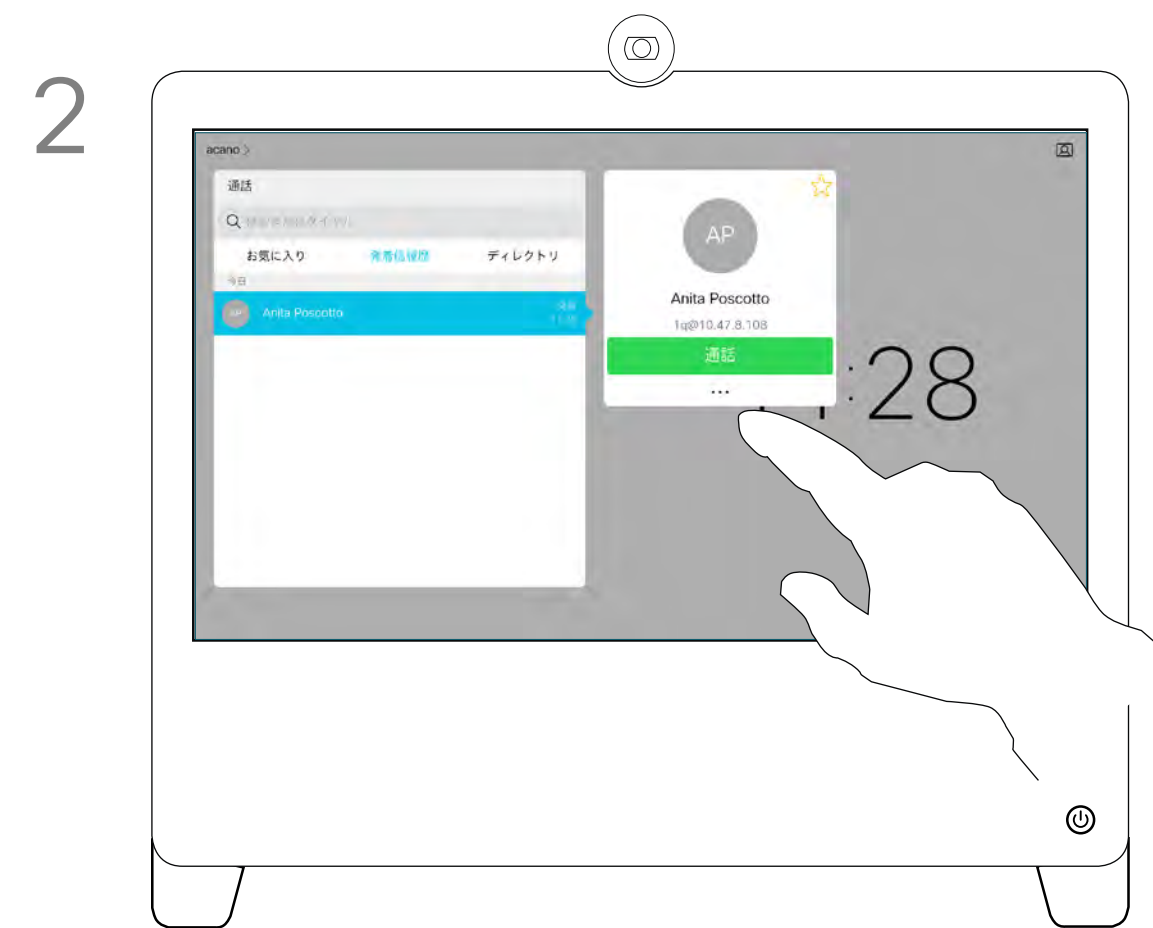
[発着信履歴(Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

ビデオ通話 発信する前に連絡先を編集する

エントリ編集について



コールを発信する前に、編集するエントリを検索します。エントリをタップします。[発信(Call)]メニューが表示されます。



緑色の [発信 (Call)] ボタンのすぐ下にある [詳細 (More)] ([...]) アイコンをタップします。



[編集して通話(Edit and Call)] をタップします。



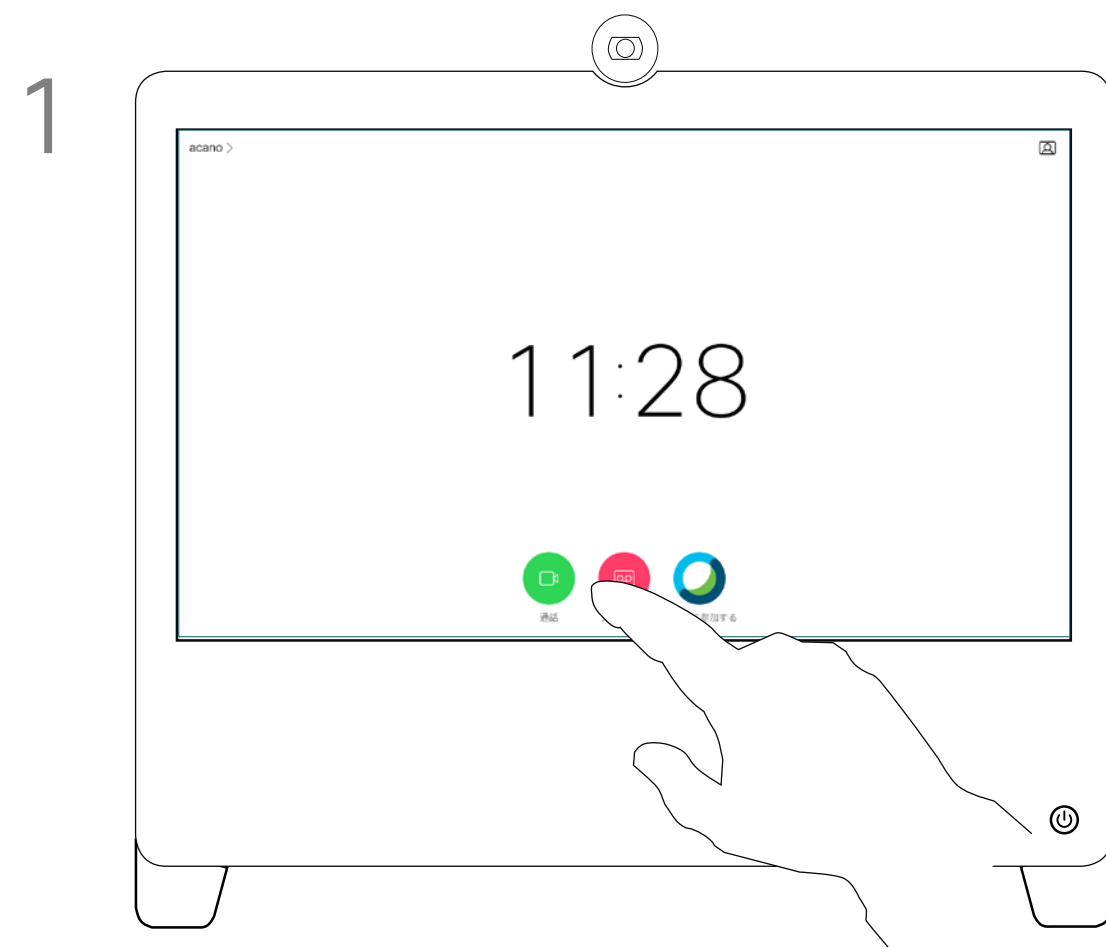
キーボードを使って編集し、緑色の [発信 (Call)] ボタンのどちらかをタップして発信します。

連絡先リストの入力方法については、前のページを参照してください。

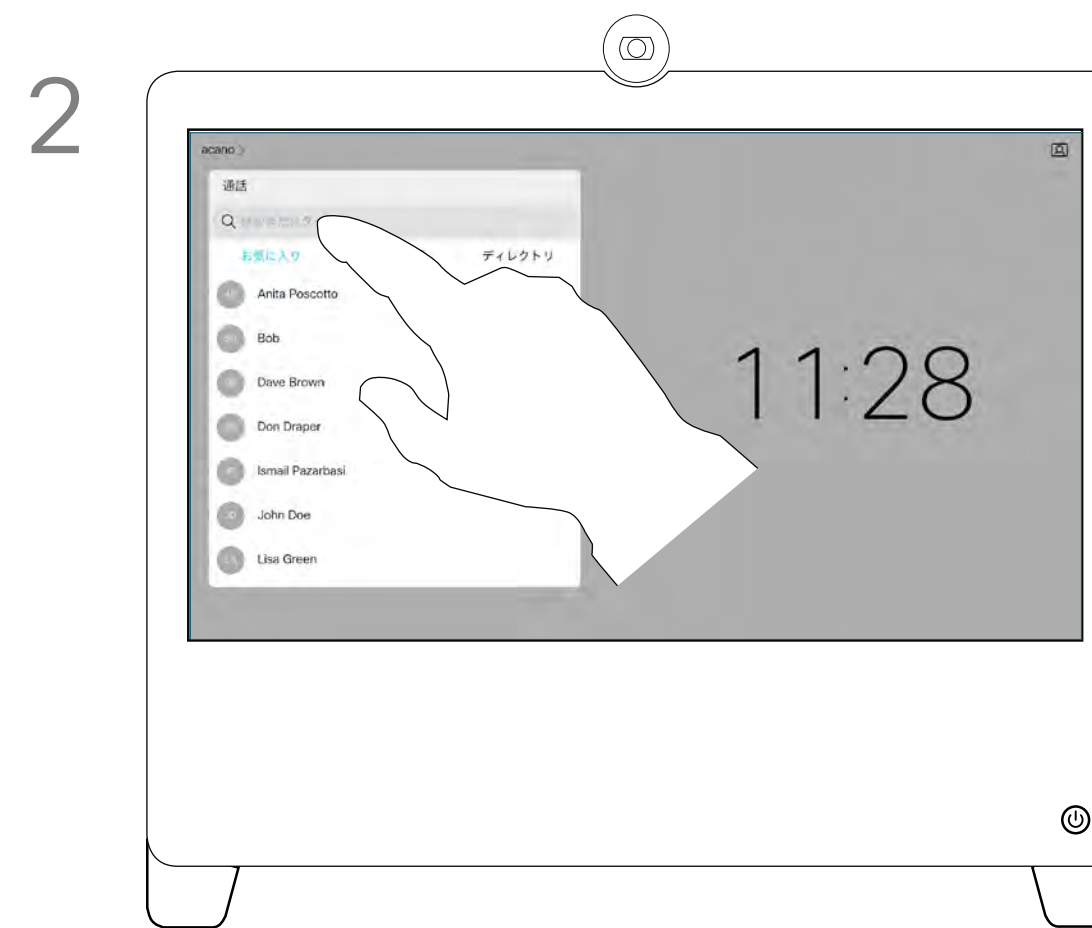
発信する前に、[連絡先] 一覧のいずれかのエントリの編集が必要な場合があります。また、プレフィックスやサフィックスを追加したり、それ以外では適切なエントリに変更する場合があります。

名前、番号、または住所を使用して発信する

発信について



緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。



検索とダイヤルフィールドをタップします。キーボードが呼び出されます。



名前、番号、または住所を入力します。ユーザの入力に合わせて、一致予測、予測候補が表示されます。一覧で求める連絡先が表示され場合はそれをタップします。それ以外の場合は入力が続けます。



通話先を入力し終えるか見ついたら、緑色の [発信 (Call)] ボタンのちらかかをタップして発信します。

連絡先リストにない人に発信するには、ディスプレイに表示される仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号を入力します。

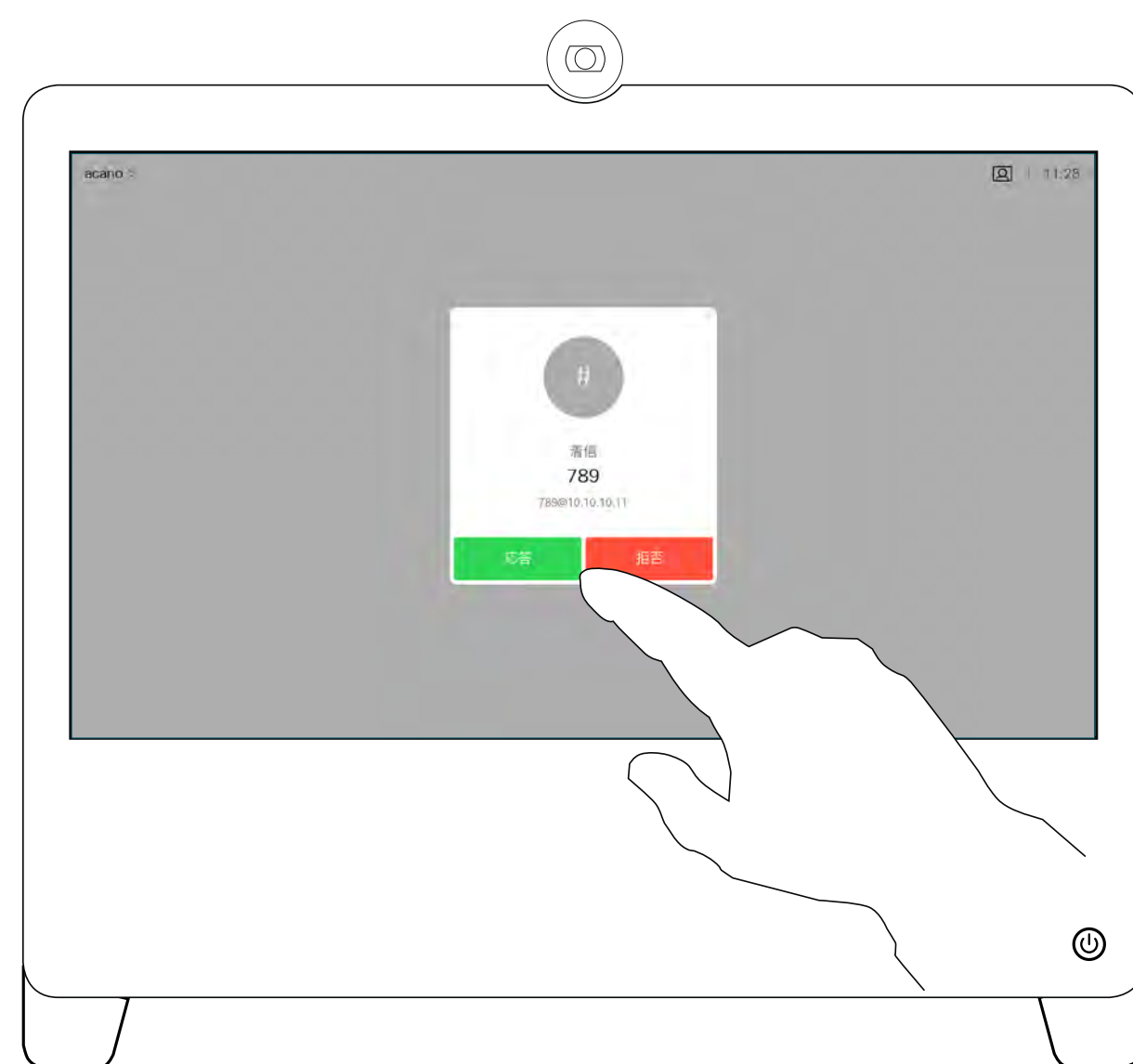
これまでの発信先または着信元がすべて [発信履歴 (Recents)] リストに表示されます。これらの発信先または着信元は [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては連絡先セクションで説明しています。

通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりする際に、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

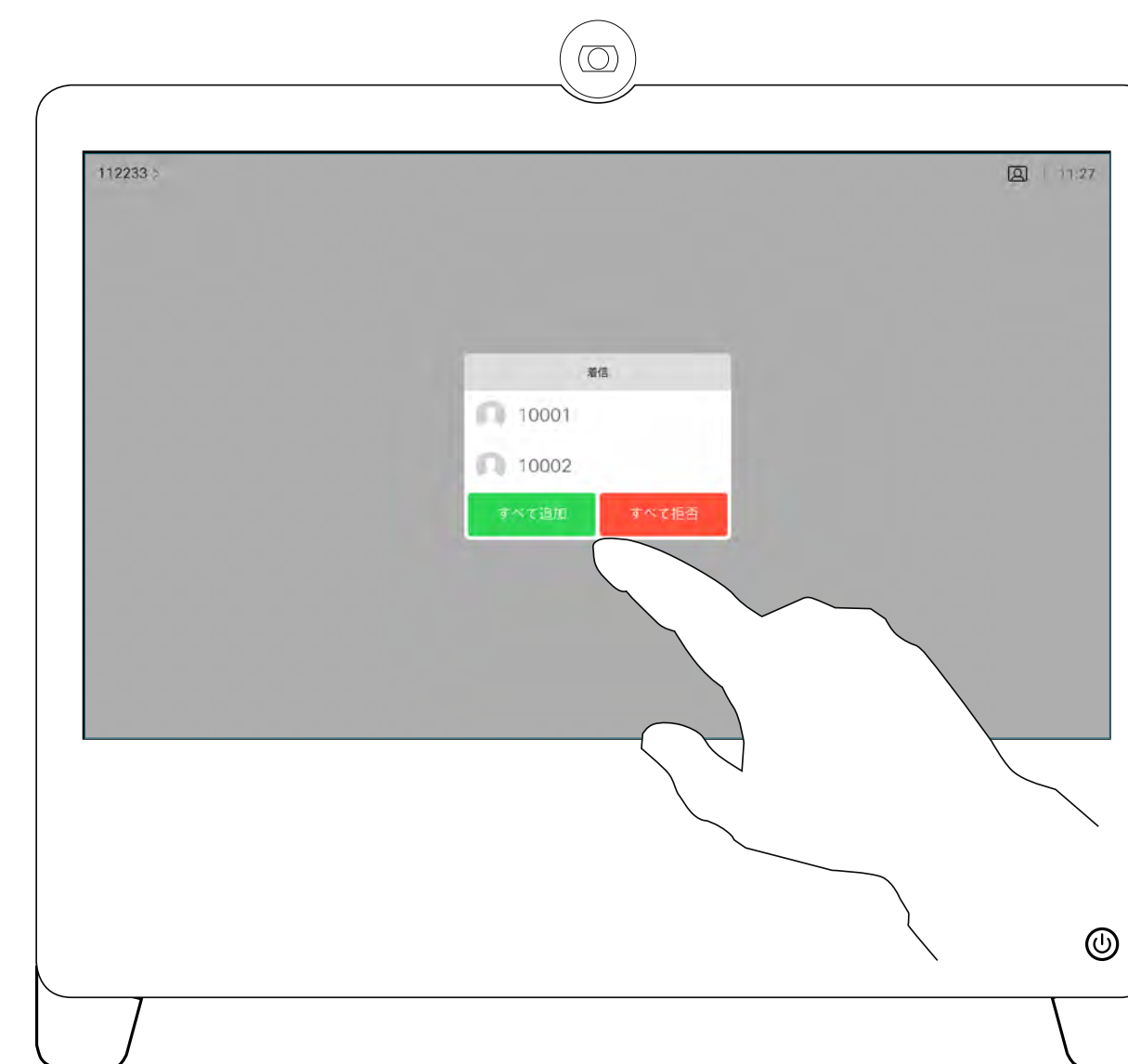
これに必要なキーボードを呼び出すには、トーン信号 (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

注意: [最近] 内の消去は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

ビデオ通話 着信通話



着信通話を受け入れる(応答する)か拒否するかに応じてタップします。



ビデオ インフラストラクチャで許可されている場合は、複数の着信を受信できます。それらの着信はすべて既存の通話に追加するか、すべて拒否するかを選択できます。

着信があった場合

- ・ 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- ・ 通話を拒否した場合、話し中であるという情報が発信側に送られます。
- ・ 通話を無視した場合、発信側には、自分が不在である(通話を取らなかった)場合と同じように見えます。
- ・ ビデオインフラストラクチャを使用すると、複数の着信を受信できます。貴社のビデオサポートチームにご照会ください。

ビデオ通話 通話中に別の通話に応答する

オプションについて

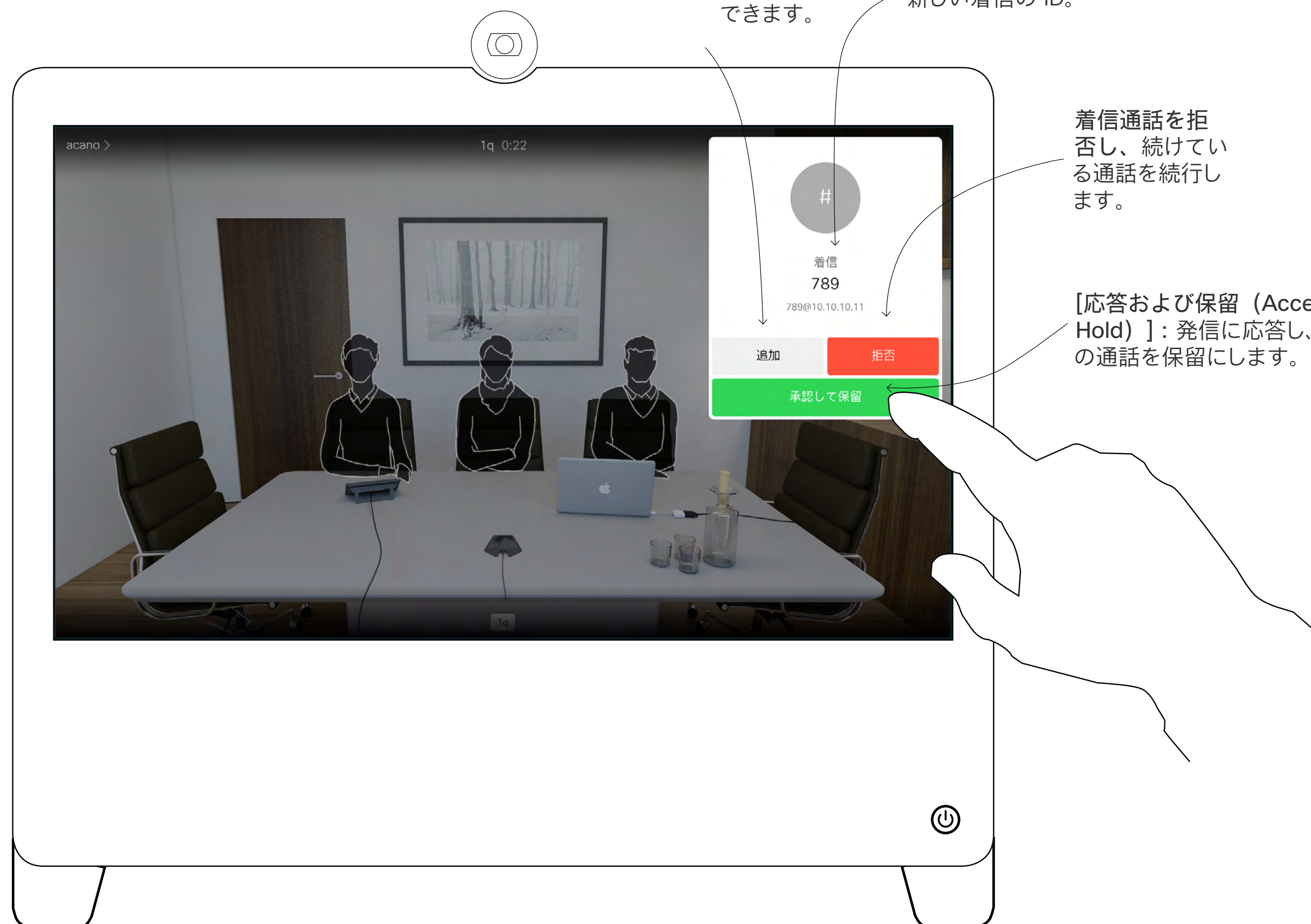
特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。

[追加 (Add)]: システムが CUCM の管理下でアドホックミーティングを実行している場合、着信した参加者をミーティングに追加することができます。

新しい着信の ID。

着信通話を拒否し、続けている通話を続行します。

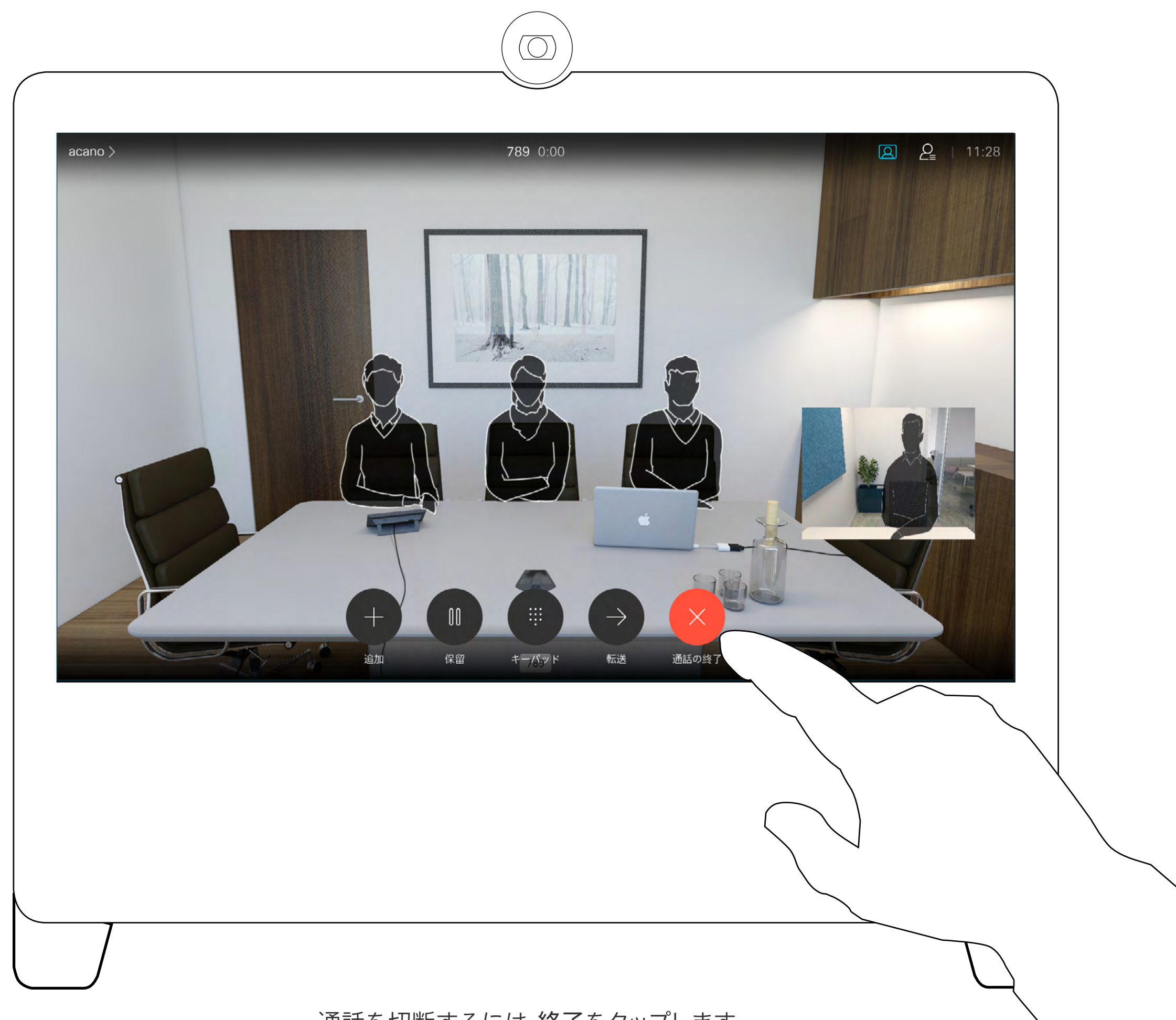
[応答および保留 (Accept & Hold)]: 発信に回答し、現在の通話を保留にします。



ビデオ通話 通話の切断

自分で切断するについて

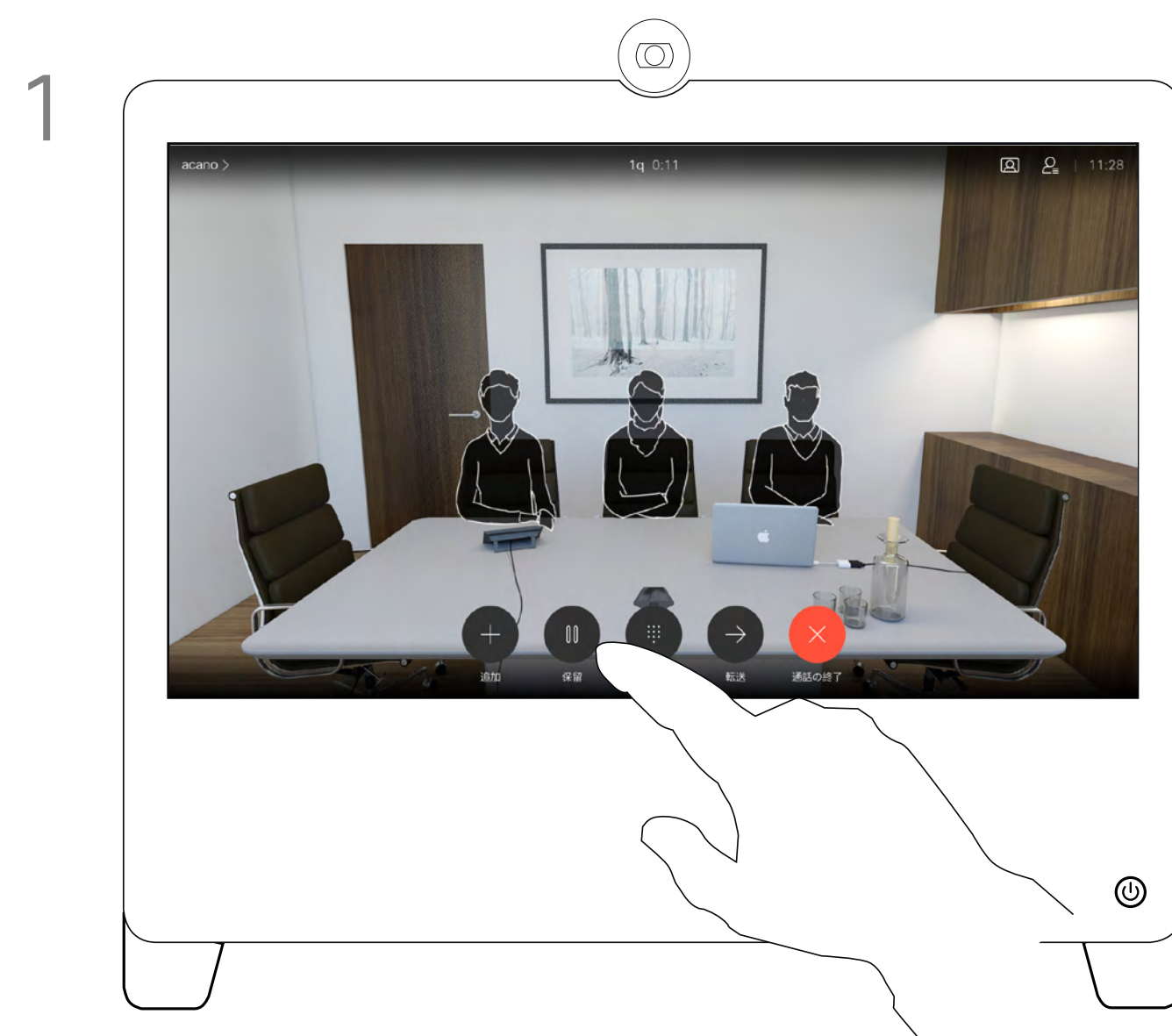
通話中に終了をタップすると、通話が切断されます。二者のみで通話をしている場合は、通話が終了します。



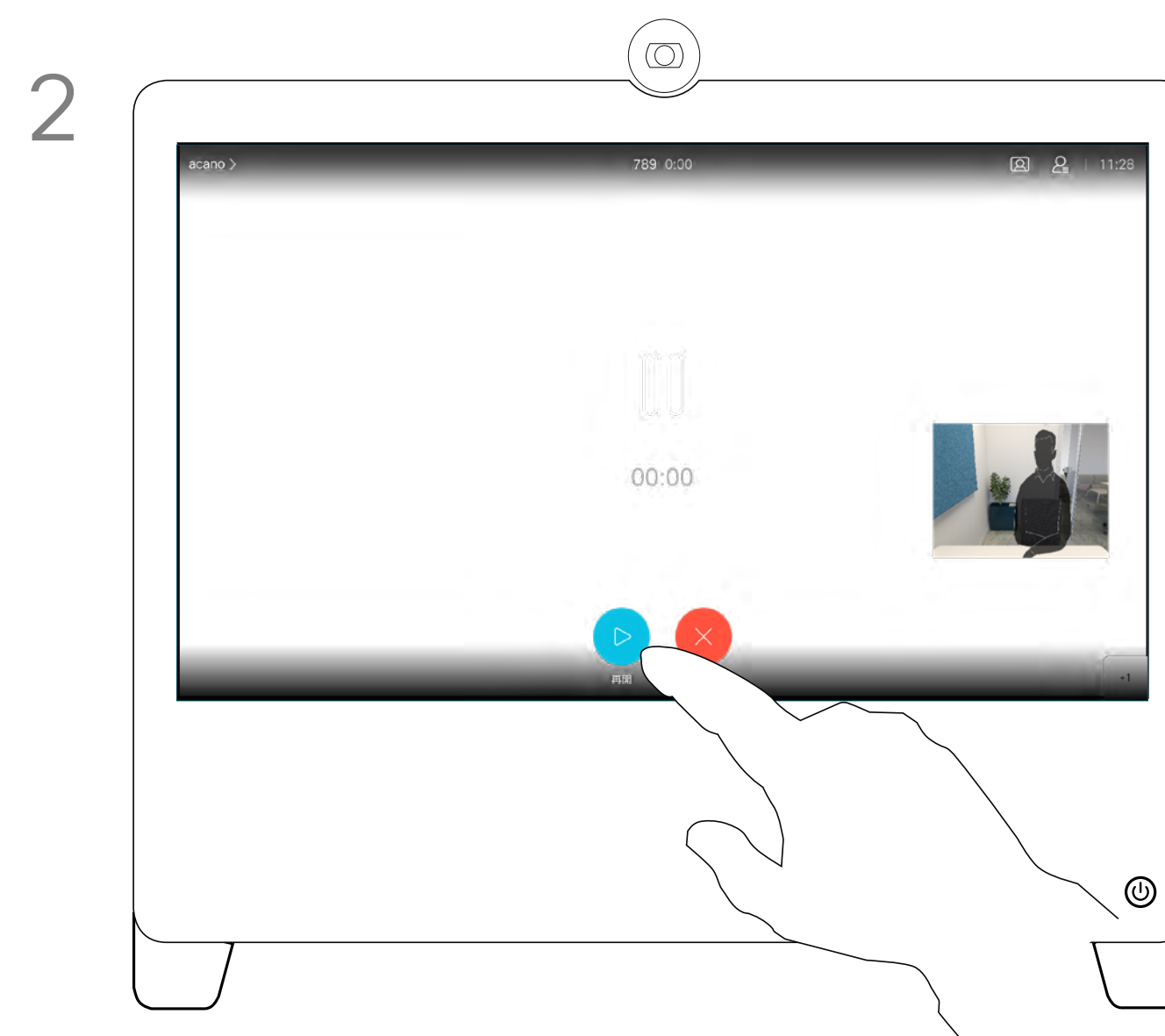
通話を切断するには、終了をタップします。

ビデオ通話 通話を保留にする/保留中の通話を再開する

保留について



通話中に [保留(Hold)] をタップします。



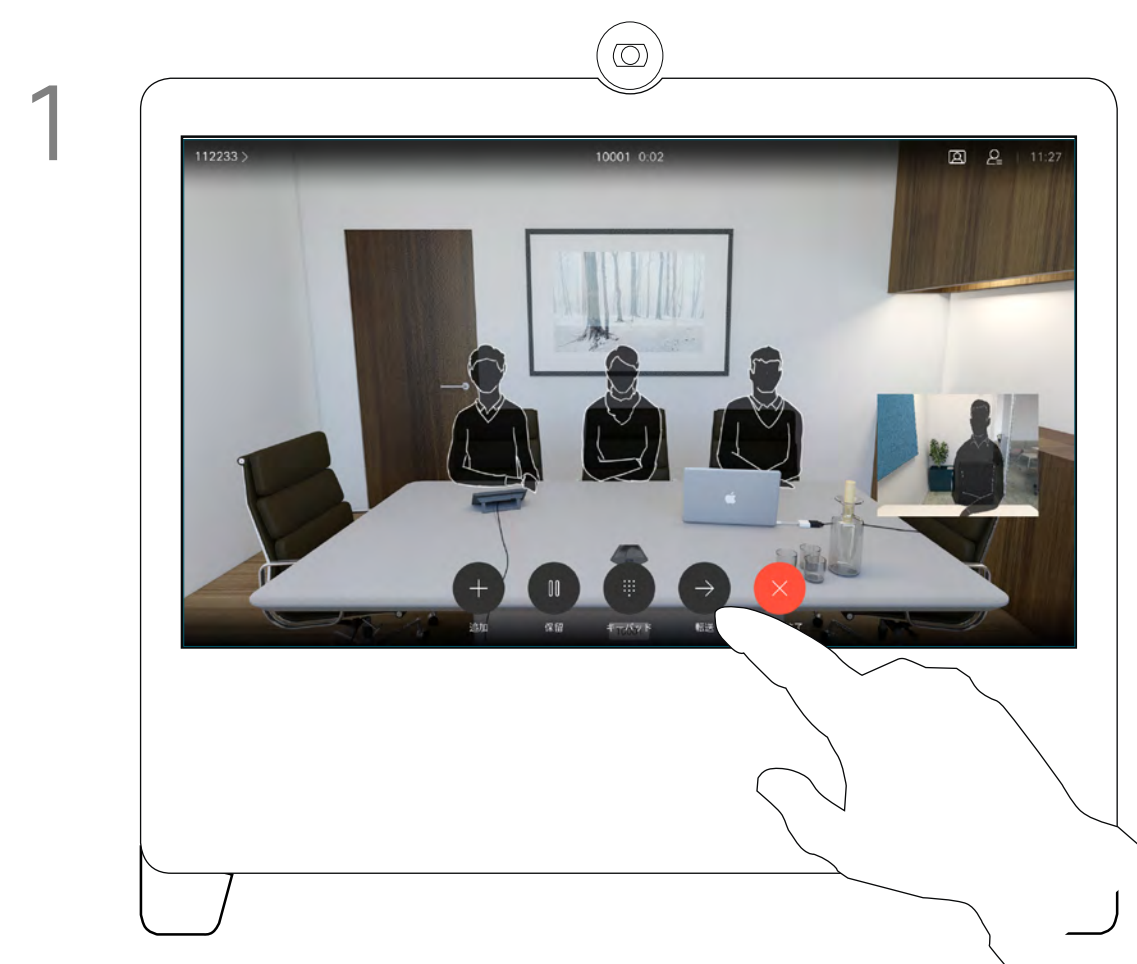
再開をタップして、通話状態にあった相手に戻ります(元の操作に戻ります)。

通常、相手を保留にする操作は、誰かを他の人に転送する場合の最初の手順ですが、打診や、ビデオ送信の停止も行う場合にミュートの代わりとして使用できます。

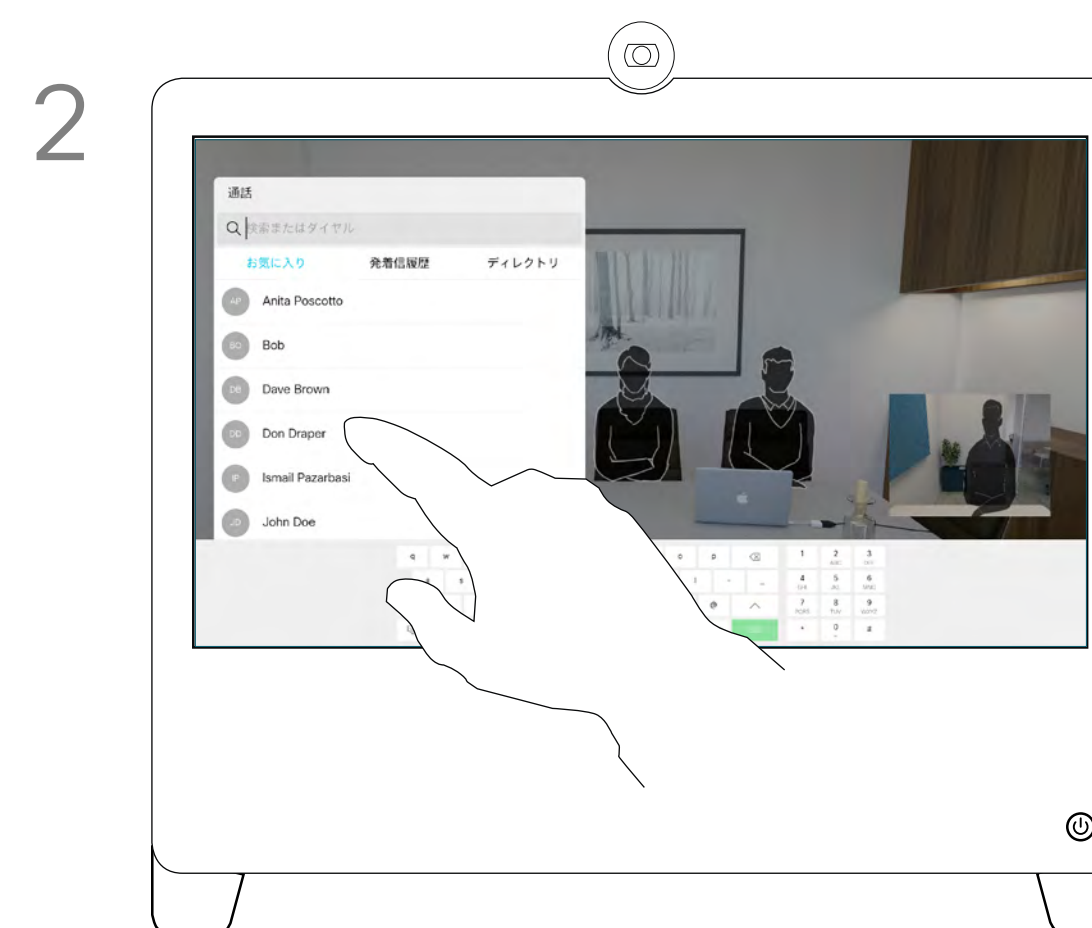
ビデオ通話 継続中のコールを転送する

転送について

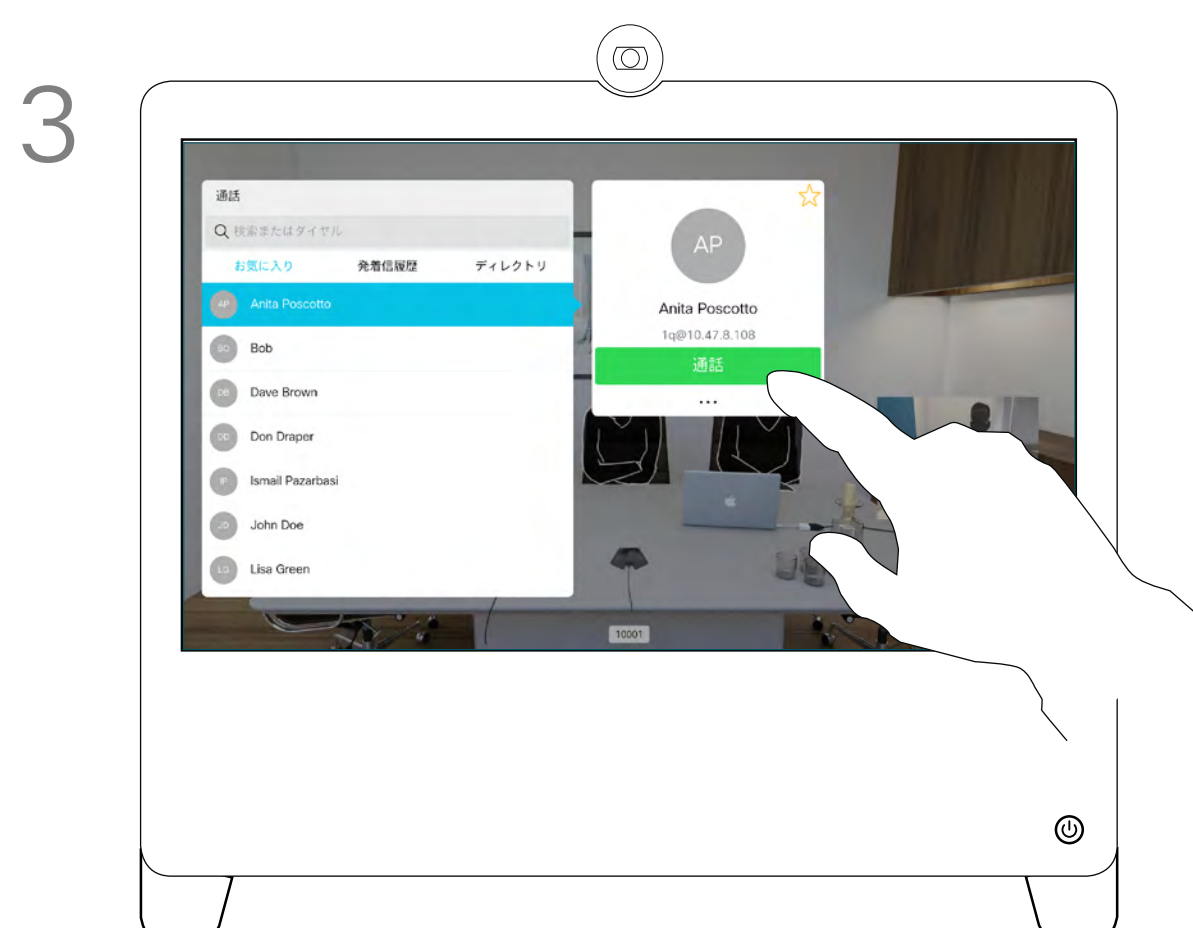
継続中のコールを別のの人に転送することができます。転送する場合には必ず打診します。つまり、転送する前に転送先の人と話すことができます。



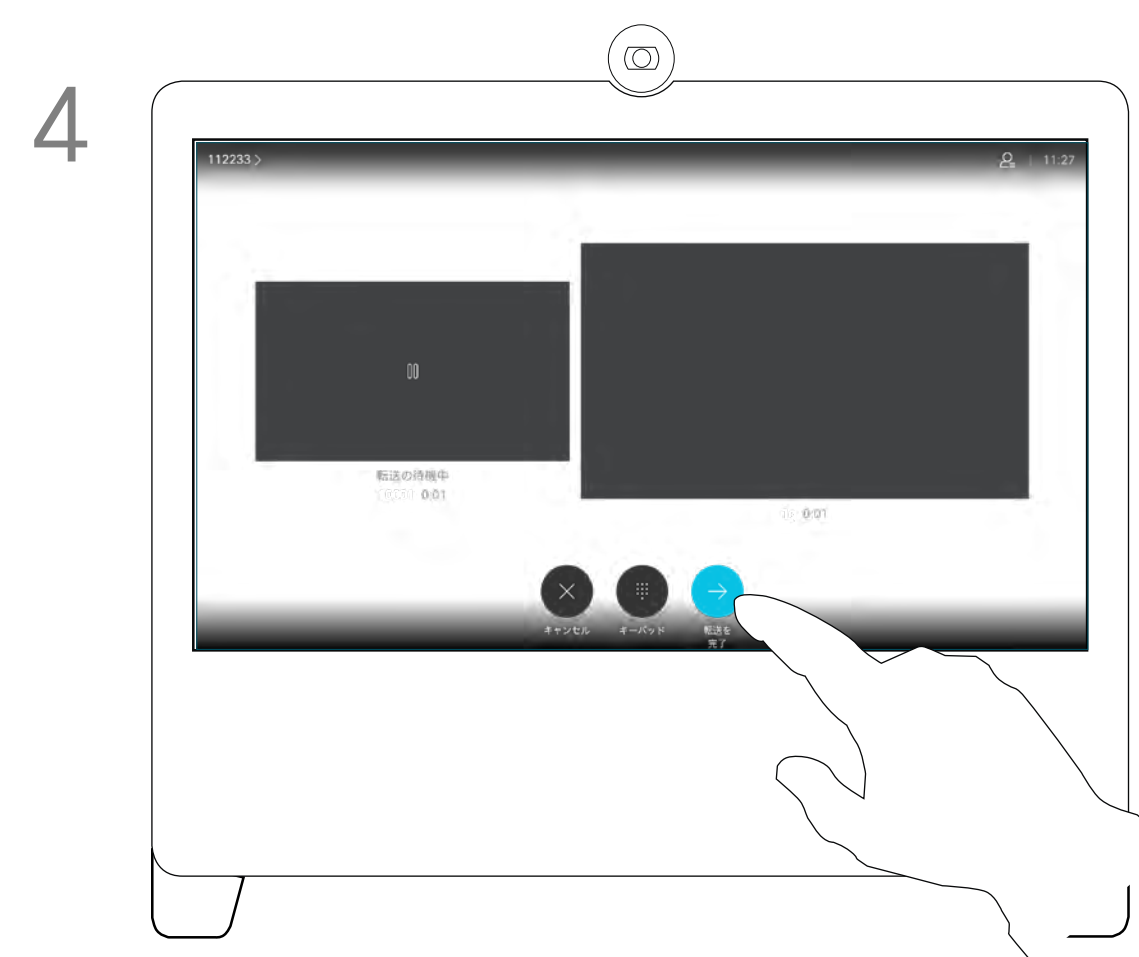
転送ボタンをタップします。これにより、現在の通話が保留になります。



いつもと同じ方法で、発信先を探します。



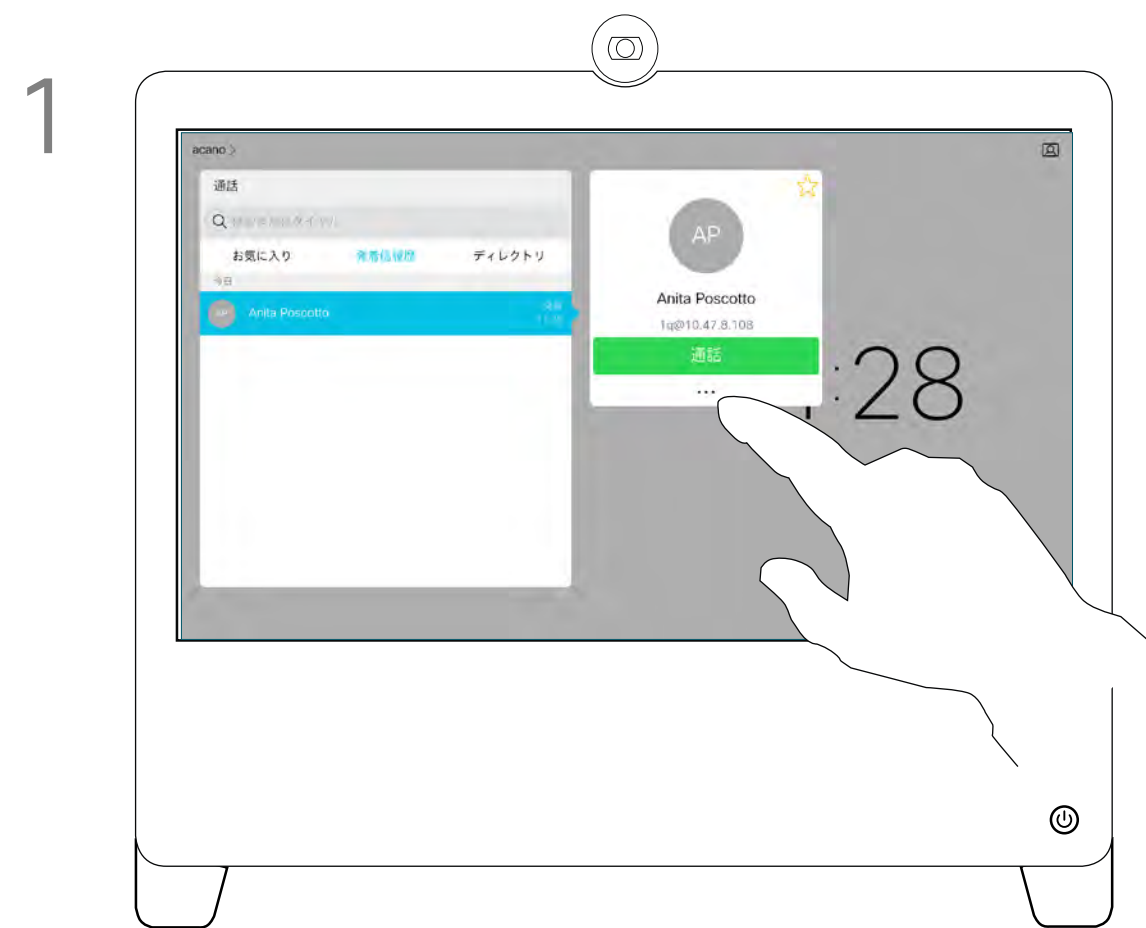
緑色の発信ボタンをタップします。相手と話して転送が行われたことを確認します。転送先では保留中のままになります。



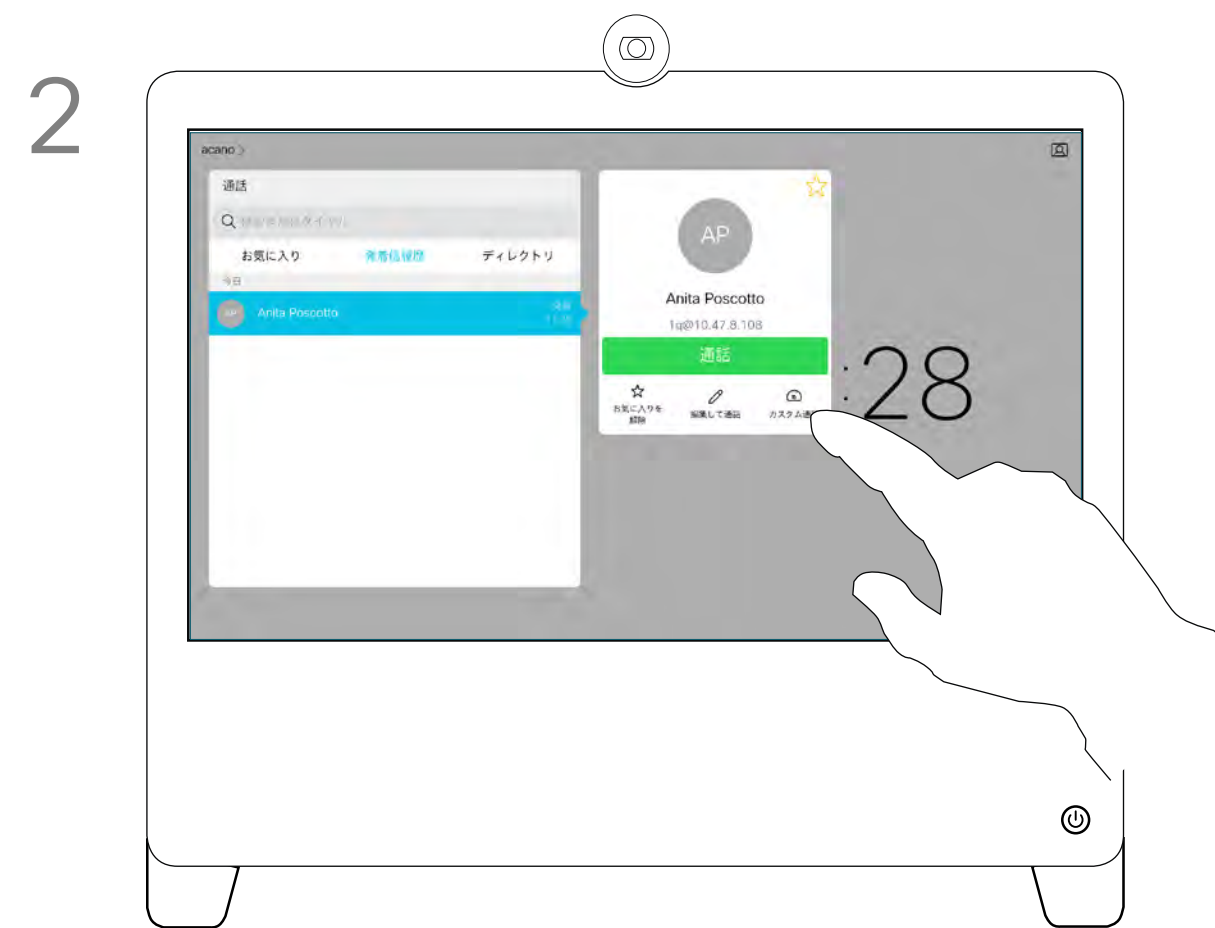
転送完了をタップします。

ビデオ通話 帯域を変更する

帯域について



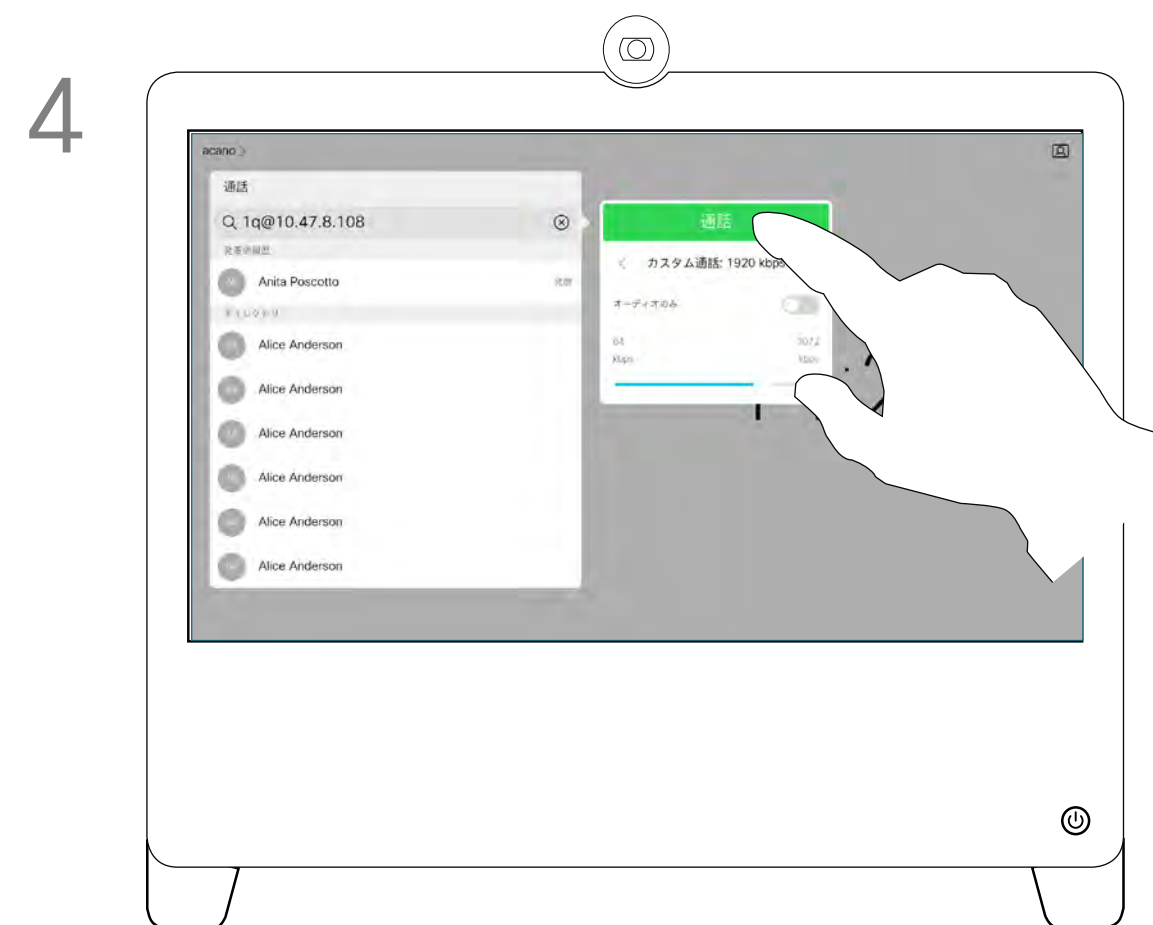
1 [発信 (Call)] ボタン(図示せず)をタップして、帯域を変更するエントリ(図示せず)を特定します。このエントリをタップすると、[発信 (Call)] メニューが表示されます。それから、緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある、その他(...)アイコンをタップします。



2 [カスタム コール(Custom call)] をタップします。



3 必要な設定にスライダを移動します。



4 緑色の [通話(Call)] ボタンをタップして発信します。

「帯域」とは、通話に割り当てられている帯域幅を示すために使われる用語です。これは kbps(キロビット/秒)で測定されません。

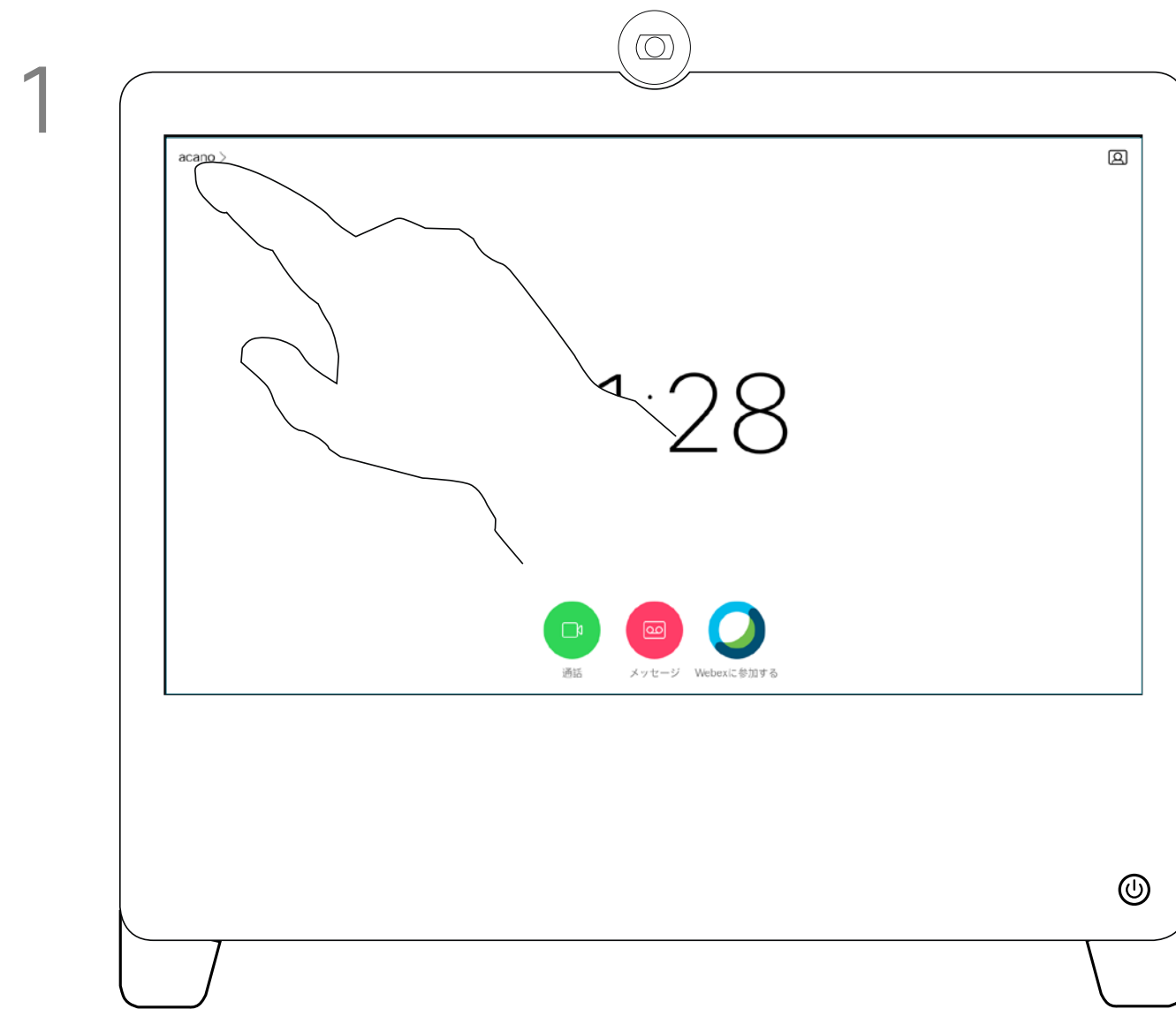
帯域を高くするほど音質がよくなりますが、帯域幅使用量の料金も高くなります。

システムにはデフォルトの帯域が用意されています。これは通常ビデオ サポートチームが設定します。通常の条件では、帯域は必要に応じてシステムによって自動的に調整されます。この調整は、システムと接続がサポートしている帯域よりも大きい帯域で誰かと通話しようとするときにビデオ通話のチョークを避けるために行われます。

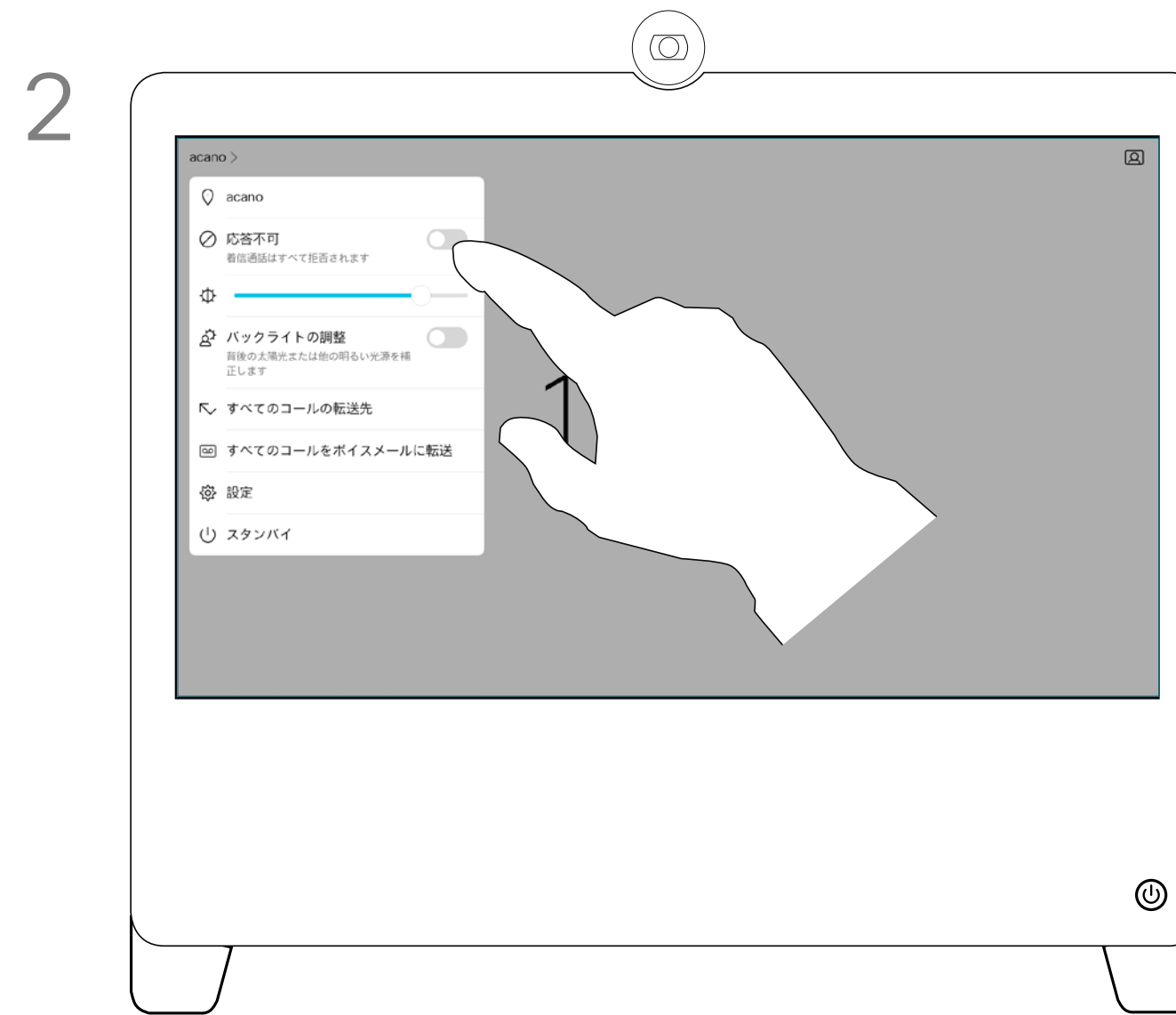
何らかの理由によって、自動帯域設定に失敗した場合、最終手段として手動で調整することも可能です。

通話中に帯域を変更することはできませんが、左で示されているとおり、発信の直前に変更することはできます。

ビデオ通話 応答不可を有効にする



図のように、左上をタップします。



[応答不可(Do not disturb)] をタップして、機能を有効にします。もう一度タップして非アクティブ化します。

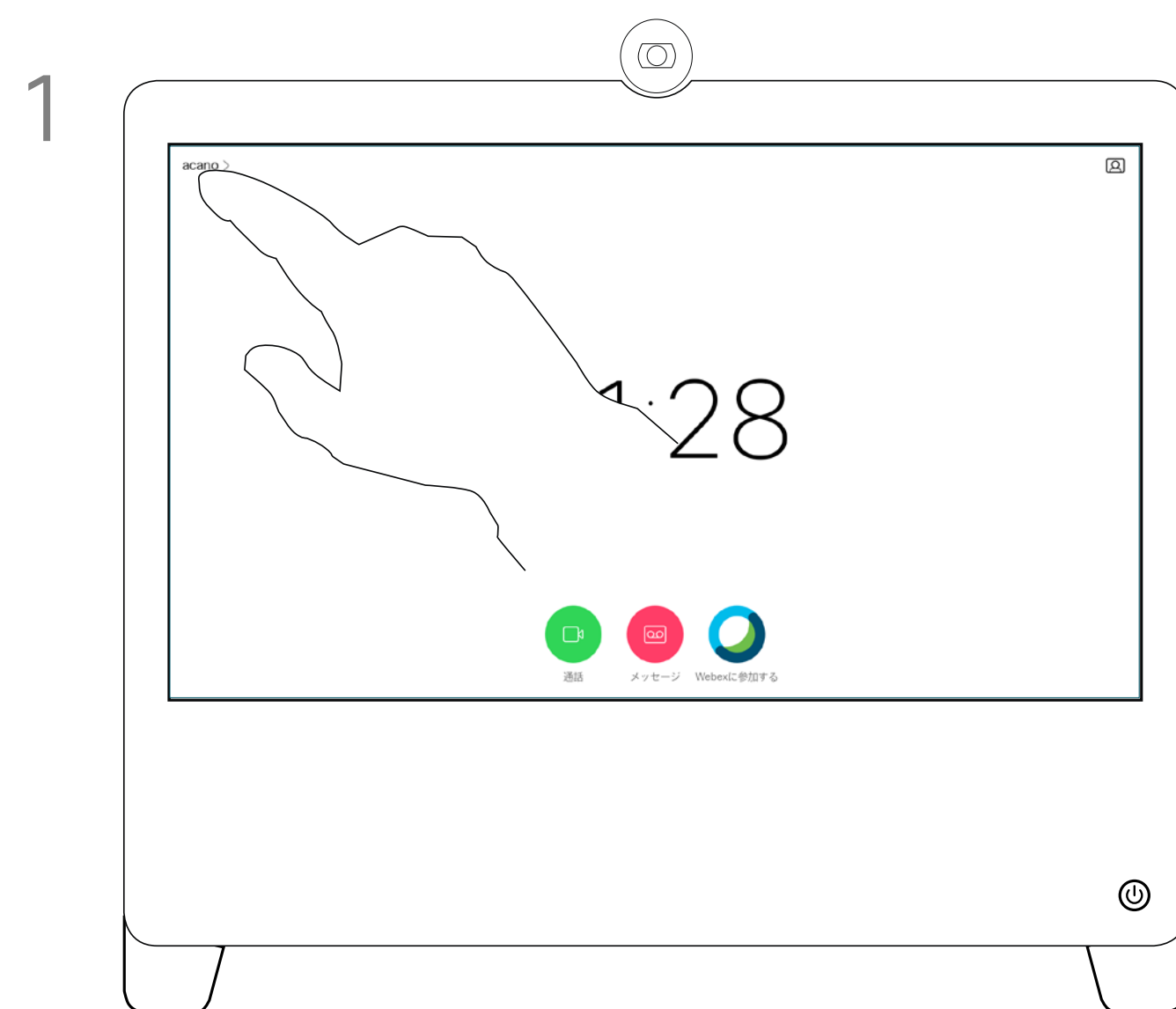
応答不可について

着信通話に回答しないよう、システムを設定することができます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

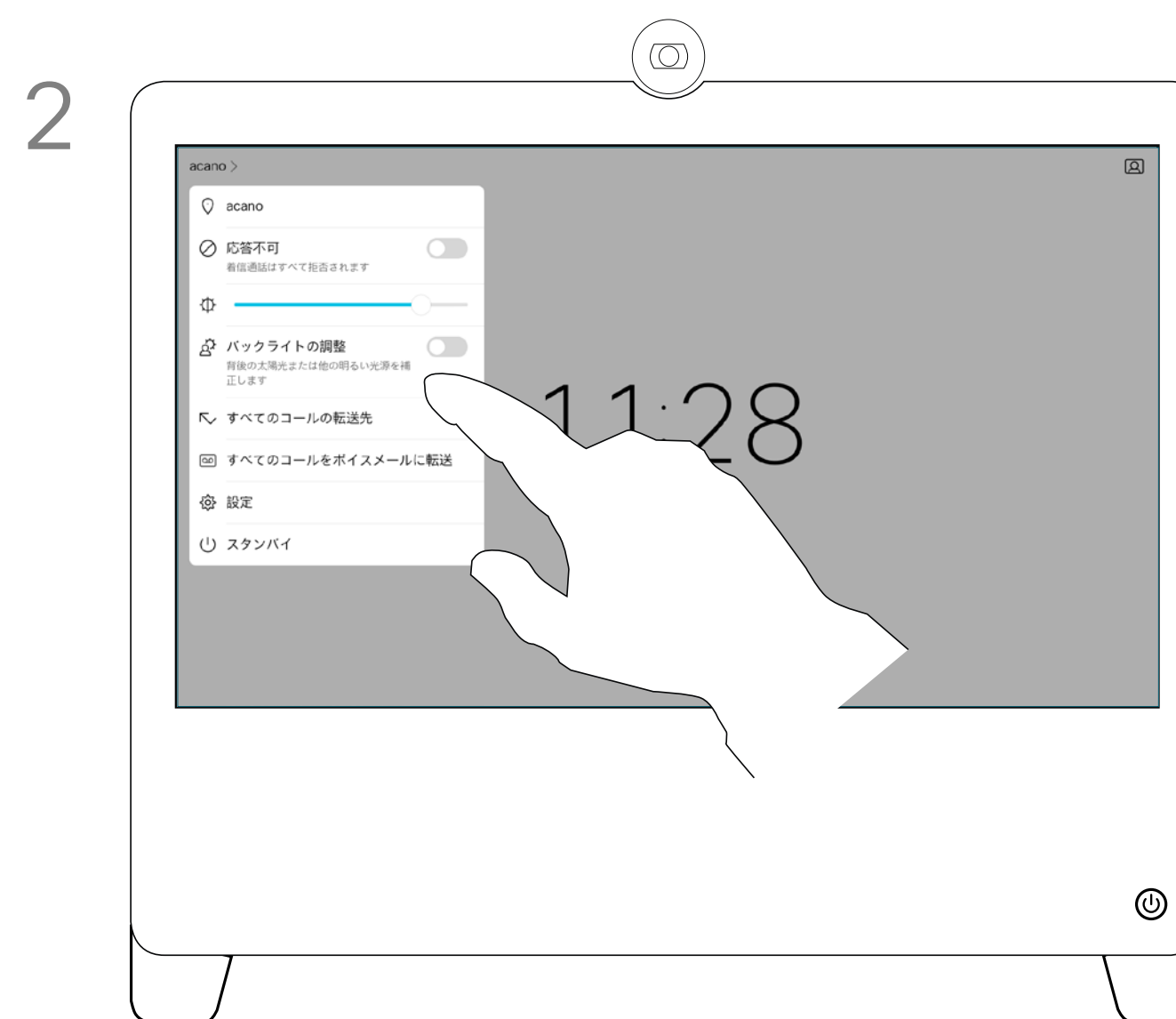
ビデオ サポート チームが、この機能のタイムアウトを設定している場合があります。タイムアウト後は、通常のように着信に回答できるようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

ビデオ サポート チームによって、この機能へのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

ビデオ通話 すべての通話の自動転送



図のように、左上をタップします。



受信者を指定してすべての通話を転送するか、ボイスメールに転送するかを選択できます。

通話の転送について

ビデオ サポート チームがすべての受信コールを転送するオプションを有効にしている場合もあります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

すべての通話の転送先をタップすると、いつもの 発信メニューが表示され、受信者を指定できます。

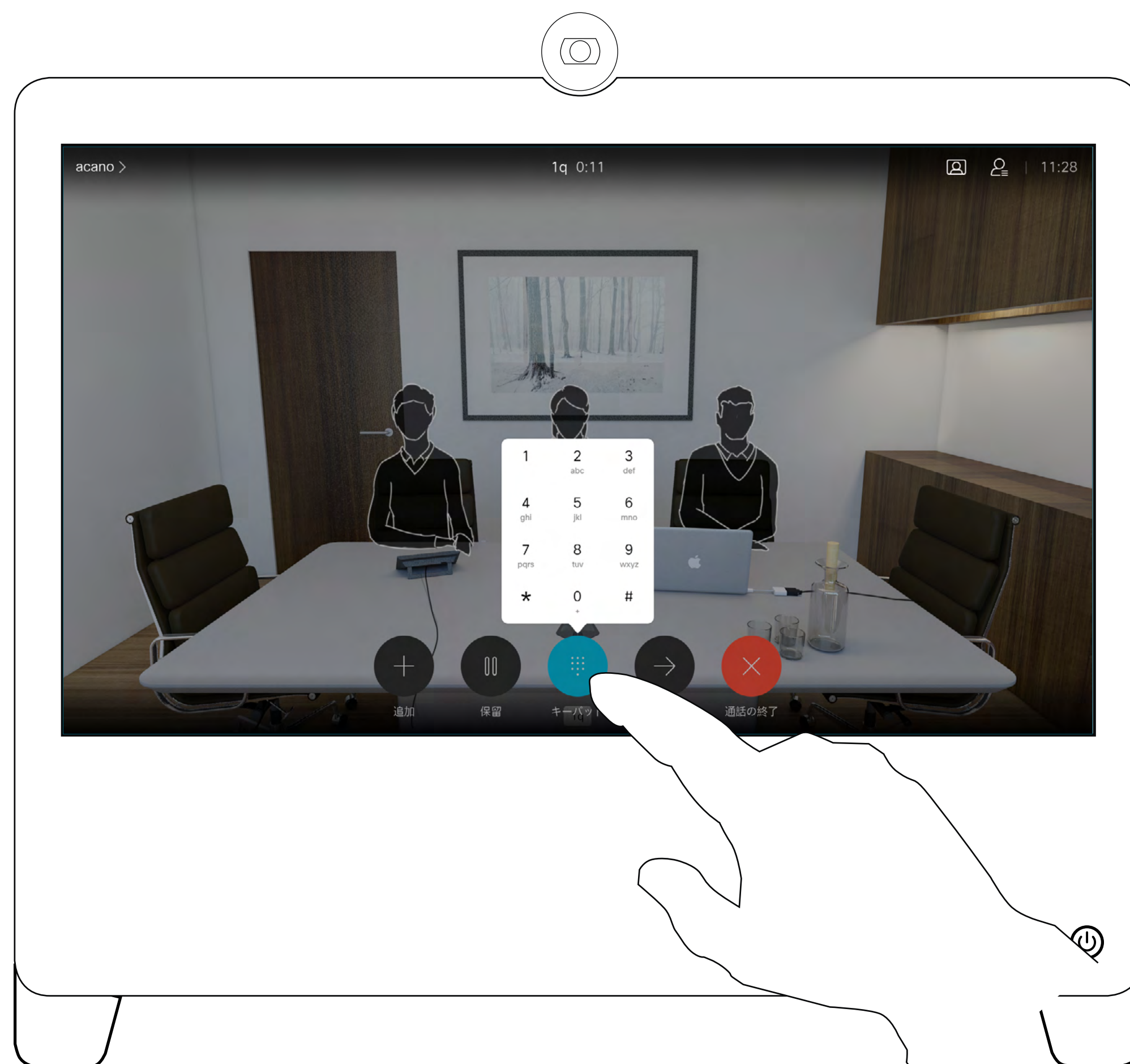
ビデオ サポート チームによって、この機能へのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

ビデオ通話 通話中にキーパッドを表示する

通話中のキーパッドの使用

通話中に、内線番号へアクセスしたり、(暗証番号の使用などにより)その他の場所へアクセスしたりするために番号を入力するよう要求されることがあります。

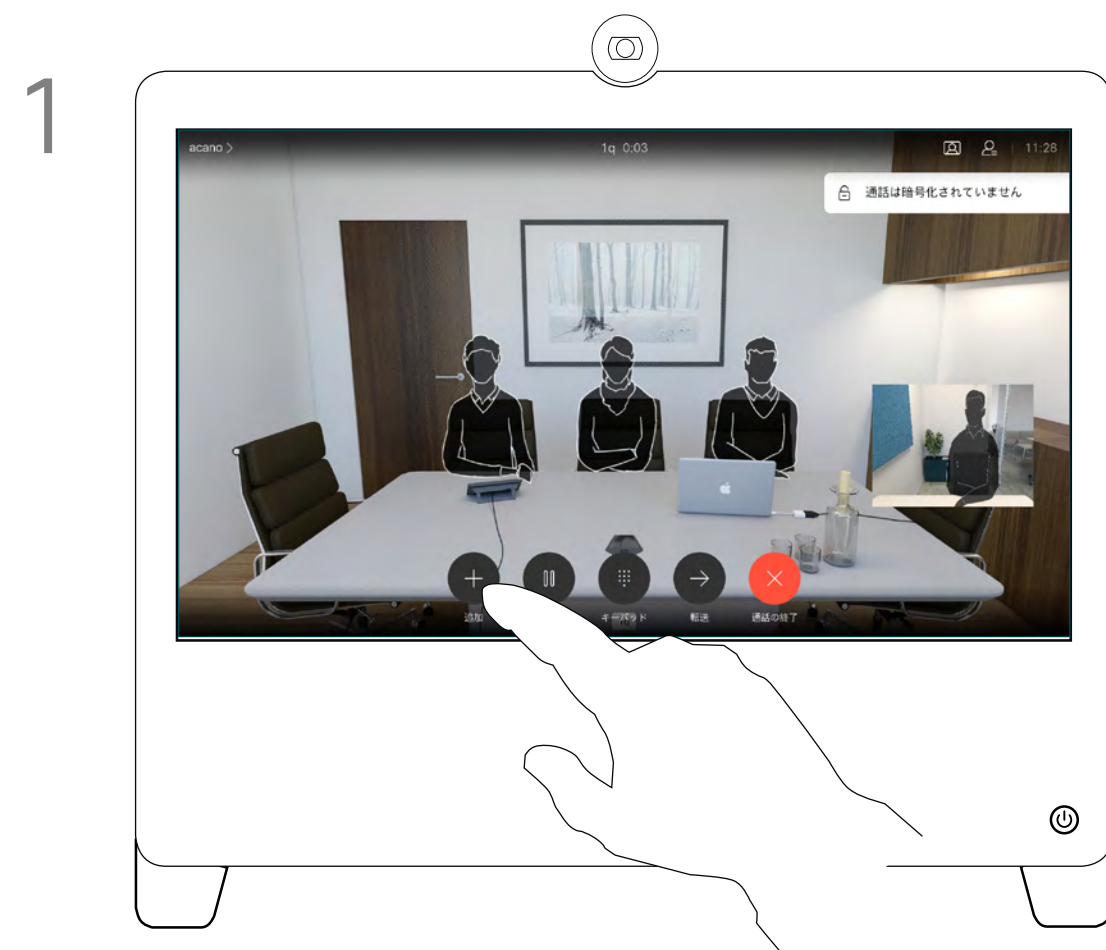
このようにするには、タッチスクリーンにキーパッドを呼び出す必要があります。



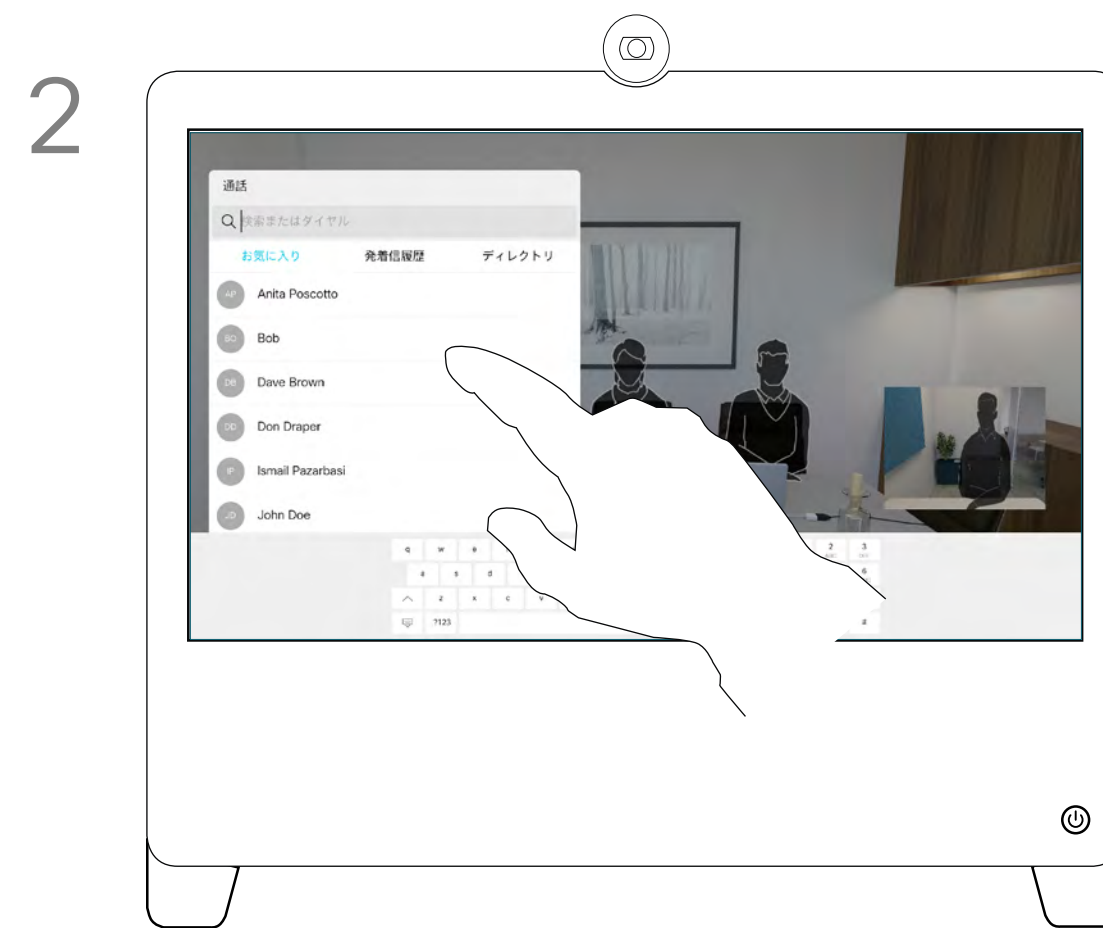
通話中に、[トーン信号(Touch Tones)] をタップしてダイヤルパッドを呼び出します。

ビデオ通話 既存の通話に参加者をさらに追加する

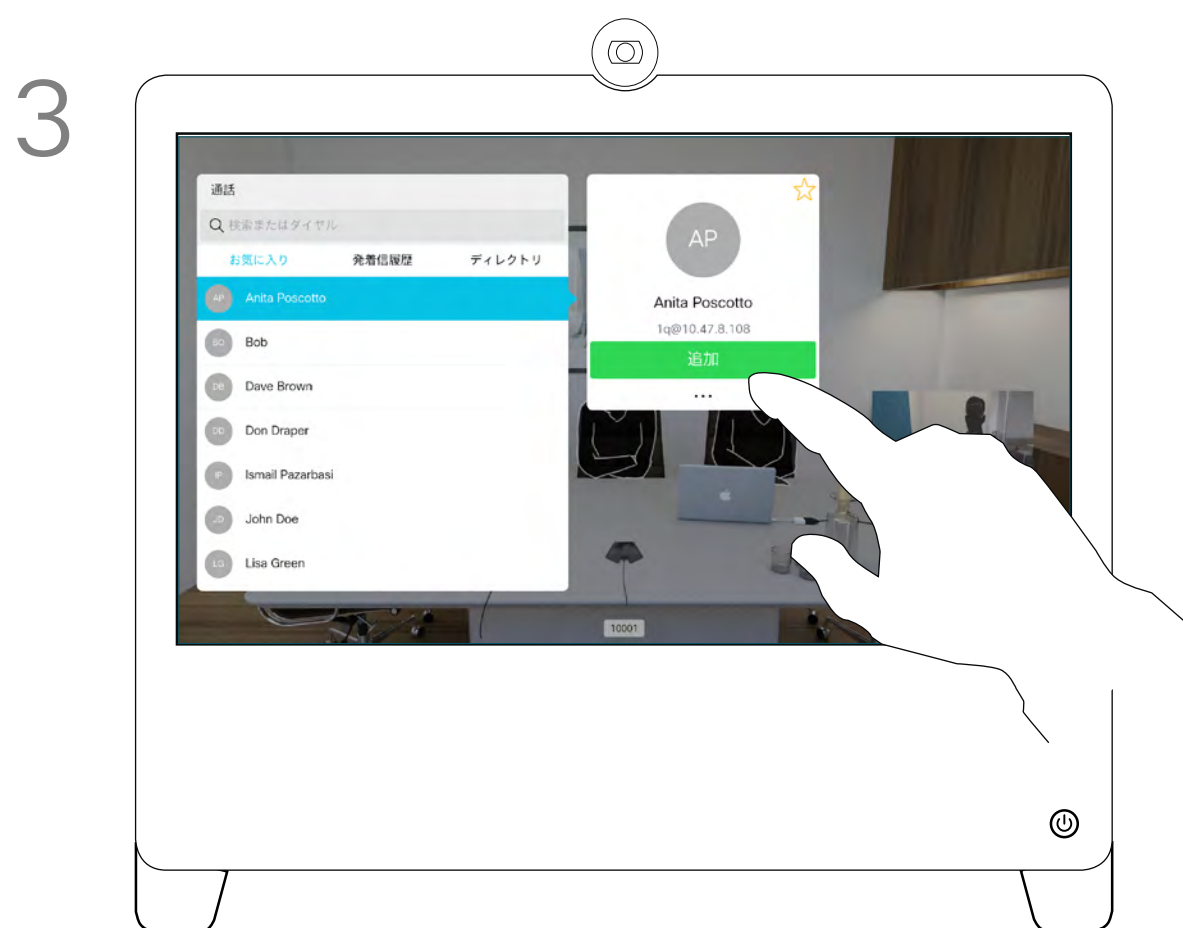
ビデオ会議について



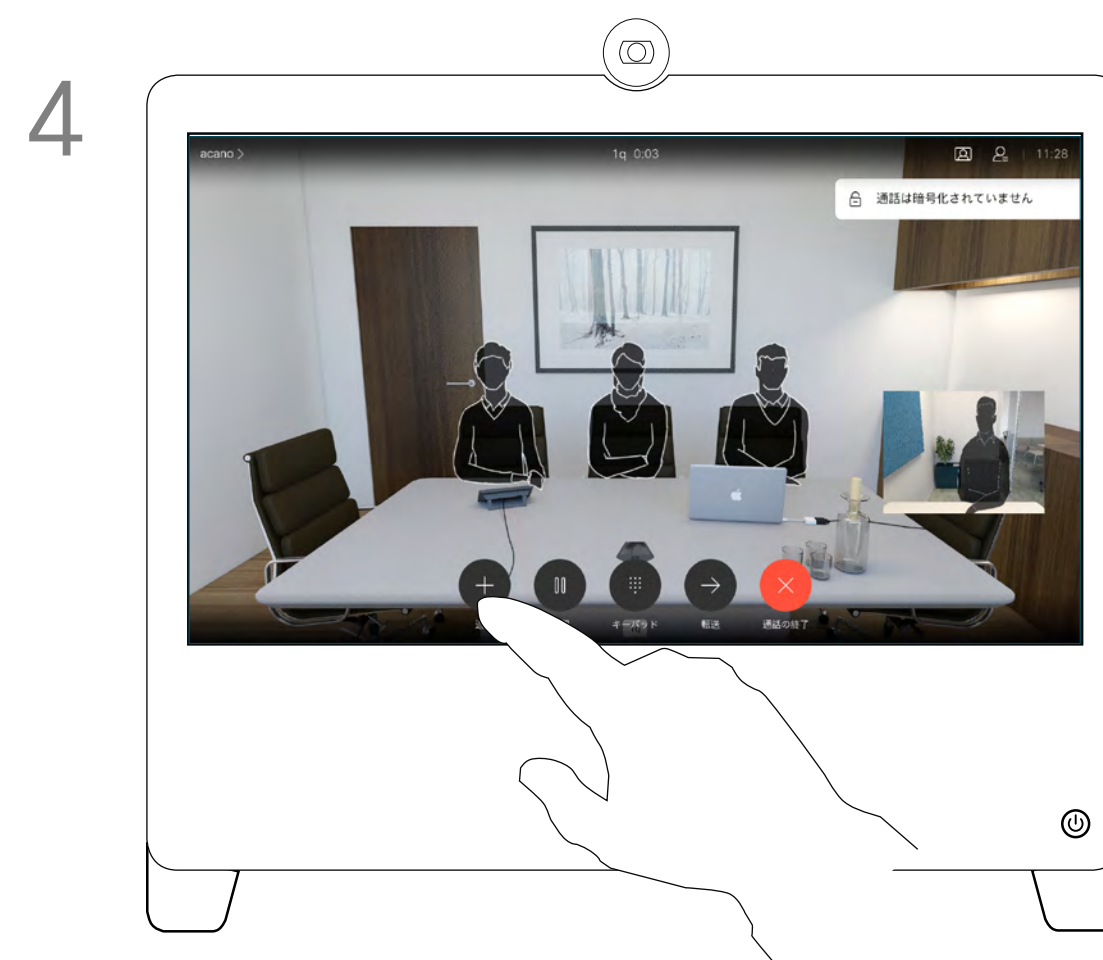
通話中に [追加 (Add)] をタップします。



通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。発信する前にその通話の通話設定を変更できます。詳細については、サイドバーを参照してください。



この新しい通話が既存の通話に追加され、ミーティングが確立されました。

ビデオ インフラストラクチャの許容する範囲で、この手順を繰り返すことができます。

お使いのビデオシステム ネットワークが、参加者が複数いるビデオ会議を開始する機能をサポートしている必要があります。

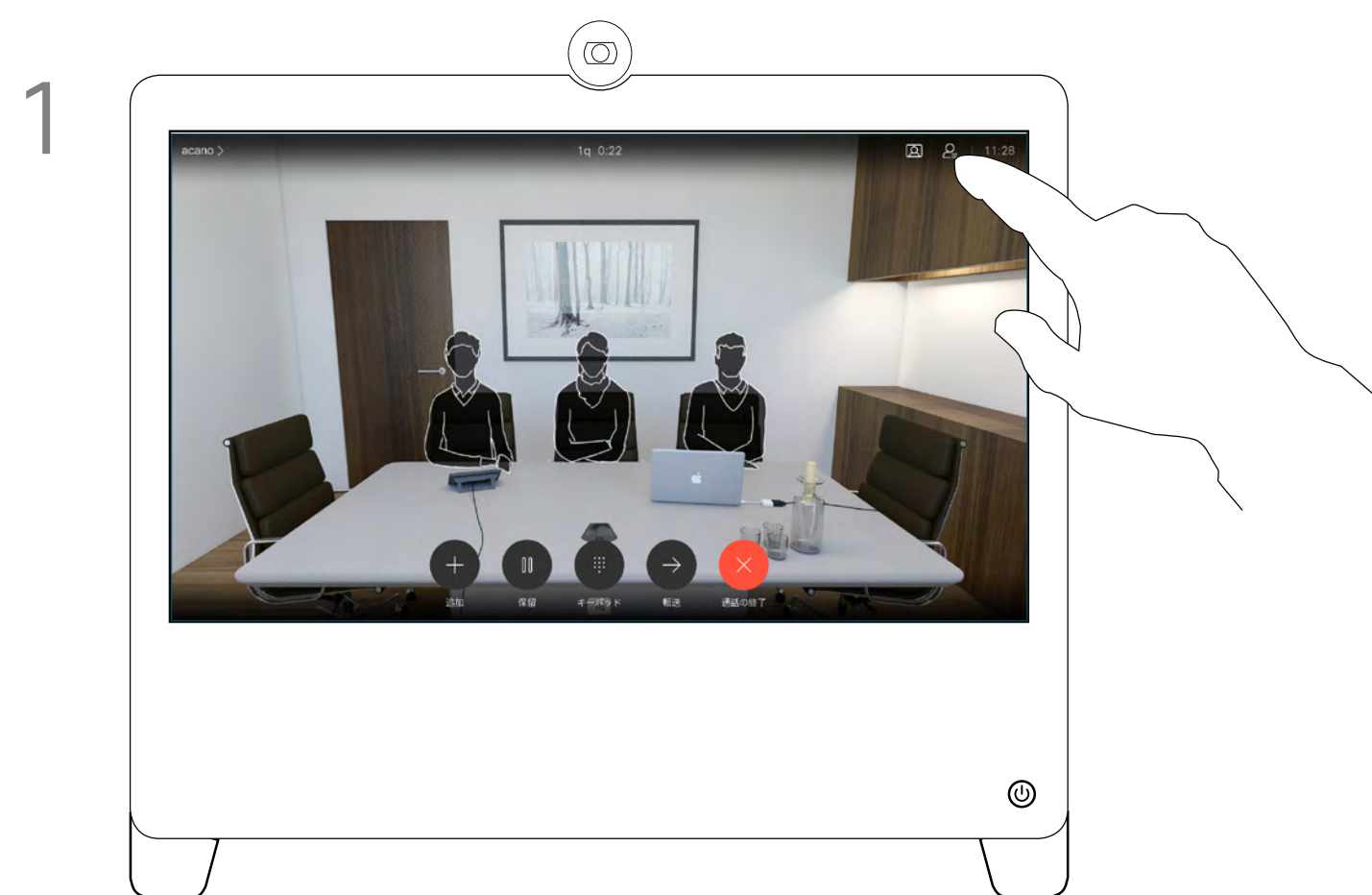
ビデオシステムでサポートされる参加者の最大人数は、システム設定およびビデオ インフラストラクチャによって決まります。これを確認するには、ビデオ サポートチームへお問い合わせください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。

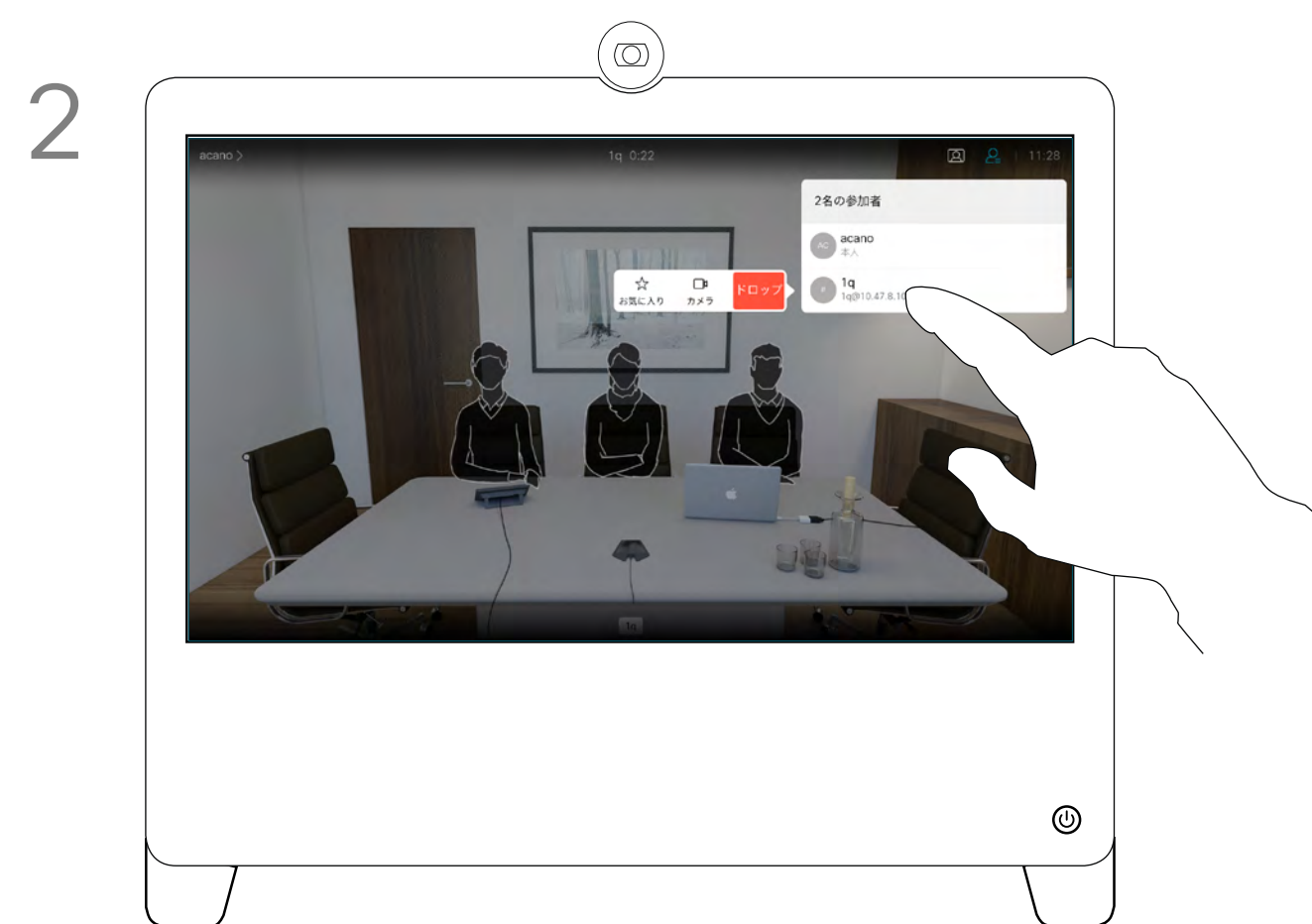
会議を開始した参加者は、会議全体を終了することができます。他の参加者は、会議から自分の接続のみを切断できます。

ビデオ通話 会議から参加者を切断する

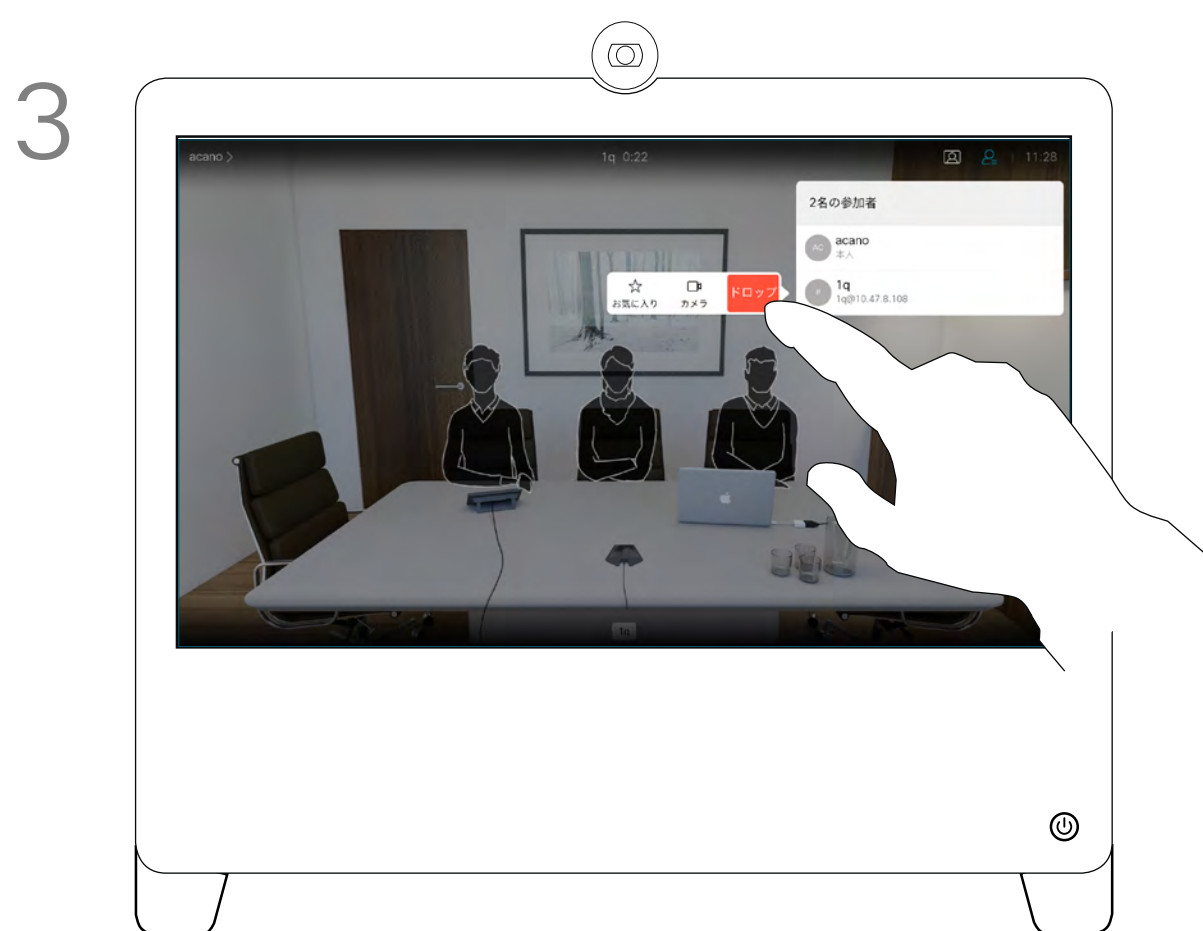
ビデオ会議について



通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



ミーティングからドロップする参加者をタップします。



ドロップをタップします。

DX70/80 からビデオミーティングを実施する機能はオプションの機能であり、お使いのシステムで利用できる場合と利用できない場合があります。

インテリジェント近接通信



Cisco Proximity の超音波信号について

シスコのビデオシステムは、近接通信機能の一部として超音波を発生します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接信号が出力される20 kHzあたりの周波数帯で検出される 75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 (英語) をご覧ください。

120 dB未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。



グループで使用するためにスピーカーが組み込まれているシスコのビデオシステムでは、スピーカーから 50 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。

個人で使用するためのシスコのビデオシステムでは、スピーカーから 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 70 dB 未満になっています。

Cisco Webex Boards では、ディスプレイの前方 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。このレベルはディスプレイの真下では、スピーカーが下向きであるため若干高くなる可能性があります。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音についてミーティングスペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が近接通信の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いので、近接通信の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なります。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであっても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンドノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることになります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたというレポートはありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

シスコのビデオコーデックをサードパーティ製のスピーカーシステムと組み合わせて使用するソリューションについては、シスコは超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

近接通信について

インテリジェント近接通信機能を使用すれば、手元の端末でワイヤレスにビデオシステムのコンテンツを共有できます。スマートフォンやタブレットでは、共有コンテンツを自分の画面に直接表示することもできます。

自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使って、ビデオシステムの通話を制御することもできます。

次の条件に従ってください。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション (無料) をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語) にアクセスしてください。

ビデオサポートチームは、すべての機能を有効にしている場合も、無効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。

インテリジェント近接通信は、ユーザの接続時に超音波を利用します (詳細は左記参照)。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

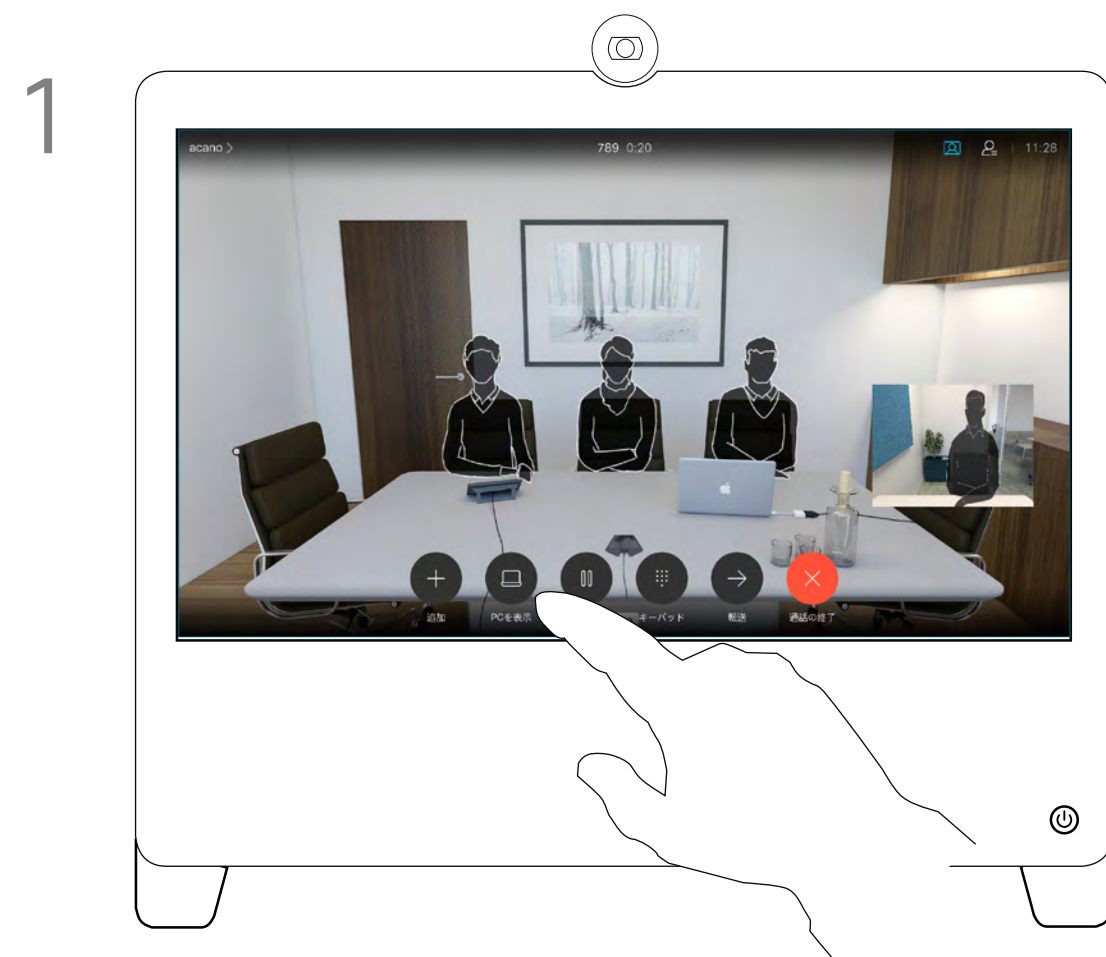
インテリジェント近接通信は、会議室のドアが閉じられた状態では、ミーティング室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオエンドポイントの近くにデバイスを置く必要があります。

プライバシーの保護が必要な場合は、常に会議室の扉を閉めて、隣室に音が漏れないように配慮してください。



コンテンツ共有

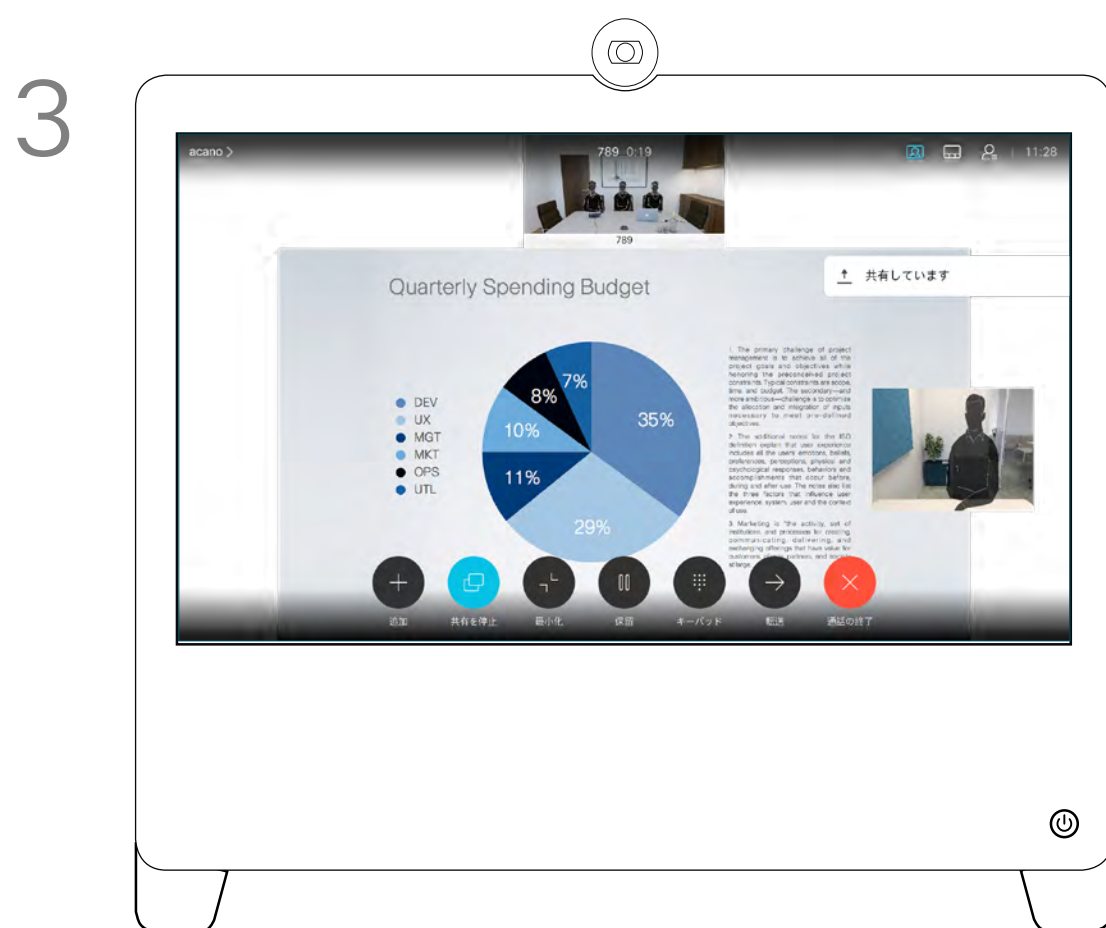
コンテンツ共有 通話中にコンテンツを共有する



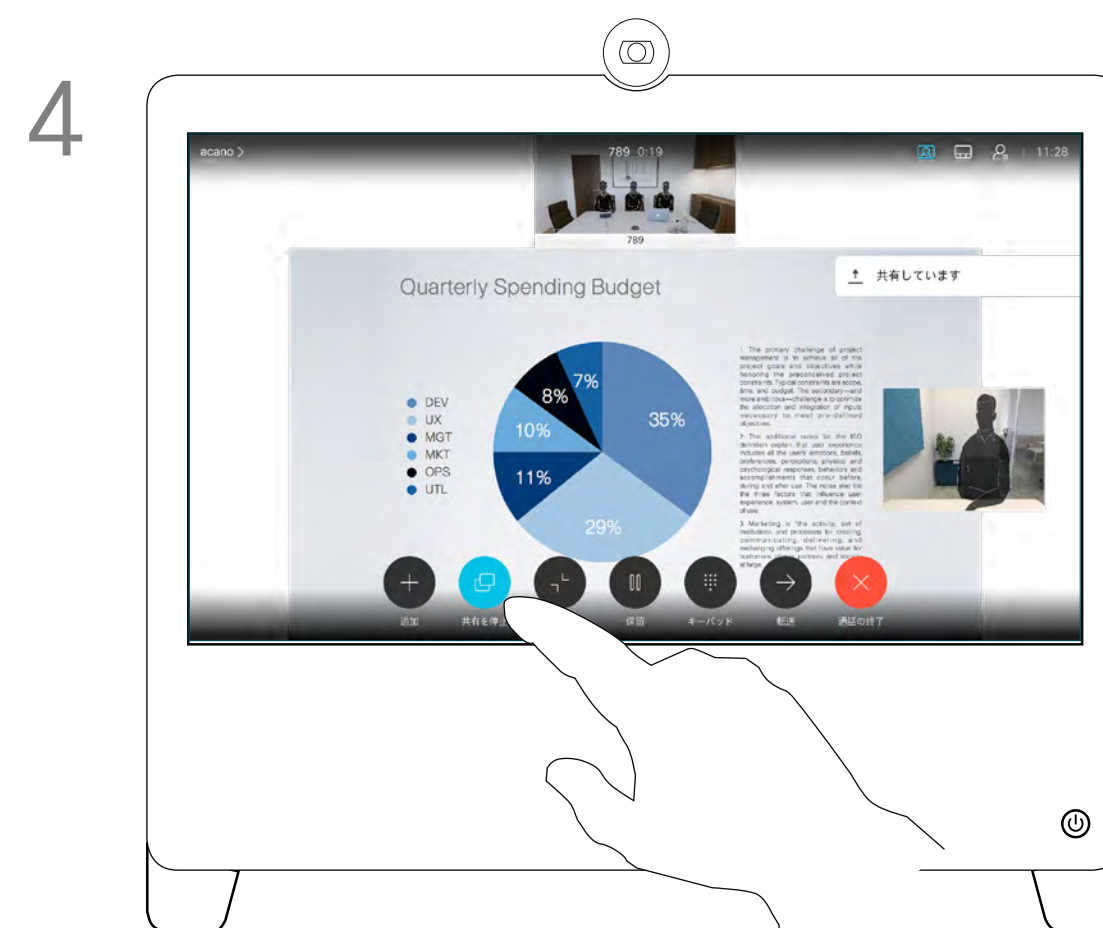
通話中に、ソースを接続して、オンになっていることを確認します。[PC の表示 (Show PC)] をタップして、自分の PC の画面を DX70/80 上にローカルに表示します。これを行ったときに画面に表示される内容は、他の参加者には表示されません。



他の参加者と自分の PC の画面を共有したくない場合は、[PC を非表示にする (Hide PC)] をタップすると元の状態に戻ります。コンテンツを共有する場合は、図のように [共有 (Share)] をタップします。



これで、PC 画面のコンテンツが他の参加者と共有されます。



コンテンツの共有を停止するには、図のように [共有を停止 (Stop Sharing)] をタップします。

コンテンツ共有について

ビデオ システムは、ビデオ通話またはビデオミーティングでプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。詳細については、次のページを参照してください。

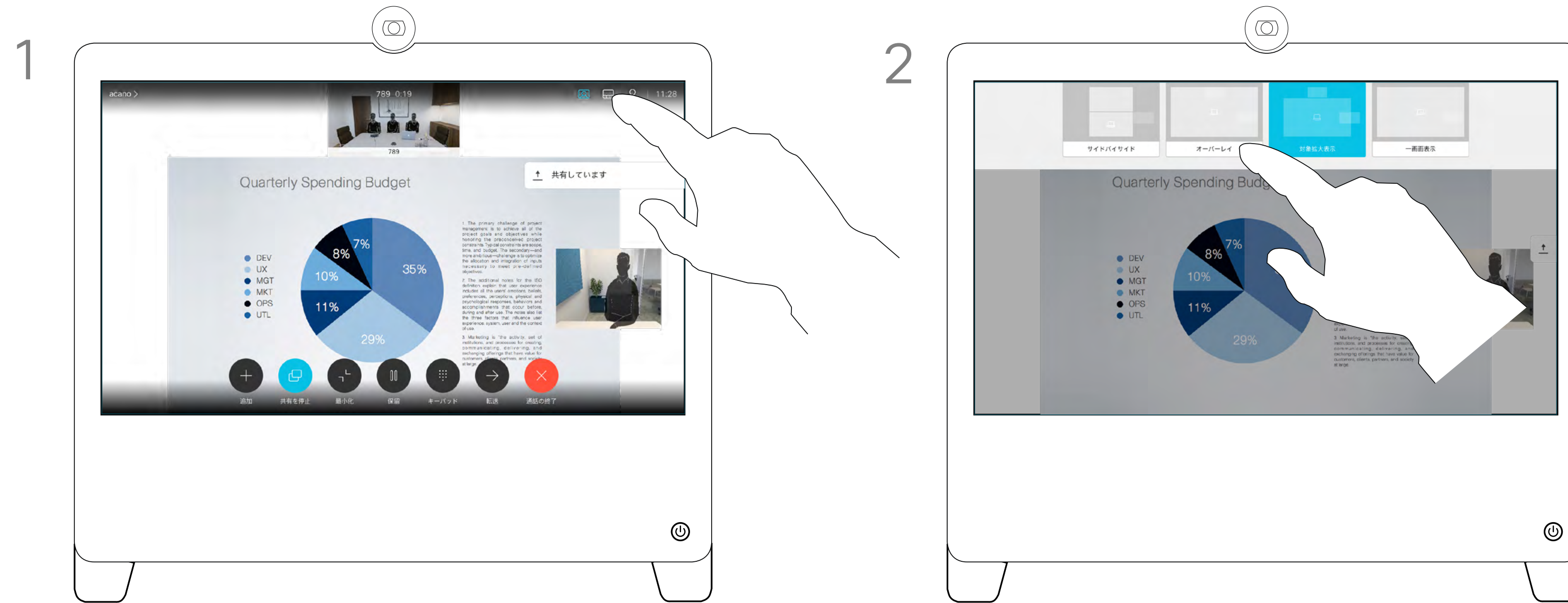
ヒント：システムのカメらは、ドキュメントカメラとして動作させることができます。図のようにカメラを傾げるだけで、システムの前にあるテーブルの上のドキュメントや他の物理的な物体を映すことができます。

カメラはその操作を認識し、自動的にイメージを上下反転します。したがって、期待どおりのイメージが相手に表示されます。



コンテンツ共有 通話中のプレゼンテーションレイアウトの変更

プレゼンテーション レイアウトについて



[レイアウト(Layout)] をタップして、図のようにレイアウト オプションを呼び出します。

好みのレイアウトをタップして選択します。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。通常使用できるオプションは、プレゼンターの表示あり/なし、およびプレゼンターを PiP(ピクチャインピクチャ)か PoP(ピクチャアウトサイドピクチャ)のいずれかとして表示する、というものです。

ご利用のシステムで有効なレイアウト オプションは、ここで示されているものと異なる場合がありますが、示されているレイアウトは常にいずれかを選択できます。



ミーティングのスケジュール

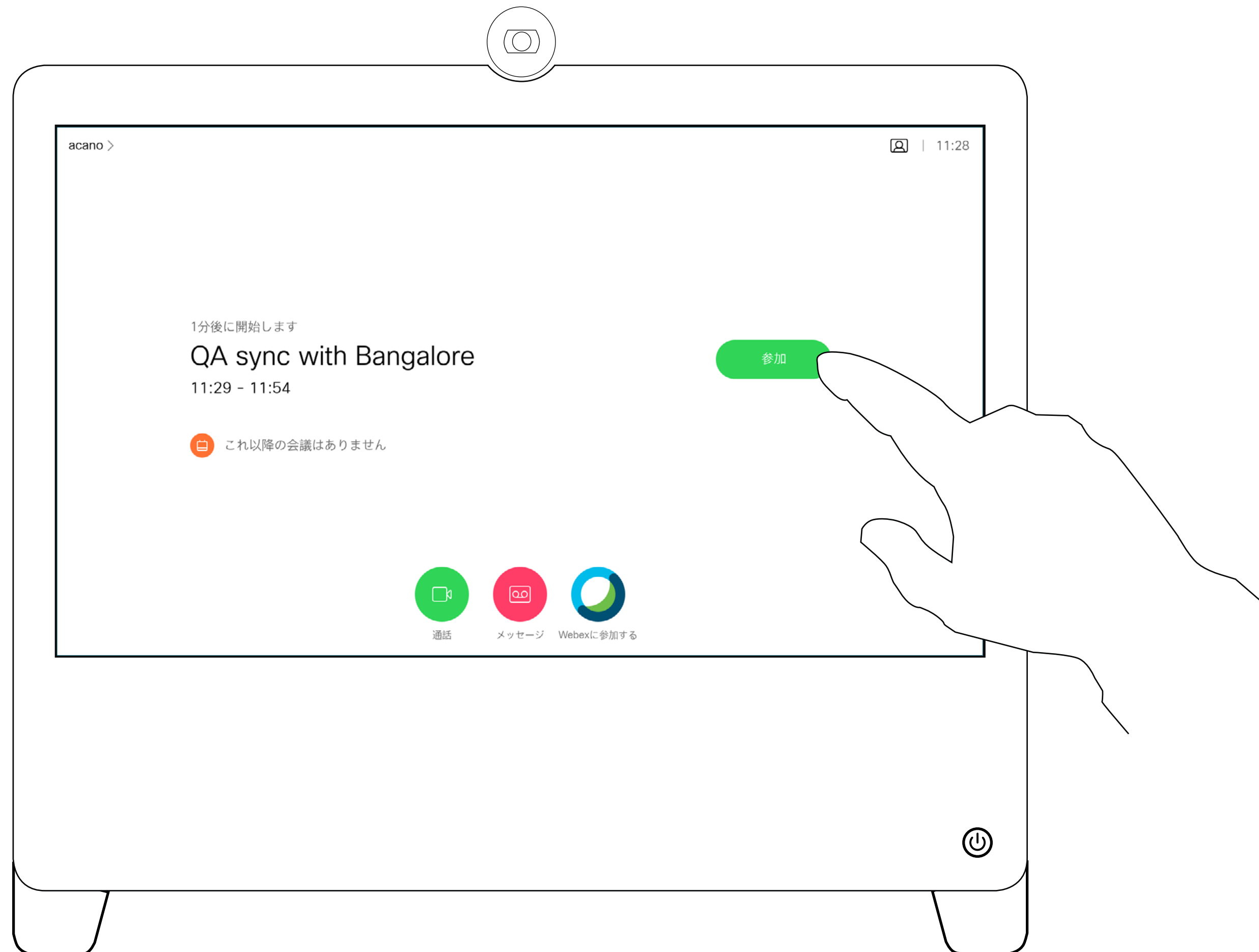
ミーティングのスケジュールに参加する

ミーティングへの参加

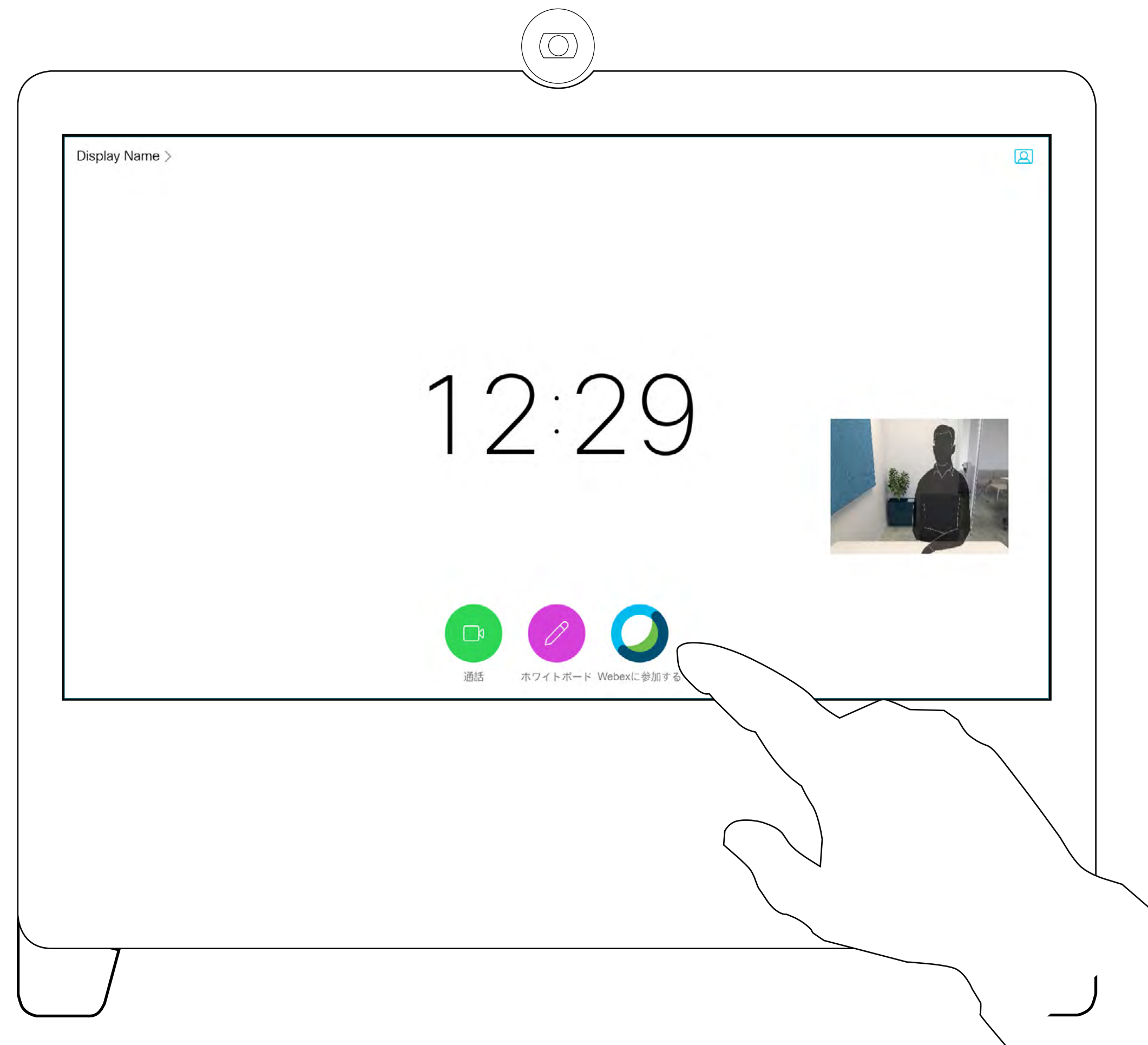
ビデオミーティングへをスケジュールすることができる管理システムに、ビデオシステムを接続することができます。スケジュールされたミーティングは左図のように表示されます。

ミーティングに参加するには **参加** をタップします。

ミーティングがすでに始まっても参加できます。



ミーティングのスケジュール
Webex 会議への参加

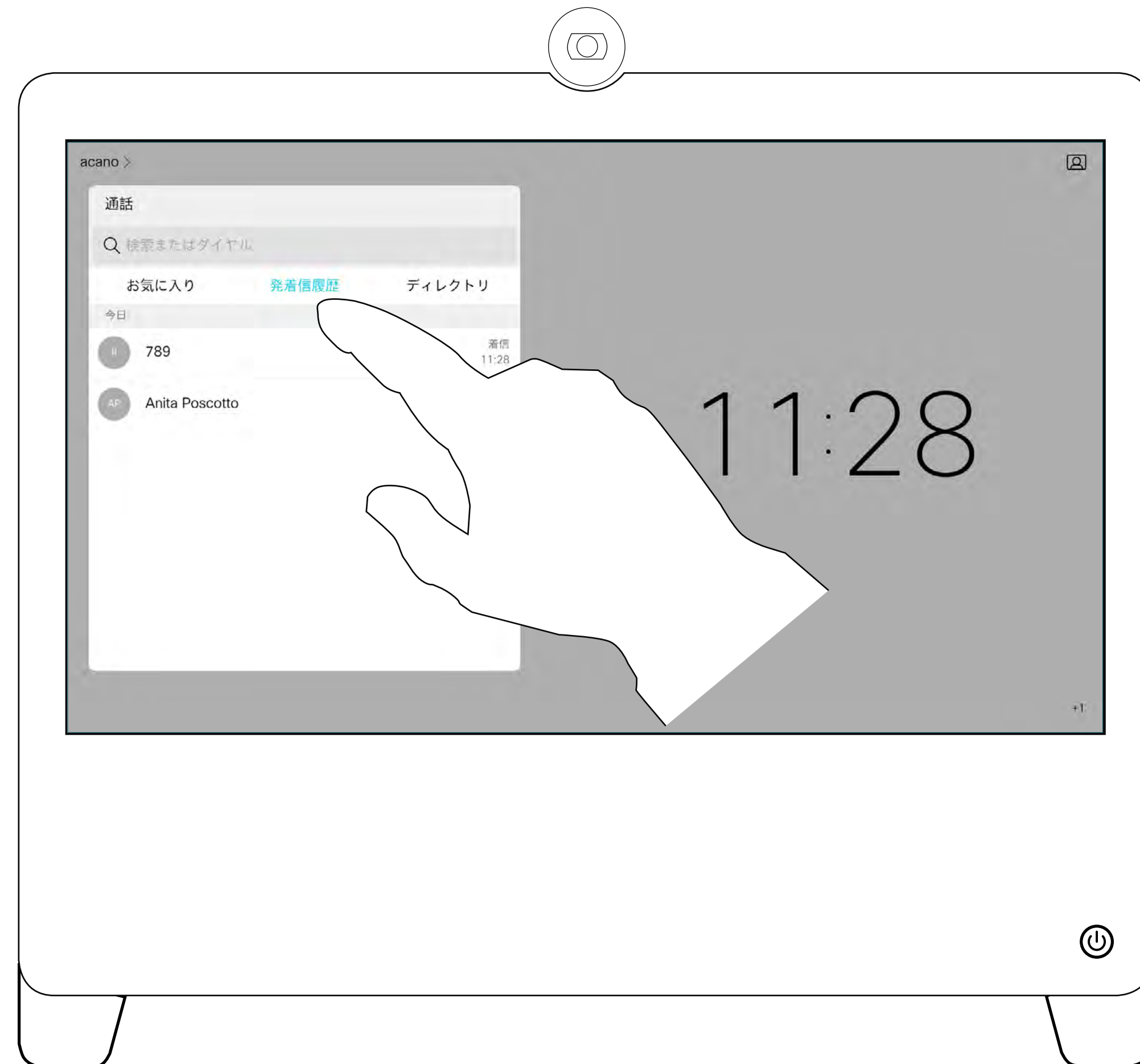


タップで Webex に参加招待で受信したミーティングの番号を入力するように求めるメッセージが表示されます。



コンタクト

コンタクト お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ



連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

お気に入り。これらの連絡先は、ユーザ自身で登録したものです。これらの入力は、通常、頻繁に通話する連絡先や、それ以外に素早く簡単な操作でアクセスする必要がある連絡先登録するものです。

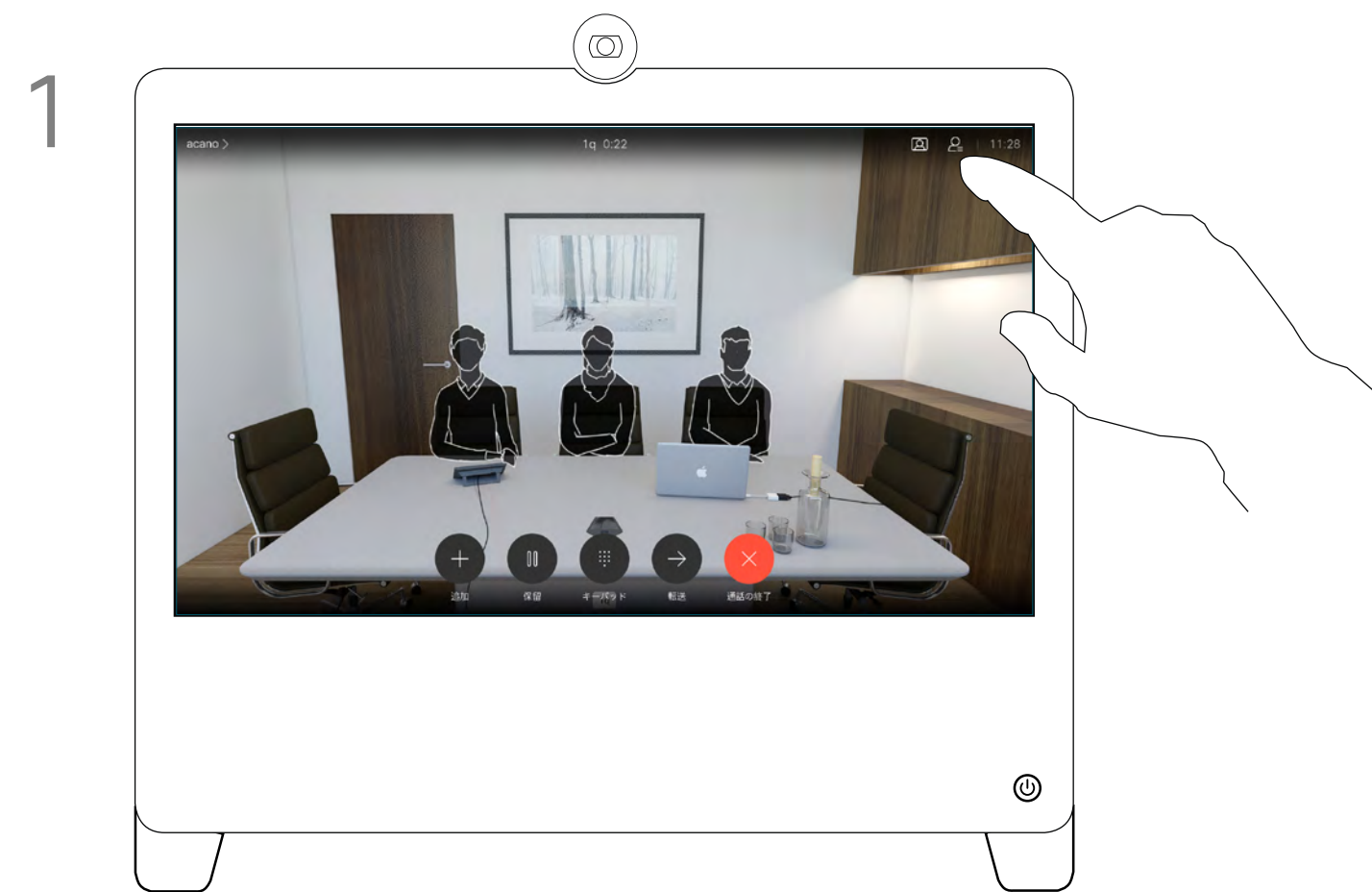
ディレクトリ は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

最近は、発信、受信、不在着信のリストです。

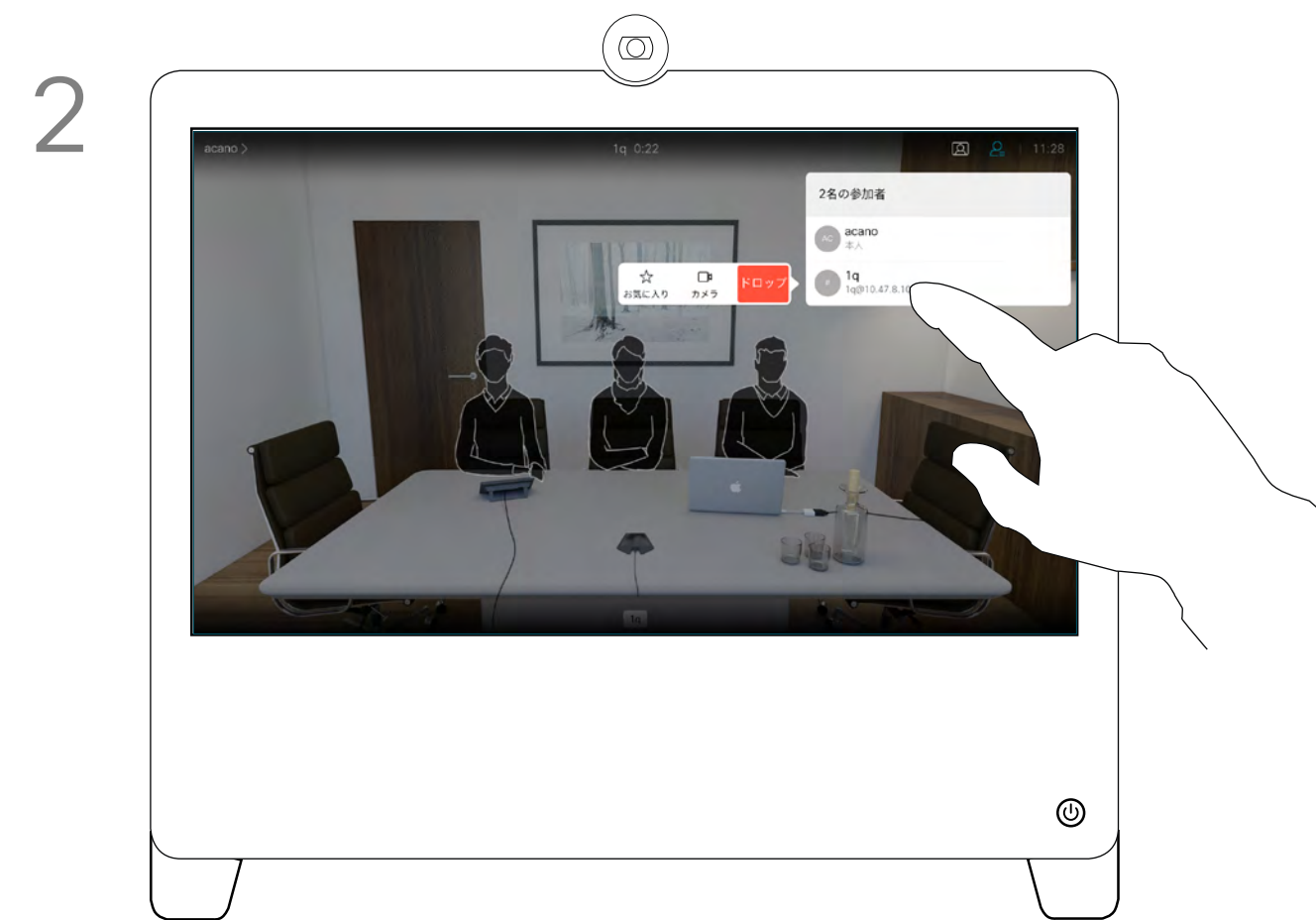
[発着信履歴(Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

コンタクト 通話中に [お気に入り(Favorite)] に追加する

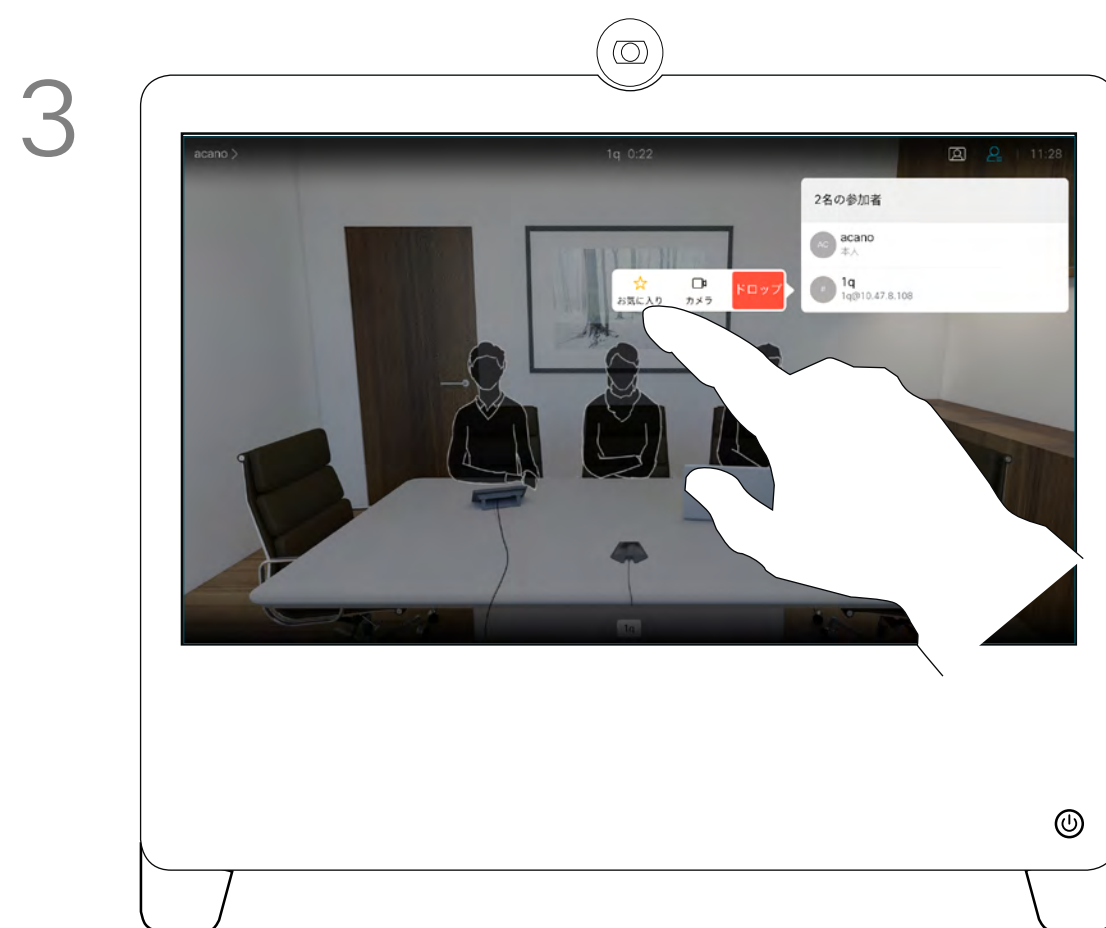
お気に入りについて



通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



[お気に入り(Favorites)] に追加する参加者をタップします。小さなメニューで、その参加者をドロップする(その参加を終了する)か、参加者をお気に入りのリストに追加することができます。



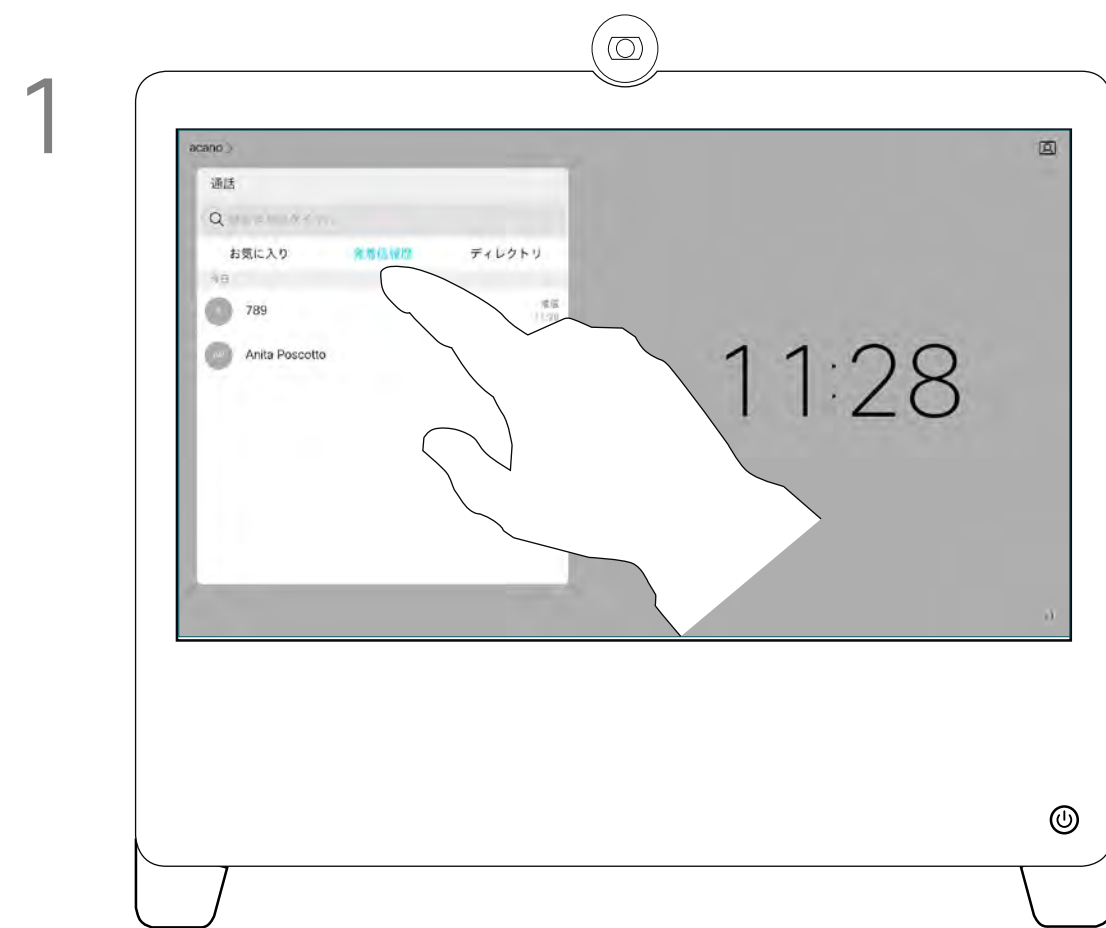
[お気に入り(Favorites)] をタップします。

お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

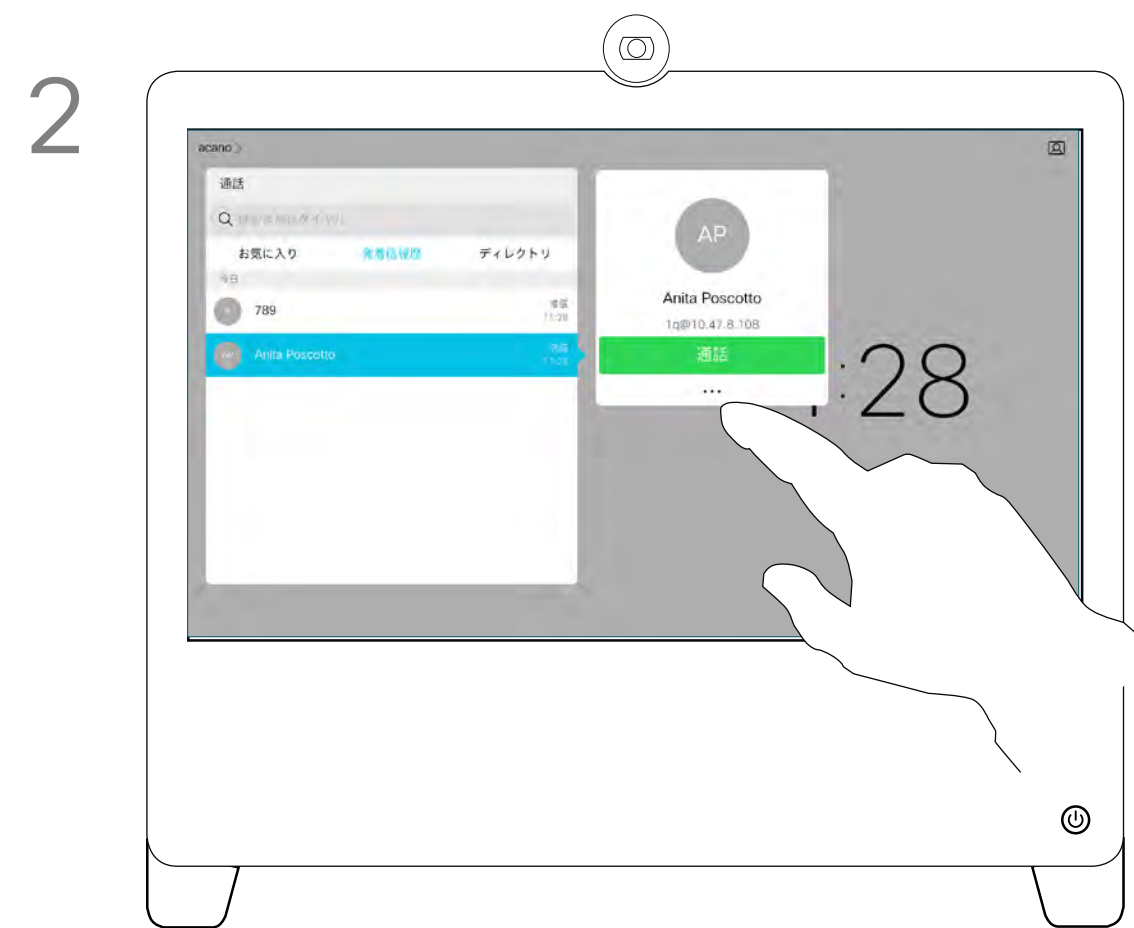
[お気に入り(Favorites)] は、[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

コンタクト 誰かを非通話時にお気に入りに追加する

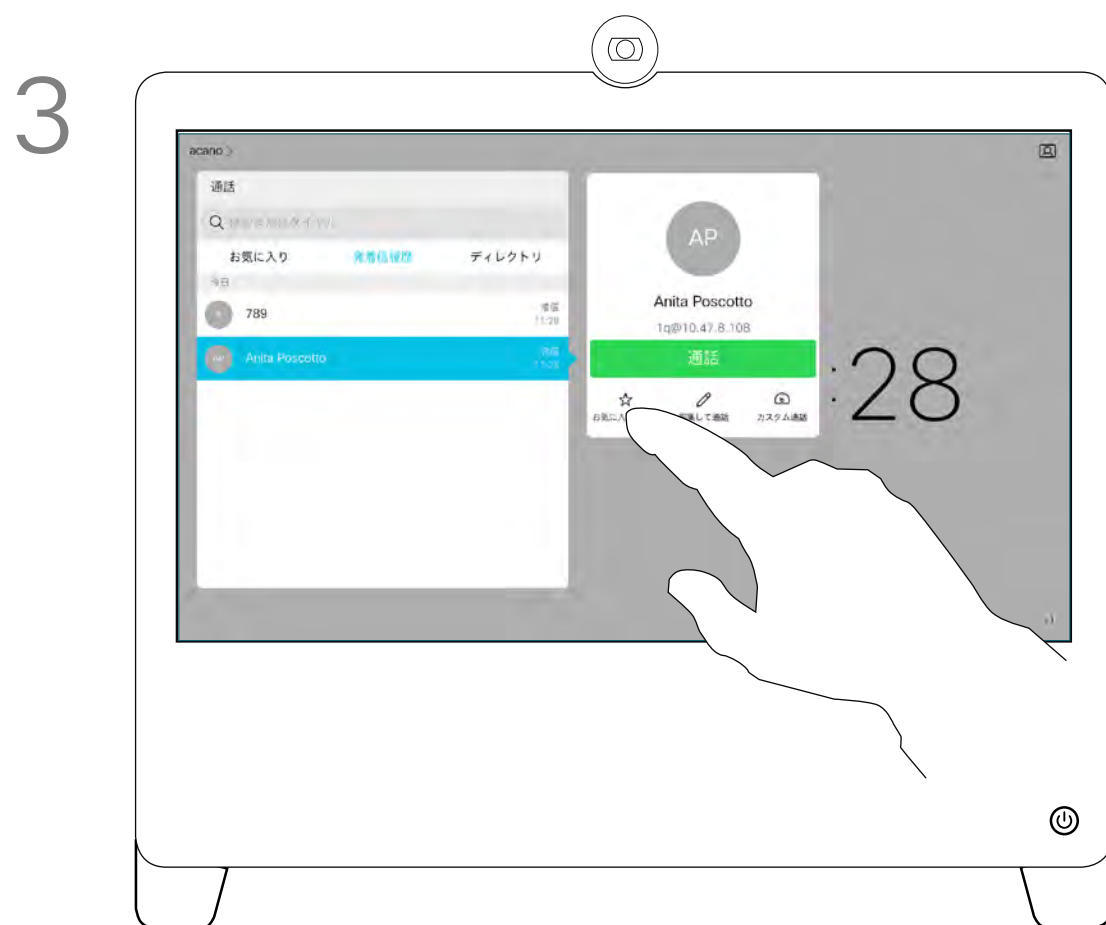
この機能について



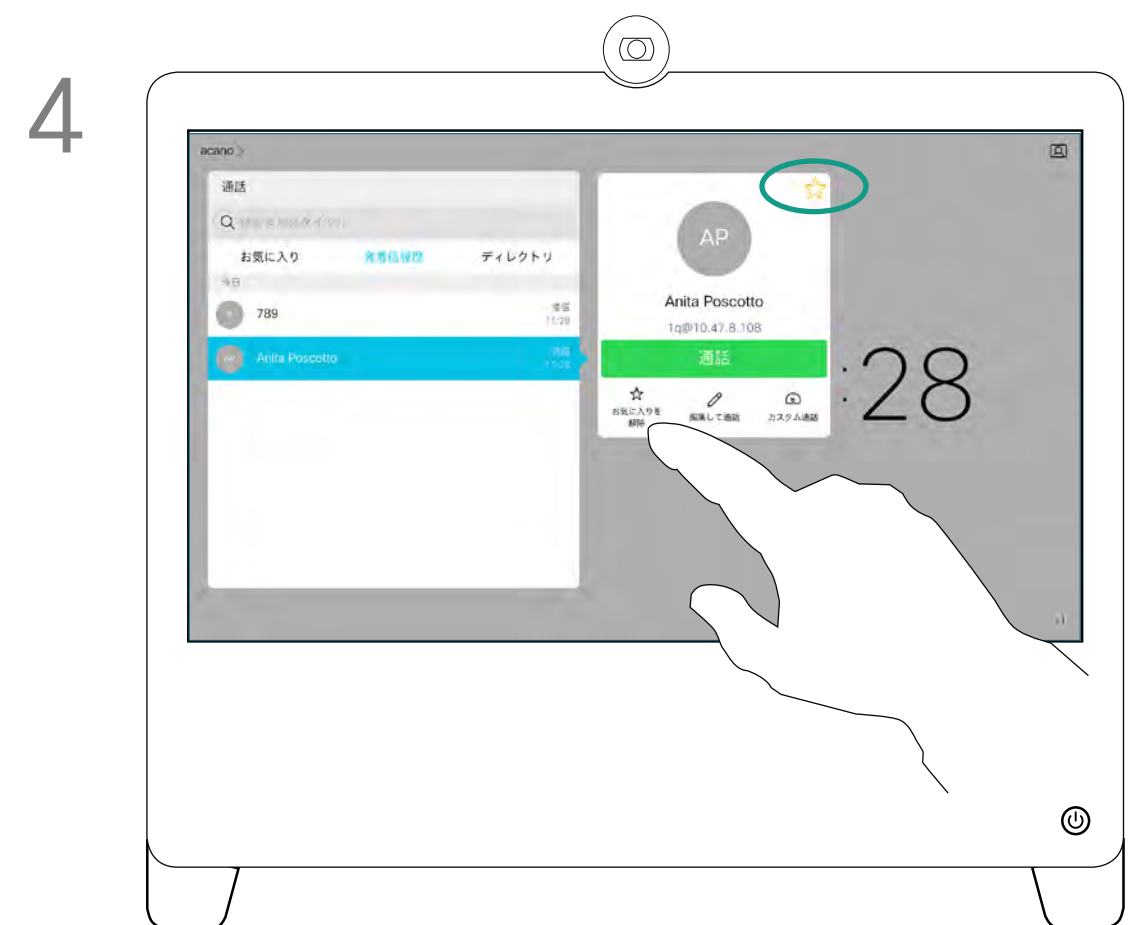
図のように、非通話時に [発信 (Call)] (図示せず) をタップして、[連絡先(Contacts)] リストを呼び出します。[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] をタップして、[お気に入り(Favorites)] に追加するエントリを検索します。



[お気に入り(Favorites)] に追加する参加者をタップします。上記の画面が表示されます。緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある、その他(...)アイコンをタップします。



[お気に入りとしてマーク (Mark as Favorite)] をタップします。エントリが [お気に入り(Favorite)] に追加されます。メニュー以外の場所をタップして終了します。



図のように、[お気に入り(Favorite)] が金色の星印で表示されます。[お気に入り(Favorites)] リストからエントリを削除するには、[連絡先(Contacts)] 中の [お気に入り (Favorites)] に移動して、この手順を繰り返します。

お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

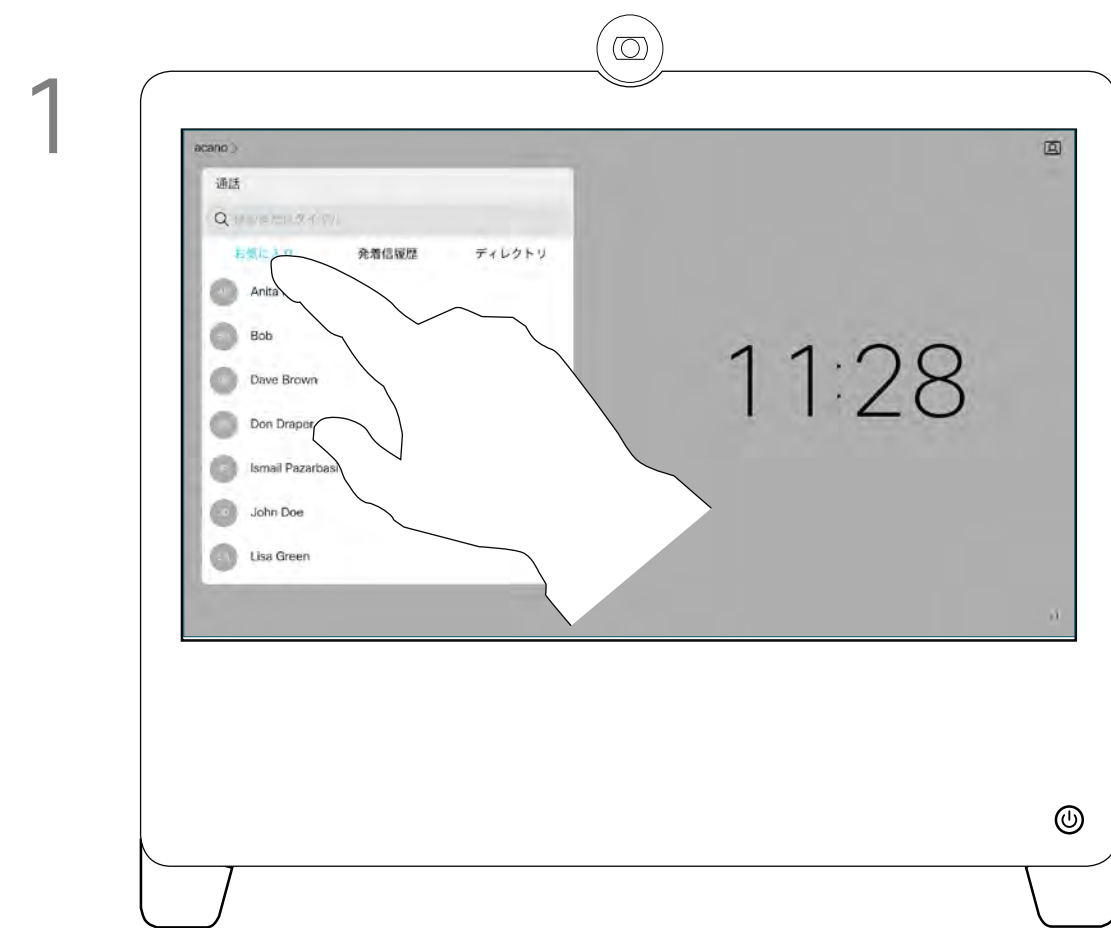
[お気に入り(Favorites)] は、[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

手動で入力して [お気に入り (Favorites)] リストに追加するには、名前かアドレスを [検索またはダイヤル(Search or Dial)] フィールドに入力します。詳細については、11 ページの「名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する」を参照してください。

コンタクト 既存のお気に入りを編集する

この機能について

この機能を使用すると、お気に入りをいつでも更新することができます。



図のように、発信(図なし)をタップして、[連絡先]リストを呼び出します。お気に入りのリストにアクセスするには、お気に入り をタップします。



[お気に入り] をタップして編集します。これにより、次のオプションが作成されます。ここで、その他をタップします。



お気に入りの編集をタップします。

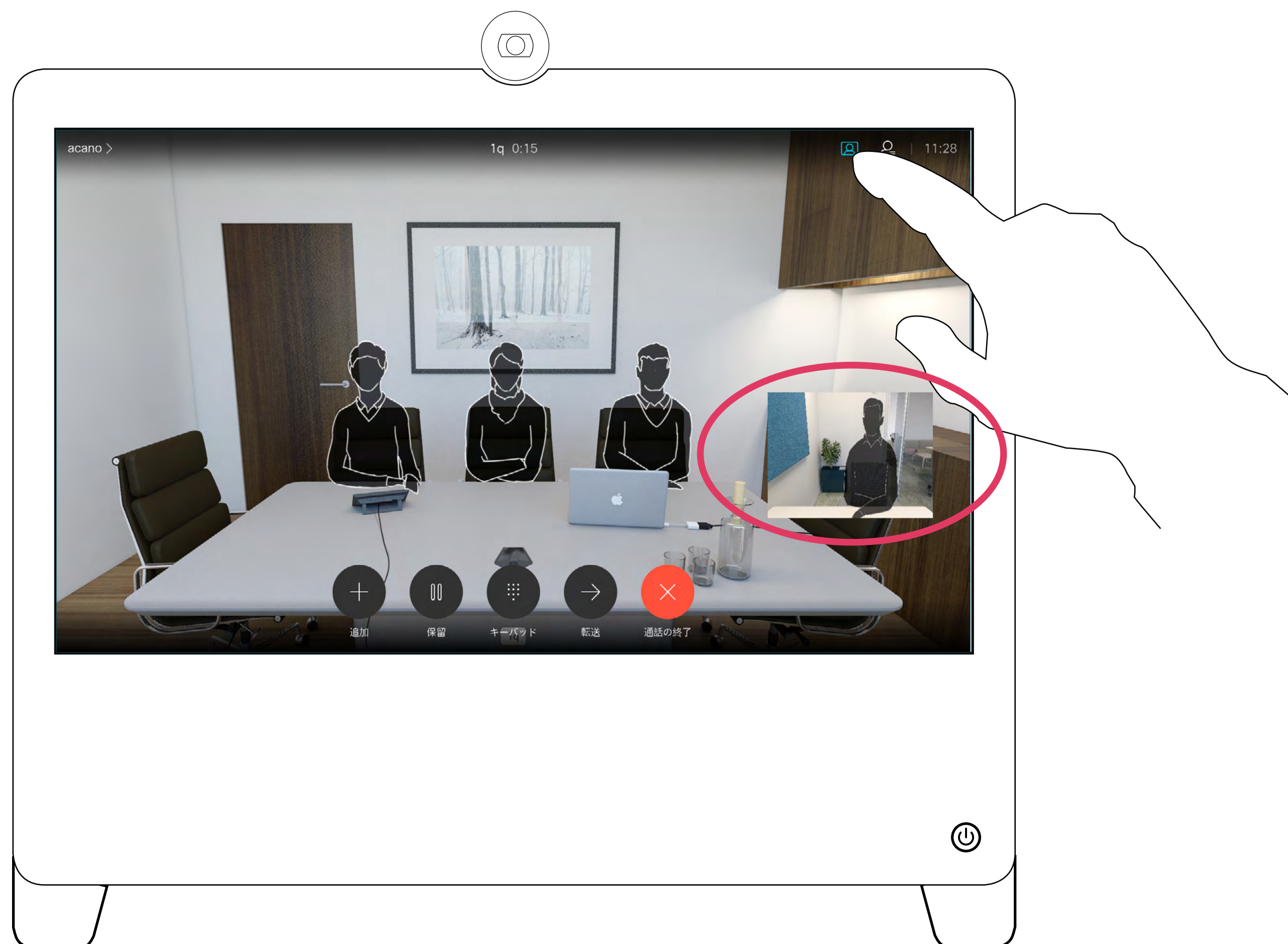


お気に入りのエントリを編集して、保存をタップして変更を適用し、終了します。変更を適用しない場合は、キャンセルをタップします。



カメラ制御

自画面のオン/オフを切り替えます



自画面とは

セルフビューには、ビデオシステムから他者に見える内容が表示されます。通常は、こちらが意図しているとおりに他の参加者に見えているかを確認するためにセルフビューを使用します。

セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

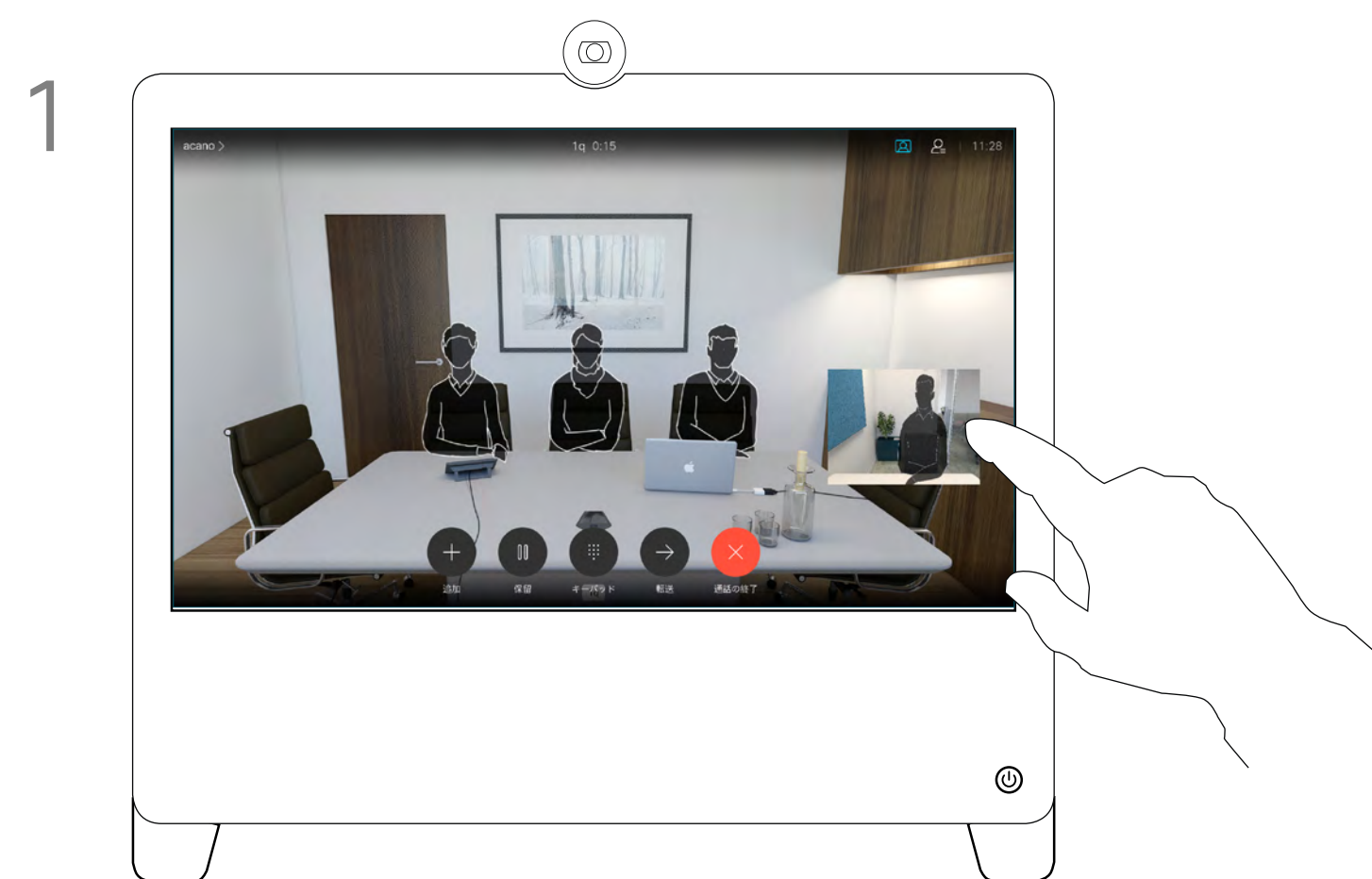
スケジュール中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示し続ける場合です。

左に示すようにタップして自画面をアクティブ化または非アクティブ化します。

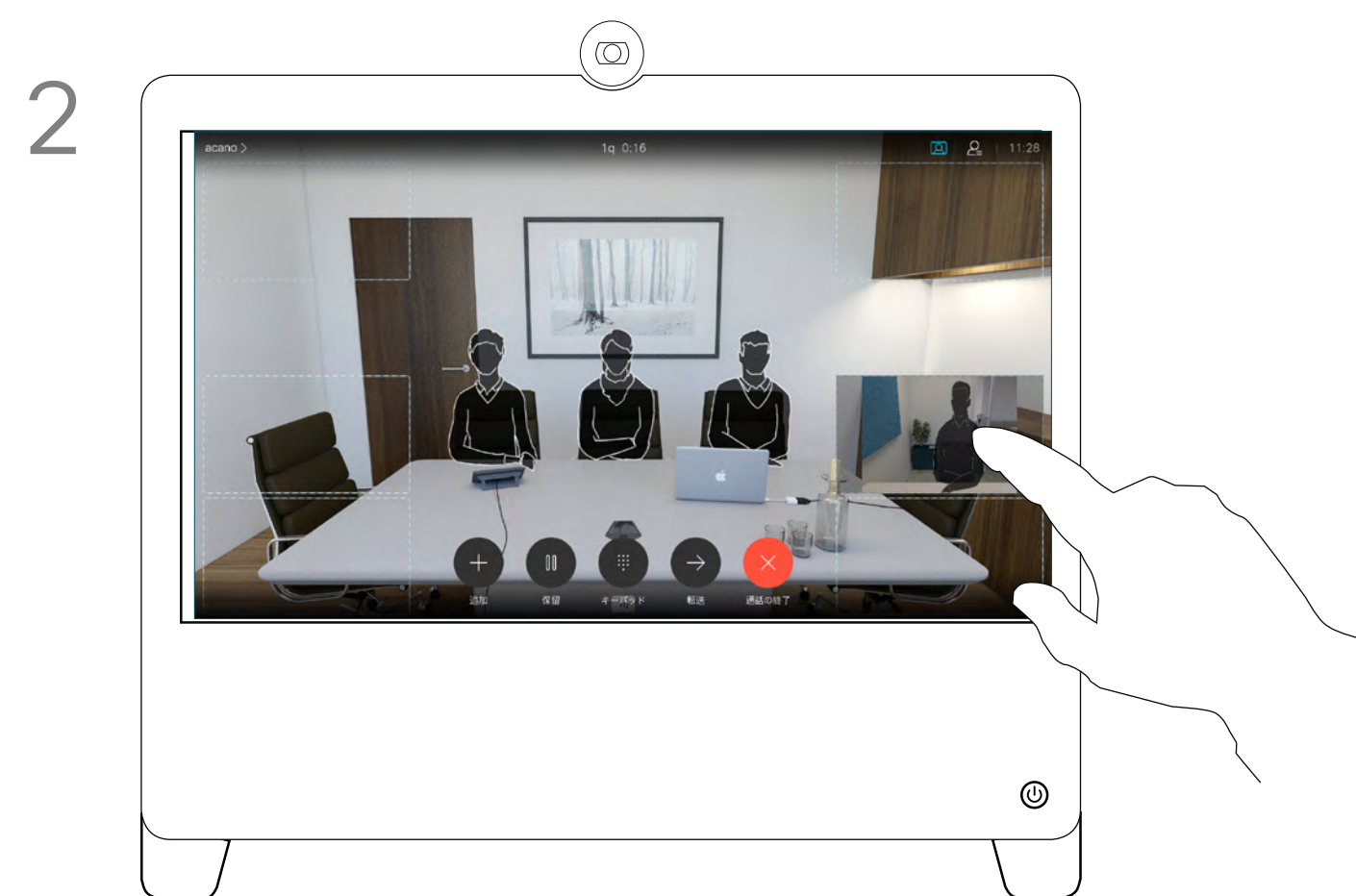
セルフビューの位置により、画面上の画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このため、移動できます(詳細については、次のページを参照してください)。

カメラ制御 (Camera Control) 自画面 PiP の移動

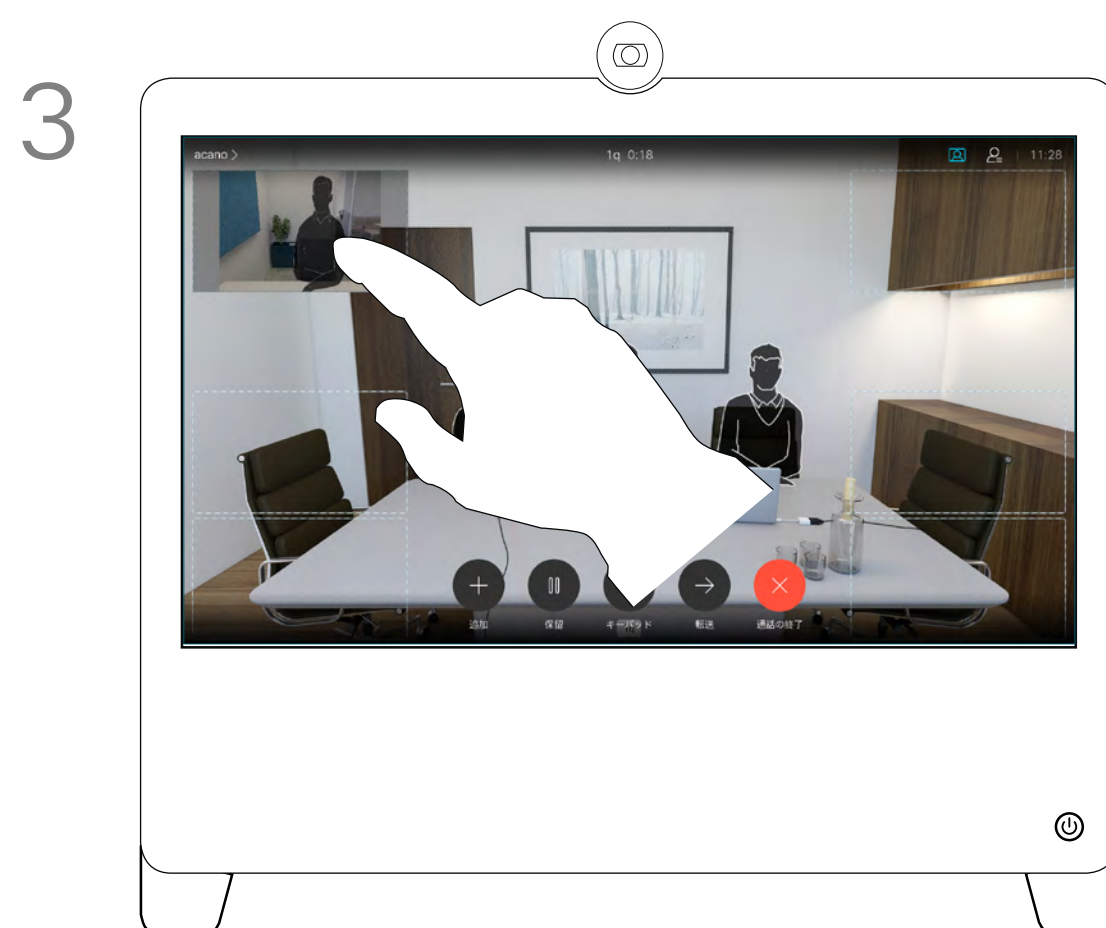
セルフビューを移動する理由



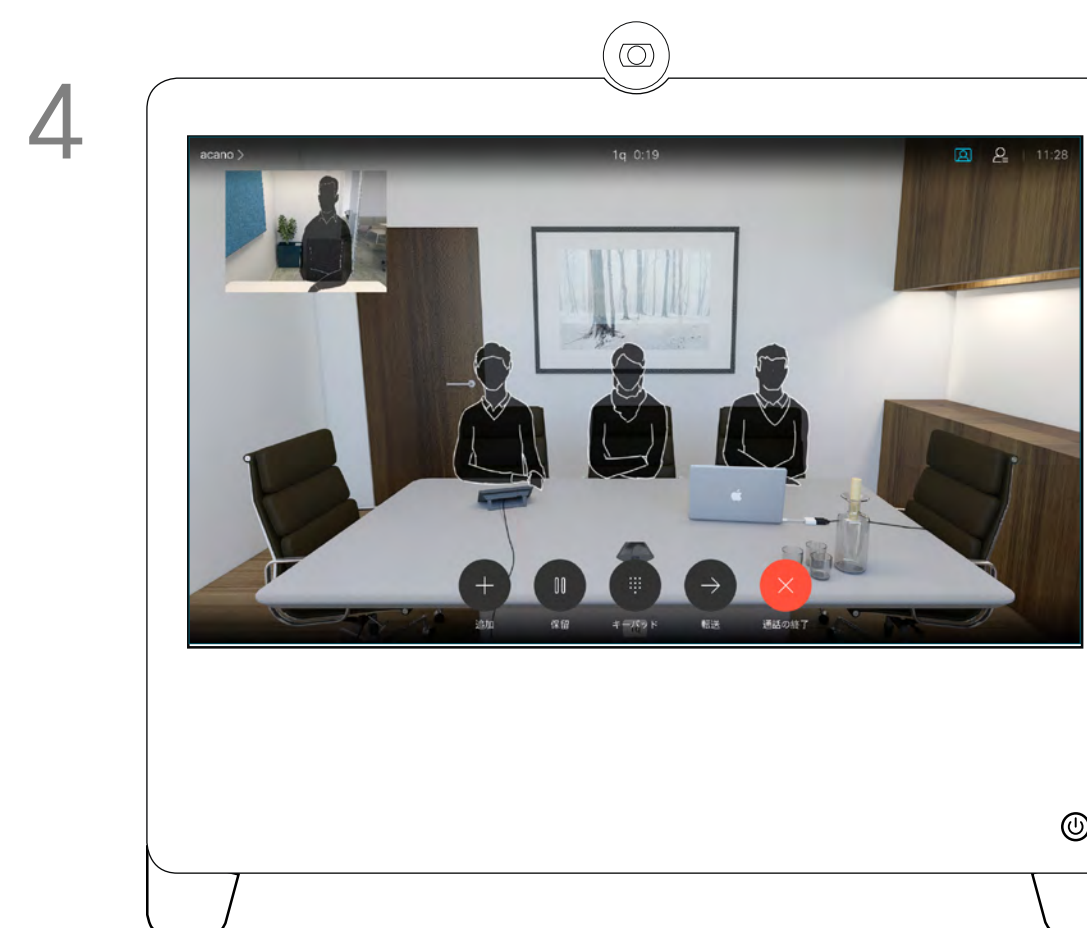
セルフビュー画像をタップして長押しします。



セルフビュー画像を表示できる別の位置が示されます。画像をタップし続けます。



画像を新しい位置にドラッグします(ここでは左上隅に表示します)。



画面から指を離して、画像を公開します。セルフビューの画像が新しい位置に移動しました。

セルフビューには、ビデオシステムから他者に見える内容が表示されます。通常は、こちらが意図しているとおりに他の参加者に見えるかを確認するためにセルフビューを使用します。

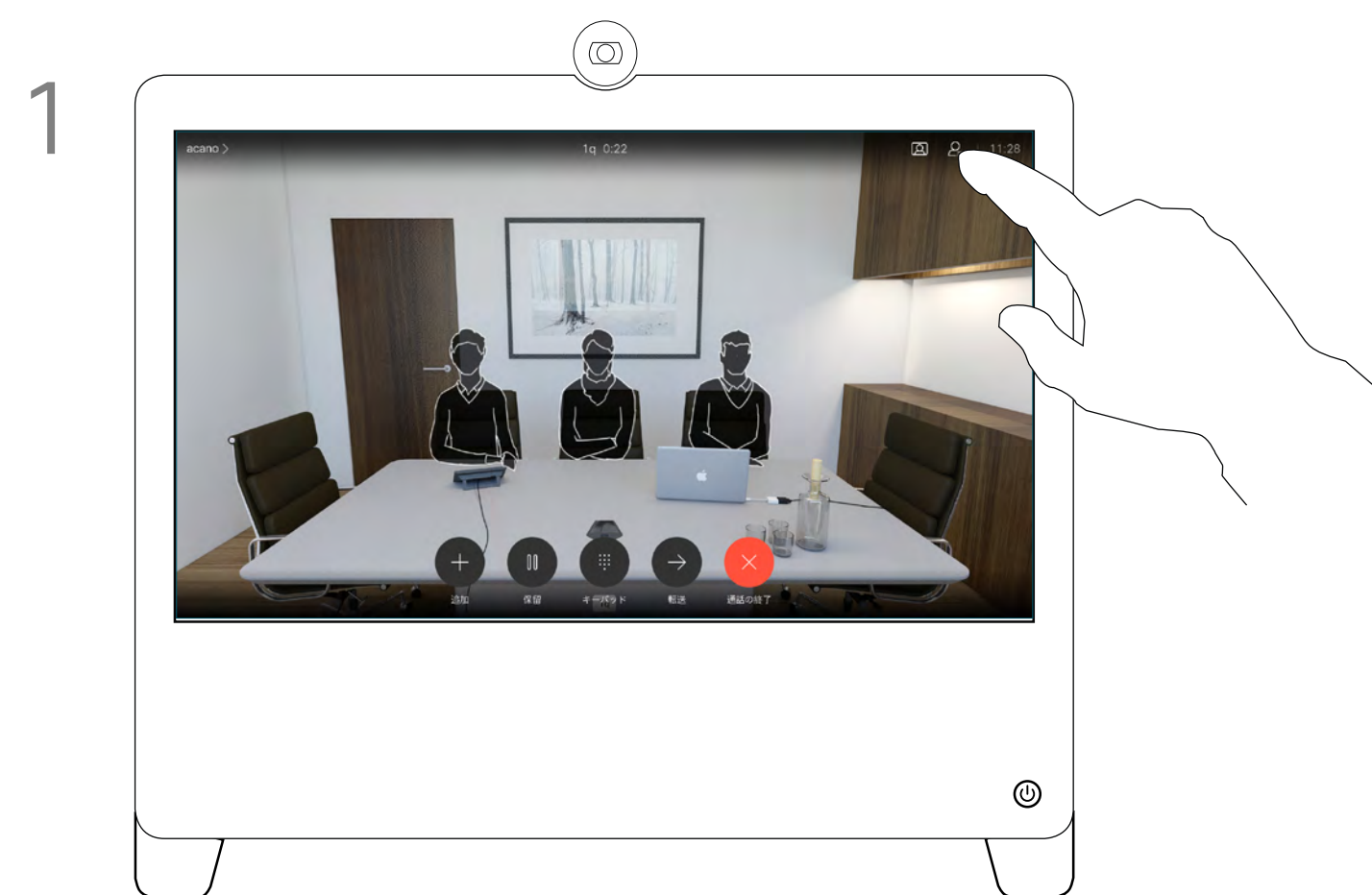
セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

スケジュール中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示し続ける場合です。

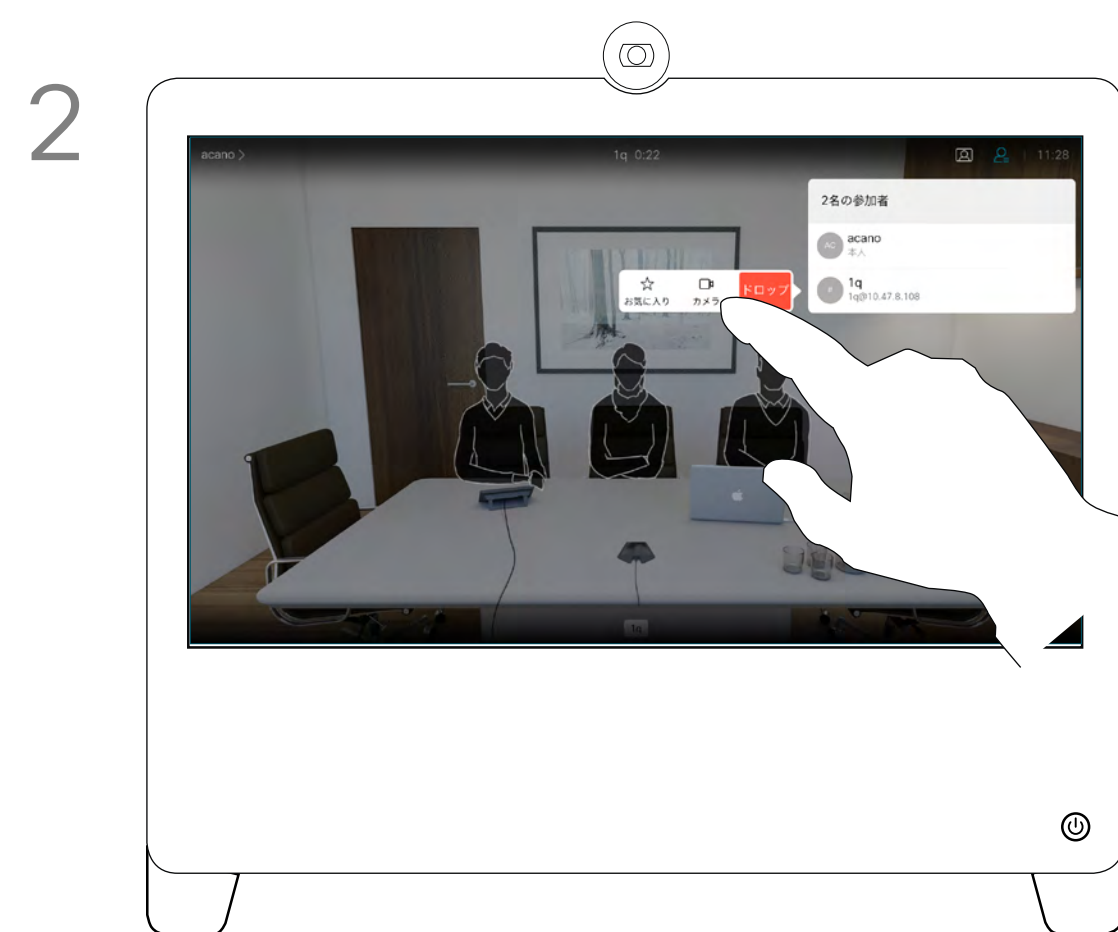
セルフビューの現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。これを行うには、セルフビューを移動します。

カメラ制御 遠端カメラ制御

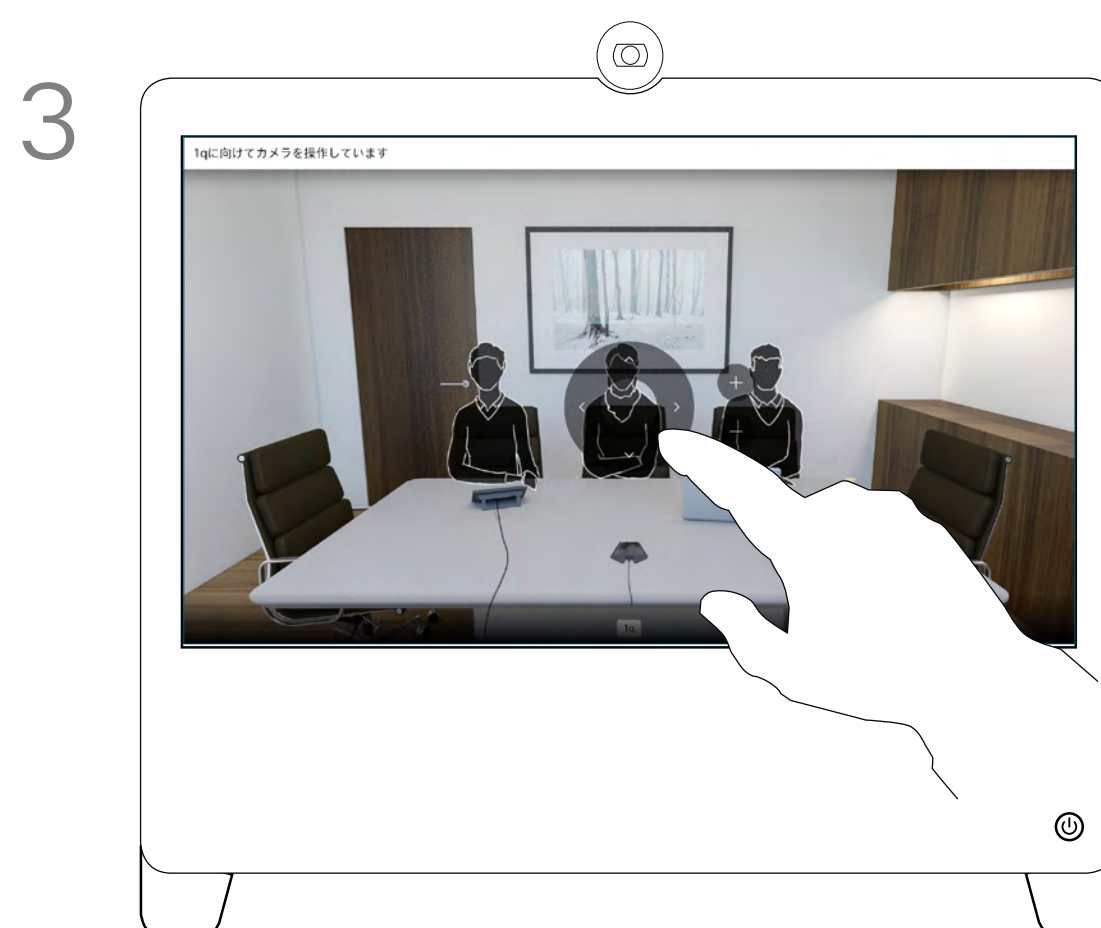
カメラ操作について



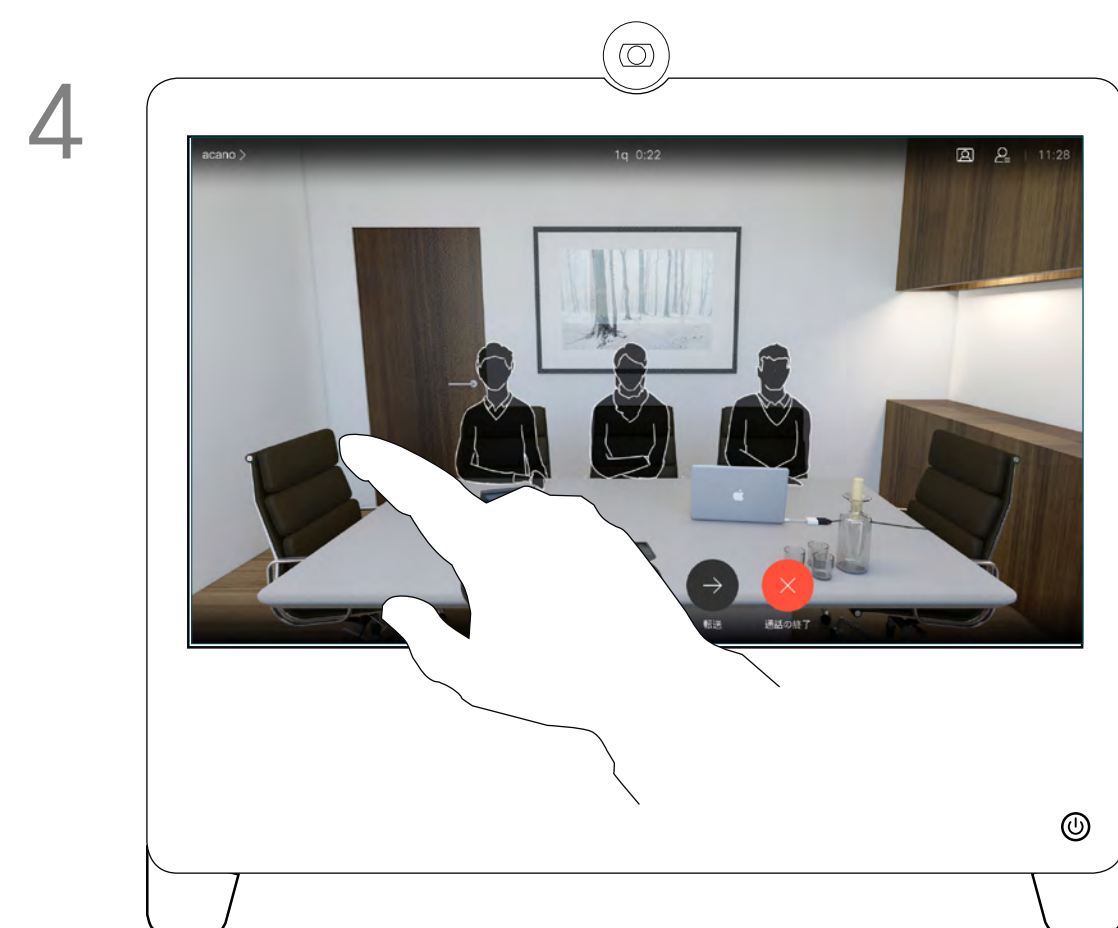
参加者アイコンをタップします。



カメラを制御する参加者をタップし、[カメラ (Camera)] をタップします。



パン、傾斜、およびズーム コントロールを必要に応じて使用します。



完了したらコントロールの外部の場所をタップします。

ビデオ通話中に、他の 1 つまたは複数のビデオ システムで遠隔から操作できるカメラが使用されていることがあります。

これらのカメラを自身のビデオ システムから制御することができます。これは遠端カメラ制御 (FECC) と呼ばれます。

遠端システムによってカメラトラッキングがアクティブ化されている場合 (この場合、カメラがプレゼンターを追跡し、表示します)、FECC のオプションは提供されません。



設定

設定

アクセスできる設定の概要

設定の概要

このメニューにアクセスするには、左上隅の小さなアイコンをタップしてから、[設定 (Settings)] をタップします。お使いの DX70/DX80 の状態の概要が表示されます。

ビデオのアドレス情報、IP アドレス
および MAC アドレス、SIP プロキシ、
および現在のソフトウェア バージョ
ンが表示されます。

Bluetooth を有効化/非アクティブ
します。

着信音を選択したり、着信音の音量
を設定できます。

コール サービスを選択します。

有線またはワイヤレス (Wi-Fi) 接続
から選択します。

システムを再起動します。

[初期設定へのリセット (Factory
Reset)] を実行して、[工場出荷時
のデフォルト設定 (Factory default
settings)] に戻します (非表示)。



